

育教の兒幼

號九·八第 號 月 九 卷三十三第



內校學範師等高子女京東
會協園稚幼本日

月刊

一冊五拾錢稅錢
 半年前金貳拾八錢
 一年前金五圓六拾錢

九月五日發行 十月號

編輯顧問

東京女子高師幼稚園主事

倉橋惣三

◎子供にはいつも新秋のさわやかな気分を充ちあふれてゐるやうな心身を持たせたいものです。一日に一日をのび／＼と清くほがらかに楽しむ／＼し、しかも強く過ごさせたいものです。

◎「ゴドモノテンチ」はこの理想の下に、幼児教育の核心をかたくつかんで、編輯に苦心を重ねて居ります。その爲か、心ある方々から、毎號過分の賞讃のお言葉や、激励のお手紙をいたやみます。

◎十月號は、子供の健康運動號です。「健康第一」をモットーとして、しかも興味たっぷりの美しい多くの畫と面白い多くのお話とが満載してあります。

◎知らず識らずの間に、子供の潑刺たる気分と、秋空のやうなすみきつた心とを興へるものは、本誌です。子供の爲になくてならぬ、最高級幼年雜誌「ゴドモノテンチ」は、全園書店にあり、早くお求めの上、皆さんの愛児が、うれしさうなお顔を、ごらん下さい。

編輯顧問

東京高等師範圖書科主任

板倉賛治

◎表紙	清水良雄
◎観艦式	清水良雄
◎栗	石井柏亭
◎テニス	吉澤廉三郎
◎ラクダ	清水良雄
◎防空演習	伊藤孝
◎障碍物競争	武井武雄
◎地球ころがし	吉澤廉三郎
◎カソリン(お話)	北原白孝
◎十三夜	伊藤孝
◎銀座の鈴蟲(童話)	熊谷太郎
◎鳴子ばやし(童話)	與田準一
◎牛若辨慶	森山三郎
◎ライオンの仔	時雨音羽
◎おかめさん競争	森山三郎
◎又リエ	中野新
◎子供の繪	吉澤廉三郎
◎メンタルテスト	本田庄太郎
◎粘土細工	板倉賛治
◎曲譜振り(鳴子ばやし)	岩岡と枝
◎第一附録 漫畫飛行馬	武井武雄
◎第二附録 手技チヨコレット袋	中山晋平
◎お母様の頁……童話……其他……	前川千帆
	玉置米次郎

東京市本郷区駒込一丁目三〇番地
 電話 五五九四
 小石川五三〇番地
 本郷区本町一丁目一〇番地
 電話 五五九四

發行所 子供天地社

兒童問題研究

定價料 20 セン 九月 號

申込次第 研究會規約・研究コース
及雜誌見本送呈(郵税2錢要)

★七月創刊以來の我々の業績は今や校外教育・託兒所教育の唯一の理論的實際的研究雜誌として、偉大なる暗示と貢獻を我が文化教育の領域に拓きつゝある。見よ一分の妥協をもゆるさぬ眞摯と創意の内容を！

▼附録 ● 子供讀物新聞 (童話・科學記事滿載)

原稿 募集 應

校外教育研究のために…編輯部
 (實演法付)
 童話るり色の壺……………西川武治
 (演出法付) 佐世保保立校
 兒童劇 ビツコの少女……………品川太一
 小兒 學校 校外教育案……………小椿誠一
 東京 駒繪校

校外教育資料(2)……………
 心理學最近の諸潮流……………
 新學校參觀記 (兒童の村小學校の巻)……………

★兒童學入門(講座第三回)……………ムコフニ
 ★兒童映畫について……………増谷達之輔
 內務省映畫檢閱官
 ★兒童文學としての神話・傳説……………松村武雄

活動會研究 少年自殺の調査……………兒童社會問題研究部
 夏期施設の兒童の組織問題……………兒童組織問題研究部
 幼兒々童のうたに就て……………兒童藝術研究部
 幼兒の作業教育……………託兒所研究部

兒童問題研究 手引 介紹 十一年 大セツルメントの



號九・八第 育 教 の 兒 幼 卷三十三第

—(次 目)—

口 繪 夏期講習會・龍宮城・箱の動物 自らを新たにする努力(卷頭言)	倉橋惣三(一)
保育の眞諦並に保育案、保育過程の實際	倉橋惣三(二)
アメリカの幼年圖書(3)	松原至大(七)
十月の觀察	堀七藏(七)
日本幼稚園協會夏期講習會	
開會及び講師の言葉	
開會の辭	倉橋惣三(三)
講師をして	淡路圓治郎(六)
プロゼクト手技製作について	及川ふみ(六)
幼児の心にかへりて	戸倉ハル(九)
會員感想	(三)
講習會記	(一七)
講習會に於ける質疑應答速記	(二三)

武藏野音樂學校長 福井直秋先生著

(刊新)

兒童唱歌七十二曲集

菊版洋裝美本
箱入全一冊

定價金壹圓貳拾錢

送料金拾錢

兒童唱歌の基準!! 待望の名曲集漸く成る。

俄然大好文註
評好到殺文註
!評!す

こつき・わかくさ・ささおね・みいちやん・ぶらんこ・たんぼぼ・シヤボンだま・あをがへる・ひよこ・さよなら・つばき・さくら・日の出・すずめのおやど・子ねこ・まりなげ・はしれ・國の祝日・ねむれ・青空・野ぎく・朝濱邊あるき・つつじ・山路・ねむりませう・月・兵隊さん・風車・ご門の電燈・みなしご・冬が来た・氷すべり・蝶々・川遊び・朝風・鯉のぼり・雲雀・池の緋鯉・登山・子雀・星のひかり・山家のちいさん・月のひかり・霧・雪・春景色・田舎道・琵琶湖・夏の間・盆踊・涼しき森・汽車の旅・残れる秋草・小さき星・落葉・郊外の秋・港のにぎはひ・懐しの女・冬枯・花見・春風・小舟よ・あやめ・松風・懐し我が母・川邊の柳・うれしや我は・清き小川・冬の夜・親の恩

日音
本樂
教協
育會

新尋常小學唱歌伴奏及解説

エホンシヤウカ春夏秋冬の巻

全六冊
定價各六拾錢
送料六錢

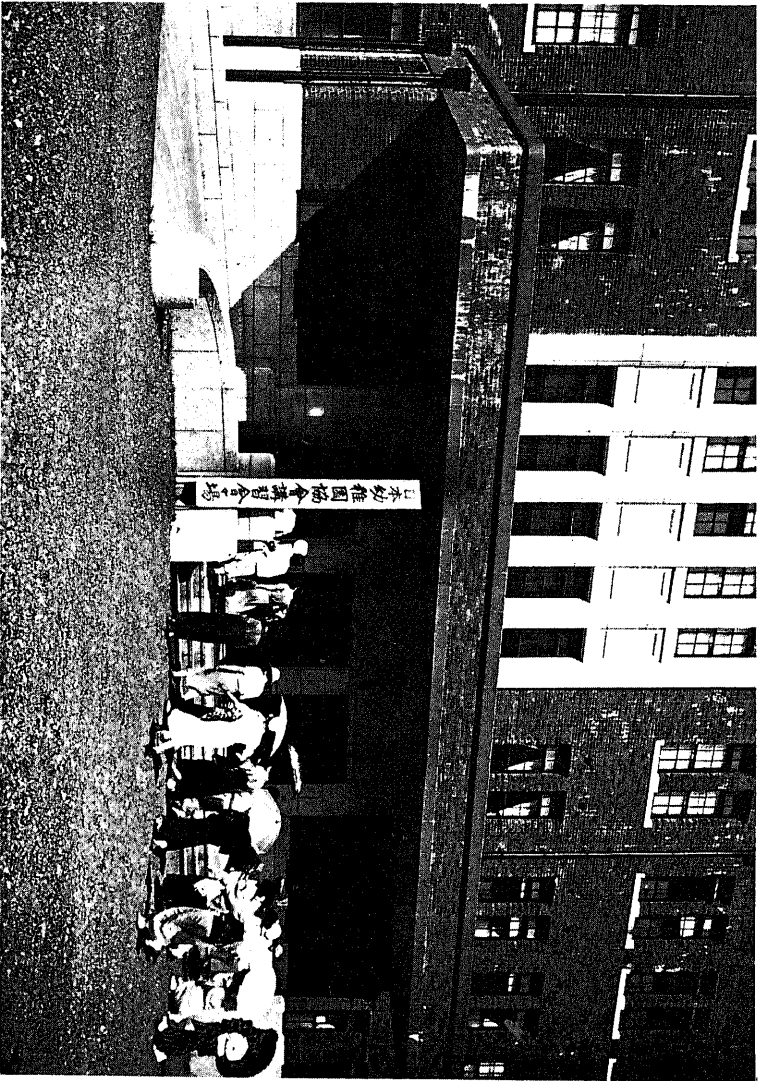
新高等小學唱歌伴奏及解説

子供の舞踊

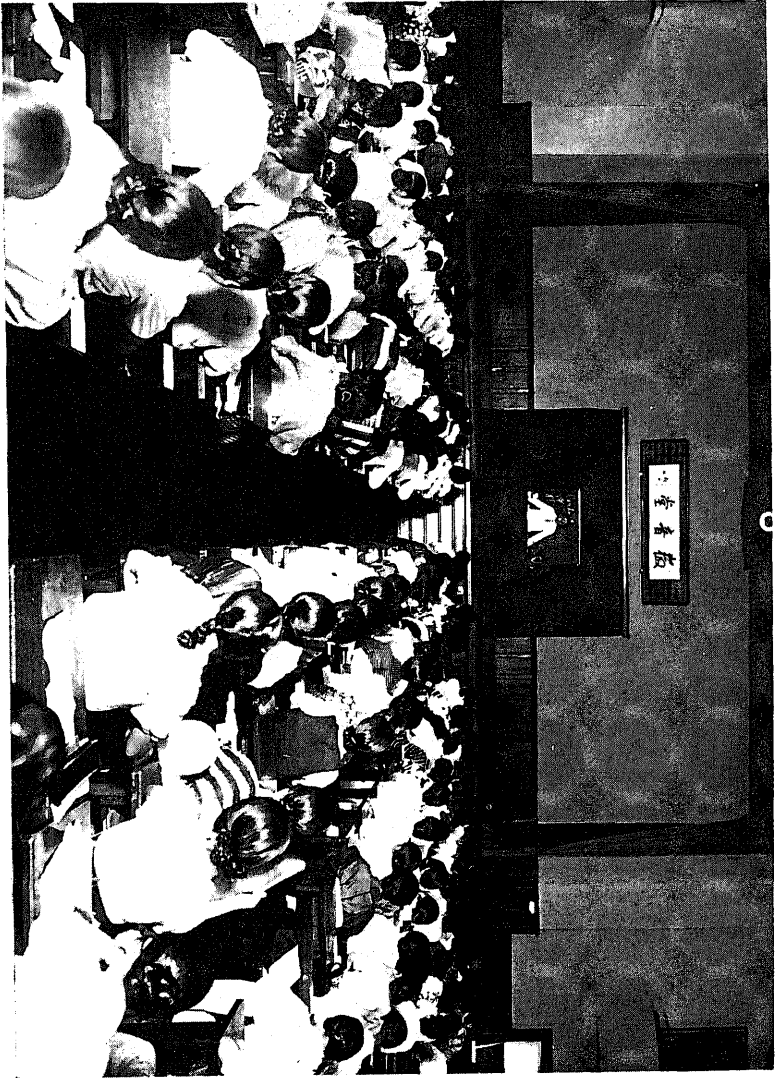
卷一・二低學年用各六拾錢
卷三・四高學年用各金一圓
送料八錢

全二冊
定價各九拾錢
送料六錢

東京市神田區 音樂教育書出版協會 電話 〇七七八〇 三三三



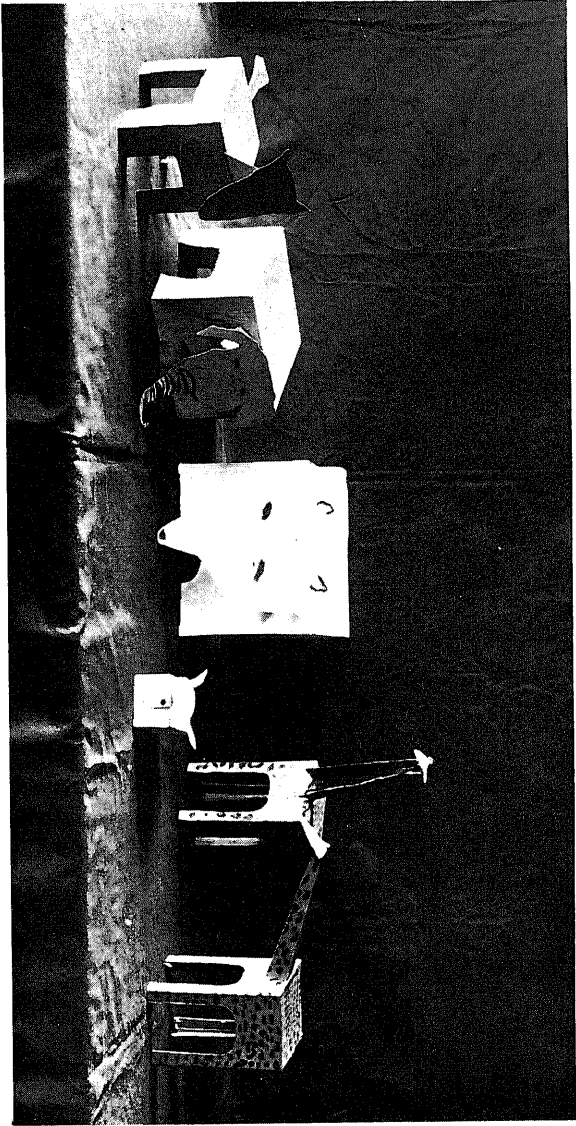
(關女校學範師等高子女京東) 口入場會會習講期夏



講 習 會 場



龍宮城 (附屬幼稚園)



箱の動物(附幼稚園園)

幼 兒 の 教 育

昭 和 八 年 九 月

自 ら を 新 た に す る 努 力

世に生命なく力なきもの情性の如きはない。それが假令よき内容をもつてても、弾力を失つては無力である。況んや、情性化するまでに古びたものは、その内容に於ても、必ず考へ直しの時期に迫られてゐる。

よくもまあ舊習依然としてゐられると思ふ。よくもまあ無再考がつゞけられるものだと思ふ。中味のよし悪しよりも、その餘りの定型に傳襲性に驚く。これでは、先づ誰れよりも子ども達がたまるまい。硬化と弛緩は子どもの大嫌ひなものはないからである。

ごむが黴臭くこち／＼に固つて仕舞つてゐる毬、氣が抜けてたるんで少しも弾づまなくなつて仕舞つてゐる毬、流石に子ども／＼うんざりさせられるであらう。

古ぼけたごむ毬は取りかへてやればいゝ。情性化した教育は内から弾力を盛りかへすほかはない。教育は子どもに與へるものである。自らを新たにす努力を缺いた教育を與へるほど、子どもに氣の毒のことはない。むしろ無殘である。

幼稚園保育の眞諦、並に保育案、 保育過程の實際

— 講習會講義速記 —

倉 橋 惣 三

一、幼稚園保育の眞諦

- 一、教育に於ける目的と對象
- 二、幼兒生活と幼稚園生活形態
- 三、生活へ教育を
- 四、幼兒生活の自己充實
- 五、幼兒生活の充實指導
- 六、幼兒生活の誘導
- 七、幼兒生活の教導
- 八、幼兒生活の陶冶
- 九、幼兒の個性
- 十、幼稚園に於ける保母の位置

二、保育案の實際

- 一、無案保育
- 二、保育案の意義
- 三、誘導保育案
- 四、保育案の據りどころ
- 五、保育案と保育項目
- 六、保育案の立案度及徹底度
- 七、保育案と自由遊び
- 八、保育案と保母
- 九、保母の創造性
- 十、保母の生活性

三、保育過程の實際

- 一、幼稚園の朝
- 二、自由遊びから仕事へ
- 三、個、分團、組
- 四、個の時間割
- 五、生活態度による分團の組合はせ
- 六、流れゆく一日
- 七、流れの向け方
- 八、生活の偶發性
- 九、日々の實際生活の尊重
- 十、おかへり

一、幼稚園保育の眞諦

一、教育に於ける目的と對象

今日は先づ此處に掲げました題目に就いてのお話を致して行き度いと思ふのでありますが、その第一は幼稚園保育の眞諦を題して居ります。これは皆様に對して今更ら、幼稚園保育を云ふものが如何云ふものであるか云ふ事をお話申上げる必要はないのでありますが、私の考へて居る幼稚園保育を云ふものが、こう云ふ風に考へられるのではないかと云ふ事を申し上げ様と思ひます。

從來も色々理論的な方面なごから申上げて居つたのでありますが、もう一度此處に簡單に申上げてみたいと私自身が希望致して居るので、そこで幼稚園保育の本當を云ふものは一體如何云ふ處にあるだらう、これに就きまして色々の方がそれ々の立派な御意見を昔から今日迄、日本のみならず外國に於きましても、持つてお出でになるのでありますが、その色々の考へ方が出て参ります根據は二つあるを考へて居ります。一つはその方の人生觀を云つた様なものから、ある自ら違つた考が出て來る事は當然であります。申す迄もなく、教育はその人の人生觀を離れないものでありまして、従つてそれ々の方が御自分の人生觀に基いた幼稚園をそこに御實驗になる事は當然であるを考へます。でその人の人生觀に基きます相違を云ふものは、これは外の人からはどうする事も出來ないのであります。その人の人生觀を、他人が彼は申しますのは所謂人生觀その問題の中で互に關係する事は出來るのでありますが、教育の中に持つてゆきましてはそこまで深い事は出來ないのであります。そこで若しもその意味からの違ひが出て居りました場合には、これは我々お互に、相手の人生觀を尊重しまして、餘計な異議を差挟んだり、勝手な批評を試みたりを云ふ事は、教育を云ふ範圍内の取扱ひとしては過ぎた事になるかと考へます。もう一つ、幼稚園保育の考方の離れてきます根據は、人生觀を云ふ様な、さう云ふその人にくつ付いて居ります處の深いものではないのでありまして、教育を云ふ事の考へ方の上に於きまして、目的を本體として教育に臨んでゆくか、對象を重んじつゝ教育に臨んでゆくか云ふ、この態度によりまして又違ひが起つて來るか云ふ

へます。申す迄もなく教育は、目的なしには一切存在しないものでありますが、その目的の内容が、如何なる人生觀に基くかは別問題として、兎に角或る目的をもつて教育が出發してゆく事は勿論であります。而してその教育は對象があるものでありまして、或は青年を對象とし、或は少女を對象とし、或は幼児を對象とし、或は太郎を對象とし、花子を對象とします處のその對象が、教育の大なる部分である事も申す迄もない事であります。

そこで私の考へ方では教育を云ふものゝ方法の依つてきます基礎、従つて教育の方法に伴ひます處の種々な困難、或は無理葛藤悩みを云ふ様なものまでもが、この目的と對象の關係から起つて來るを考へます。そこで目的、對象二つとも教育の重要な要素ではありますが、これをきつちを主にしてその教育を實行してゆくか、これは必ずしも教育ばかりでなく、人々が實際して居ります時にもさう云ふ考へ方が立つと思ひます。

或人は自分の興味を元にして人を相手としてゆく人もあるし、全然己を無にして相手を立てゝゆかうとする人もあります。これは個人、或は團體の社交の關係に於ても起る事ではないかと思ひます。人間と人間との關係に於て、教育もその二つの違つた態度は免れないと思ふ。その目的を主にしてそれが對象を引付けて來るか、對象を主にしてそれに徐ろに慎しやかにこつちの目的を持出してゆくか、こゝの差別は我々は如何云ふ風に考へたらいいのでせうか。從來に於きましては教育に熱心であるを云ふ事は多くは教育目的に熱心であるを云ふ事に盡きて居つた様であります。然し、今日の教育の考へ方に於て、對象の目的に熱心であるを云ふ言葉は、少し意味のびつたり來ない言葉であります。目的に熱心であるか對象に忠實であるかを云ふ事は、今日に於ては長い大きな問題になつて來て居るのであります。私の一寸考へます處では、對象の年齢が進んで參りました、或は青年期の教育でもするを云ふ場合になりますれば、その教育は目的の方にぐつと重きを置いてゐるものではないかと思へるのであります。或は相手が年長であつたならば、その年長者であるを云ふ意味に於て對象をより多く尊重するのが理窟じやないかと思へる。その考へ方からすれば、青年教育に於ては何處までも對象本

位にしてゆくべきであります。私の考へ方では相手をぎつちにした處で馬鹿にするのではないし、尊敬しなかつたのではないのであります。唯こちらの目的を自分達の目的におき換へる能力のあるものに對しては、こちらの目的でつゝ張つていつていゝ云ふ考へ方を運ばし度い。相手が相當の年齢にもなれば、自ら教育を受け様云ふ、相當に進歩した考へ方を持ってありますから、此方の教育目的を向ふへ受取つてくれるのであります。勿論向ふは向ふで色んな勝手な考へ方でもありますが、少くも此方の目的を受取つてゆける、心を合せて一緒に教育を纏め上げてゆく可能性は充分期待出来るのであります。さう云ふ年齢になりましたならば、目的をもつて向ふへ向つてゆける考へる事が出来るのであります。

甚だ失禮な餘りに直接な例であります。此處に皆様にお話してゐる時に、この時間は私の目的で皆さんを構はず此處に座らせておきます。色々、皆さんの御希望も心持の動きもあるかも知れませぬけれども、皆様は此の講習の目的を御了解下さる云ふ意味に於て、我々目的を分け前して下さる、そこで御用があらうとも、お疲れであらうとも目的者の方に於てやつて居ります時には、皆さんの方でも同じ心でおいでになる事を此方から要求してかゝるのであります。處が斯云ふ意味に於て、年長になればなる程目的を主にした教育をやつてゐるに反し、幼児の場合に於きましては、扱へば容易い彼等でありませぬけれども……皆様は扱へば難しい彼女達であります……目的を理解して汲んでくれる云ふ可能性に於ては、實に期待する事の出来ないものであります。さうなれば向ふを主としてやつてゆくより外に道が残らないのであります。さうも子供のくせに私が一所懸命やつてやるのにその通りにならないと仰言いますが、實はその主が逆になつております。幼稚園教育では、實に嚴かな重大なる澤山の目的があるのであります。然し乍ら、その目的に、先生云ふ關係になる存在者があり、遊び飛びはねて居ります彼等に向つて、自分の目的を主にして教育計畫の一切を立てゆきましたならば到底、本當の事が出来ないに決つてゐるのであります。

多分思ふ様にならないので子供を責めるか、さもなければ保母の方が三原山に行きますか、極く良心的に考へましたならばさうなつてしまふのですが、幸な事にその間がむやむやと大抵はすんでしまひます。さう云ふ事にならざるを得ないこ

思ふのであります。その考へ方を若し許されますならば、幼稚園保育を云ふものゝ特質は、教育の色々な種類の中で、目的と対象との關係に於て何處迄も対象本位に計畫されてゆくべきものである、と云ふことを先づ斷定致し得るかを考へます。

二、幼兒生活と幼稚園生活形態

この斷定を基礎として、幼稚園に毎日來て居ります子供の事をふり返つて考へてみます。お互は毎日幼稚園に居りまして、毎日來ます子供達をみます、そこに別段改めてあの子供達の生活態度或は生活形態につきまして考へると云ふ事を日頃はしないのであります。「幼稚園に來たの」、と云へば一切が解決する、幼稚園だから幼稚園で、幼稚園だから幼稚園と云ふて兩方で一切がすんでしまふ様になるのであります。事を新しくそこまで対象を本體としなければならぬこの保育に於て、あの幼兒たちが幼稚園に來てゐる時に、その關係がどうなつてゐるか、これはこの席にお出でになります方は皆様幼稚園の御關係の方を存じますので、忌憚なき云ひ方をしてみますが、私は幼稚園を云ふ所はそこへ子供が來て居ります時に、その生活形態として無理の澤山起り易い場所であるを云ふ事を考へておき度いと思ふのであります。

幼稚園に來ると無理が澤山伴ふ事を考へてみなければならぬと云ふ事は、何と矛盾で、腰の弱い態度であること、と斯う云はれるかも知れませぬが、然し乍ら實際に於てあの子供達の年齢に相應しい眞實の生活形態はどんなものかを考へてみた時に、一組四十人をもつて組織せられましたあの部屋の中で、一定の時間をくぎつて、幼稚園そのものゝ計畫の下に生活をさせられてゆきますその生活形態は、子供に取りましては悪い事ではありませぬ、唯多くの不審と無理が伴ひ易い事であるを云ふ事は充分に考へられるのであります。幼稚園の必要を説く事、此處を考慮する事は判然區別して考へられると思ひます。幼稚園の必要を説く爲に、幼稚園そのものに伴ひます處の多少の無理をも胡魔化してしまふと云ふ事は、第一不誠實であり、幼稚園の必要を説く上に於て、反つて基礎を弱からしむるものじやないかと思ひます。今日我國の幼稚園が、皆様の御關係になつて居ります幼稚園は別と致しましても、相當に、幼稚園關係者そのものが眺めた時に、何と無理な幼稚園だらうと云ふ事を感じさせられる場合は少くも絶無じやありません。世間の人は目的を考へて形態を考へ

ない素人であり、目的さへいふならばそれでいふ思つて、皆様の目的を伺つて感涙に咽び、隨喜の涙に濡れ乍ら我子を連れて来て、結構な目的であるならば生活形態は覺悟の前であります。子供がそれを無理等と考へましたならば、私も出て行つて折檻も致しますし、そんな不都合な子供はない筈でございます、こゝ健康に云つてまで幼稚園の目的に心酔して形態を輕んずる素人は隨分ある。子供は家に歸る、何處かに幼稚園から受けた無理を表す。親は心の中に、さうだね、私達が小さい時に野原で遊んで居つたあの幼兒らしい生活形態と比べて、あのぎこちない鐵筋コンクリートのあの部屋が竝んでゐるあの幼稚園、そこに這入つただけで、何だか、お前には少し相應しくない様な氣はするが、これが教育と云ふものだよ。「すまじきものは宮仕へ」と云ふ文句を借りますれば、辛いが教育だよと云つた類で子供を辛棒させる、斯云ふ事は隨分あると思ふ。私共は毎日、私共の致して居ります保育が、いふ事が何分、無理な事が何分あるかを心配致して居ります。立返つて目的だけで考へる時には、子供に無理のあらう事は何とも思はない、蹶飛ばして勇敢に考へます。處が、對象を用意して對象に忠實である時にはさうも相濟まぬと思ふ事が少くないのであります。貴女方は理想の幼稚園を御實行になつて居られませうから、さう云ふ事はお考へになつた事がないかと思ひますが、然し先づ普通の場合にさう云ふ事を考慮して見る必要位は何處にもあらうかと思へます。

幼稚園の形態と云ふものは、餘程氣を付けませんと、目的實現に於ては大層いふ方法であつても、對象に忠實になる意味に於ては、無理を伴ふと云ふ事を考へる事に於て、幼稚園保育の眞諦の出發點があるか、私は信じて居ります。一般に教育者は、目的に片寄り易い悪い癖を持つて居ります。丁度、私が親切で斯うして居るのにもつと喜んでくれさうなものである、斯う壓し付けがましい人があると同じ様に、教育目的に餘りに片寄り易いものであるので、幼兒教育に於ては特に考へる必要があるかと思ふのであります。その幼稚園形態と云ふものが子供に取つて少くとも無理はなからうか、心配してゆく時に、何に對して無理が無からうか、考へて居るのか、申しますと、子供の能力に對して無理があるかないか、云ふ

問題を私はして居るのではありませぬ。子供の能力に不相當な教育をする、そんな無理な横暴な教育はあらう筈がないのであります。幼稚園令施行規則の中の文句を、判然覺えて居りませぬが、幼児の能力に不相當な事をしない様に云ふ事が書いてあります。あれは私は教育者を愚にした注意か考へます、子供の能力そのものにあからさまに不相當な教育をする、これだけしか食べられない胃袋にそれ以上のものを食べさせる、そんな事はもごより教育者にあらう筈はない。幼稚園が、子供に無理が無理でないか云ふ事は、能力の問題を申して居るのではないのであります。生活形態が無理か無理でないか云ふ事を私は申して居る。若し、能力だけで考へれば幼稚園の特別の問題ではなくて、個人保育の場合に於ても同じ問題がある。幼稚園は個人保育ではないのでありまして、幾人かの子供が集つてそこに作る生活形態を幼稚園とする事は申す迄もありません。その生活形態が學齡前の幼児に相應しいか如何か云ふ事が、是れ最も私共の考ふべき點だと思ふのであります。難しい事を教へない様にする、そんなたやすい事を申すのではない、たやすい事を教へても、形態に無理のある事もありますが、又子供によりましては多少は難しいと見える事でも、自然の形態の中では取扱つても構はない場合もあると思ふ程に、形態を尊重したのであります。そこで斯云ふ一つの悪口を申します。今日迄幼稚園保育の研究が、子供の能力に屬する方に於て行はれた程には、形態の問題に就いては行はれてゐなかつた缺陷があるのであるまいか。幼稚園保育の眞諦は何であるか云ふ事は、何を目的とするか、如何なる能力に不相當か云ふ事を考へるのでなくて、如何なる形態が幼稚園の形態を誤まらないのであるか云ふ事を申したのであります。

然らばその形態は何故そんなに重んずるか、生活は生活形態によつて始めてその眞實なる實質を發揮するものであります。生きて居るものは皆生活して居るが、それが生活らしく充分に生活出来るか出来ないかはその置かれた形態によつて支配されるものである。俺は俺の生活を俺の力でやつて居る云ふ個人的の強さは案外弱いものでありまして、生活形態に如何に取込まれてゐるか云ふ事によつてその生活が生活らしさを齎らすことになる。幼稚園でそんなに形態を重んずるのは即ち生活を重んずるからであります。今日の幼稚園を通觀しまして、痛感に堪えざるものは、(一)この痛感は痛く感

するに書きます、幼稚園に云ふものを一つ組み立て、において、そこへ子供を入れて来るに云ふ趣を脱し切らない事でありませぬ。私共のやつて居ります幼稚園にその弱點を常に自ら感じて居ります。よく私は園の保母諸君と共にお茶を飲みながら話します時に、私にも分らない言葉ですから諸君にも分らないと思ひますが、何だか變だに云ふ事です。お茶と一緒に飲んでしまひますいつもの話が「何だか變だ」に云ふ事で終ります。明日になつても何だか變だ、變だに云ふ事がさうしても取れ切れませぬ。そこが如何云ふんだに云ふ事をハッキリ言ひきれませぬ。何ぞ例へていゝんだか、何だか變だに云へるだけです。子供が朝、幼稚園へ來ますに幼稚園は受け取ります。それから、幼稚園で幼稚園だからに云ふ趣が何だか取り切れませぬ。幼稚園が子供の生活をさうするに云ふよりも、子供の生活を眞實のそのまゝにして置いて、その中へ幼稚園を作つてゆくに云ふ事は、「何だか變だ」に云ふ言葉の裏に始終ひつ絡つて居るのであります。此處の幼稚園なんかは世間の人がよく斯う申します、何だか幼稚園の様でないですな、に云ひます、中には、何時保育をなさるんですか、なに云ふ事を、一三時間も參觀なさつた後でお尋ねになる事がある、それ程亂雑であります。實に子供は仕度い放題の事をやつてゐる様な形になつてゐる。この子供が仕度い放題の事をし居ります所以には、私共の子供の取扱ひ方の下手さが半分はあるに恐縮致して居りますが、その半分の恐縮を除いて後の半分は、態にさうしてみてゐるのであります。そこでその態にさうして置くに云ふ意味の方を中心にして言はせて戴くにします。

それ程幼稚園らしくない形を何ぞか取つてみる、さうすれば何か本物が出てきはしないかをやつてゐるのであります、それでもさうも幼稚園臭い、私は鼻の鋭敏な方じゃありませんねけれども何だか幼稚園臭い。だから來て見ても幼稚園だに氣が付く様な臭ひがぶんぶんする。子供の臭ひよりも幼稚園の臭ひがする。新しい魚を今迄魚を入れつけて居ります筈の中へ入れるに、魚の臭はしないで、筈臭さの臭ひがする事があります。取り立ての魚に臭はない、生臭ひのは筈の臭である。さう云ふ様な感じがそこへ來て居ります、子供は一寸も幼稚園臭くない。中へ這入つて何かされるに何處かに幼稚園臭さ

が抜け切らない、何だか是を、思ひ切り生活へ教育を持つてゆく事を—教育へ生活をひつばつて来るんじゃない—生活へ教育を持つてゆくことを何ミかしなければミ、始終私は研究して居ります。

今迄よく私が講習なきの時に、生活を生活で生活へ、ミ云ふ何だかお呪文の様な得意な、易しい同じ言葉を三つ並べてゐるのでありますが、この生活を生活で生活へミ云ふ言葉は、その間に、教育ミ云ふ事を寄り付けもしない様な言葉使ひに見えますが、必要であるのは目的の方から云へば、何處迄も教育であります。この言葉は、その教育ミして存在して居る目的を、対象へ、その生活に忠なる意味に於てさう持つてゆかうかミ云ふ事を表したに外ならないのであります。若し更らに無遠慮な言葉を使はして戴くならば、現在の幼稚園は大變に變つて來て居ります。進歩してゐるミみますが、未だこの點に於ては研究を重ねべきものが澤山残つてゐるミ考へるのであります。毎日の事でありまして、さつちかミ云へば教育へ生活を持つてゆく方が樂であります。教育は、一度目的を立て、それに相應しい方法を拵へておけば宜しいのであります。この部屋には六日間この通りのテーブルを置いておきまして、この講堂へ皆さんをお入れすれば、樂にもう皆様がお座り下さる、或は窓の側へ、或は風の涼しい處へミ云ふ工合に、所が勝手な自己の生活形態をお取りにならうミする處へ、この目的生活を持つて行かうミすれば仲々骨が折れる。幼稚園も、幼稚園なるものを拵へておいて、そこに子供を入れてその幼稚園が斯くの如き目的によつて出來てゐるミ云ふ事でさうかしてゆくならば随分樂であります。然し、子供のその時々その事々に就いて生きて動いて参ります處の生活に、幼稚園を順應さして行かうミ云ふ事は容易な事ではないのであります。幼稚園保育の眞諦はそこへ行かない限り考へられないものではないかミ私は考へて居るのであります。

三、生活へ教育を

さてその幼兒生活ミ云ふものが若しそのまゝでいゝならば、これは幼稚園もいらなくなつてしまふ、若しも私の唯今迄考へて参りました言葉を非常にさつぱりした人が、あゝさうか、さうかそんなものか、ミ云ふ様なさつぱりした態度で受

取つてたり、暑いので面倒臭い人が、さうかく云ふ様なやり方をしましたならば、これは幼稚園を止める事に結論がゆきさうであります。そんな無理な事は出来ない、寧ろこれは幼稚園を止めればいゝじやないか。

そこで今度は保姆の役柄が變つて來まして、何々幼稚園保姆の肩書きが無くなり、保育行脚、隣保育、ルンペン保育、ルンペンは悪い意味じやない自由濶達の意味に於てある。そこで幼児教育の目的を一杯持つて居る方がそれ／＼の處へお出でになる、あの椎の木の蔭に子供がゐる、あの橋の下に子供が集つてゐる。さう云ふ様な處へ行き、或はよその家の縁側へのこゝ這入つて行き、いたる處、生活へ教育を持つて行く。生活形態のまゝで教育を随所におやりになる様になつたならば巧いと思ひます。私は時々さう云ふ何か巡廻保育を申しますが、延長保育を申しますが、ぶら／＼保育を申しますかさう云ふ會社でも造りまして、これは従つて何處の幼稚園の子供を云ふ事もきめられませぬが、その主人の人が、園長ですか、園が無くなつて仕舞ふから親方を云つたものが、丁度小石川區ではあの邊に子供が居る、何處そこではあの邊に子供が居る。云ふ事を見届けて、貴女はあそこへ行きなさい、貴女は菓子屋の前の子供が集つて遊んでゐる處へ、繪本を持つて行つて、保育に來ましたなんて云はずに買物に來た様な顔をしてその子供の中で遊んでやる、そしてそれぞれその人の報告を持つてゆく、ミス云ふ事をしてやつてみだいなと思ひます。是れならば實に理想的にやれると思ひます。私は幼稚園を云ふものを、必ず大塚町三十五番地に建て度いとは思はない、何町何番地の子供の住んでゐる區の中に充分しつらへておき度いのであります。

何によつてその用意をするか、これは子供の生活は子供自身が、自分の生活を充實する力を持つてゐる事を信じますから、是れをよく發揮出来る様な溜りを一番いゝ處に拵へておいてやり度いと思ひます。幼稚園を拵へる仕組の第一の溜意點はそこにあると思ふ。幼児達自ら持つて居ります生活充實の力が存分發揮し得る様な溜りを色んな處に造り度い。こちらの目的を子供に押し付けるに都合のいゝ云ふ事から仕組むのではなくして、子供が來たならば自然に自然に感ずる

か、みんなに喜ぶであらう、みんなに嬉しがらうであらう、みんなに楽しむであらう、或は嬉しくも楽しくも無い程に子供が満足するであらうか云ふ風にしつらへて、溜りを拵へ度いと思ふのです。最も餘り嬉しく楽しませる爲、幼稚園へ滿艦飾をしては、餘りに嬉しく喜んで、自然生活形態を忘れる。そんなものでない。幼稚園では目的は後におく、後におくのは後から目的が出るのじやない。例へば、客を待つて居りますが、何分にも暑い、そこへお客様がお出でになります。今日彼奴が來たら御馳走をしようと思つてゐたから云つて、玄關へ來たらすぐに大きなかつを出す人も無からうと思ふ。兎に角そこへ來ていゝ氣持のする様にそのしつらへをする。

幼稚園も亦、子供が這入つて來た時に先生は確りした目的をもつては居りますが、その目的をふりかざして控へて居るのではありません。之が青年教育の場合は違ひます。そこへずつ子供が這入つて來た時にその子供の生活が自ら自己充實をして行くことによりまして、一頻り、幼稚園にあらずんば得られざる子供の生活が展開されるのであります。こつこつ風にして置くのであります。是れは大切な事だこ私は考へます。

或る幼稚園は子供の生活を、その自己充實を恣にする事なくして、早速教育に取りかゝる。まあ一頻休んてからと思つて居たんじやのに。時々我々は人の處へ行つた時に、今日は小父さんが來ると思つて御馳走を拵へておきましたよこいきなりそこへずらり並べられては到底胸へつかへて食べられるものじやありません。まあ汗になられたでせう、こちらへいらした方が涼しい、云つて先づ伸びやかさを與へられる事だけで意義があると思ふ。

その自己充實は恐らく二つの事で行はれて參りますでせう。一つはさうしても子供を自由に置かなければならぬ云ふ事。保育に於ける自由云ふ言葉はさうかします。保育全體を被ひかぶせる爲の名前として、自由主義保育云ふ言葉を使ふ人があります。私は絶対反對であります。自由だけで濟むものじやない。却々さうして自由さうじやないけれど、先づその保育のスタート、保育の出發はさうしても自由にやらなければならぬ。今日の幼稚園が自由を取る云

へば仕舞ひまで自由なんです。取らない云へば初めから窮屈です。その考へ方にもう少し問題が残つて居やしないか
ミ私は思ふ。

昨日丁度アメリカの文部省からプリントが來ましたので一寸開けてみたら、その中に新しいナーセリー・スクールの問題
を取り上げてゐる。ナーセリー・スクールの一日云ふものを、如何云ふ様にしてやつてゆくか云ふ事で、今回のお話
としては、保育過程の方へ這入るのでありますが、それでは朝來たならば外へ出して置きます、十一時何分になりまし
て仕事を始めます。八時頃から始まる云ひます、始める前に自由に充分外で遊ぶのです。…時刻になつてお部屋に這
入つて帽子をまつて色んな事をして居ります。これは、今迄相當自由主義をこつて居りますアメリカの幼稚園をままして
も、進歩主義保育論を讀みましても見受けなかつた事でありませぬ、私自身幼稚園の朝の問題を考へる場合に於きまして
も、そこ迄は、大膽に云ひますが、徹底的にゆかなかつたのであります。幼稚園へ行きます、そのナーセリー・ス
クールのその書き方によりませぬ、いきなり庭へ行きます。これは一面戶外生活を尊重する意味からでもありますが、
朝の日光を存分に利用せよ云ふ教育目的からも出て居ります。朝露の光つてゐる草原に來て遊ぶのであります。先づ一
應お部屋に這入つて、いろんな身仕度を整へて、さうく日光は必要なりけり云ひ出すんじゃない、來てその
まゝすぐ庭へ行つて自然に親しむのであります。この幼稚園では、あの小使室の處へ小さい入口があります。あそこか
らずつお庭の方へ這入る様にナーセリー・スクールのやり方ではなつてゐる、いきなり這入つてゆくの幼稚園の机
は十一時過ぎにしかお目にかゝらぬ、私は非常に面白いと思ふ、これをすぐ實行させるかどうかは別問題であり、保母
さんが先づ目を廻すかも知れませぬけれども、私は是れは非常に面白い精神だと思ふ。何でもかんでも斯うする形で生活
へ教育を云ふ事を實現せよ云ふんじゃない、これはその一形態にすぎませんが、こんな事でも今迄の幼稚園臭いのこ
は餘程違つた形式が出て來はせぬかと思ふ。氣のきいた小母さんだ、子供が來ると、あゝ坊ちゃんもお出で、すか、

さあ〜お庭へ行つて、きんこ〜お遊びなさいと云つて先づ子供を庭へ連れて行つて遊ばせる、子供がお庭を眺めてしきりにむづ〜してゐても小母さんが抑へて、まあ〜保育が濟んでからと云ひませんが、長い御挨拶の後、やうやうお庭に解放を免許されること云ふのでは子供がかわいさうです。子供を庭へ遊ばせて後、趣味の高い人ならば、挨拶に一時間かゝつても構ひませぬが……。何も庭へ入れるばかりがいゝんじやないが。先づ子供が自分の生活を指導されるばかりではなし、況んや教養されるのでもなく、自己充實の一杯に出来る天地に遊び得るを、斯う云ふ氣持に幼稚園をしむけてゆく。是れ保育真諦の全部ではありませぬが、此處に出發點を置く所ではないか、斯う私は考へるのであります。

斯う云ふ様でお仕舞になつてしまふが所謂自由保育。吾々は、これに對して教育をさう持つてゆくか云ふ事を苦心するのであります。子供の襟がみをつかまへて、お前は幼稚園へ保育に來たんだらう。さあ來い來たれ、と保育にもつてゆく、あの大江山の様な事をやめまして、もう少し、可愛い人をそのまゝ扱つてゐるうちに、何時の間にかずつと教育に逆行させる様に、その位の苦勞をしなければ玄人とは云へない。少くも三十三年度玄人とは云へないこと云ひ得るのであります。

四、幼児生活の自己充實

以上は極く基礎的のお話を申上げましたのでありますが、教育はどの教育であつても、相手の生活を尊重すること云ふ事は今日の一般の通説なのであります。其所に、或は教育の生活化とか、或は生活主義教育とか云ふ様な、御承知の通りの言葉が出來て居る位でありますが、その言葉を見ましても、教育の生活化と云ふ言葉は、教育を基としてそれを何う生活めかして行くか云ふ調子が多いのであります。吾々の考では、少なくとも幼児教育の場合に於ては、教育の生活化ではなくて、生活の教育化と云ふ言葉も既に強過ぎるのであります。化して了つてはもう生活の本味がなくなりますから、生活の教育化と云ふこの言葉をも少し避け度い程に、生活を主體として其の中へ教育を織り込むと言ひますか、挟むと言ひますか、其位の關係で生活と教育と云ふものを見て行かうと斯う考へるのであります。これは昨日申上げました事と少し違

つた方から、同じ問題を見ただけでありまして、昨日は対象が、此方の目的を理解して、その教育に教育さして共鳴して来て呉れる可能性が多くなつた場合には、目的の方が相當、主になつてもいゝものである。斯う云ふ考へ方をしたのでありますが、同時に又、段々教育そのものゝ程度が高くなつて參ります云ふに、その目的を教育の内容實質に取り上げましたものが相當多くなつて来る。其爲に生活を主にすると言ひましても、その教育の持つて居ります當面の目的が何うしても主になつて行く事は免れないのであります。

然るに、幼児教育の場合に於ては、相手が此方の教育目的を理解してくれる云ふ事は考へられませんし又此方で與へ様とする教育目的は非常に嚴かな、しつかりしたものが有る譯でありますけれど、それが教育實質に取上げられて来る云ふ點に於ては、未だ極めて茫漠たる趣を持つて居りますから其所で、教育を生活化する云ふ様な順序に考へられる如く、生活を主體として、それに何う教育を用ひて行かうか云ふ事に専ら考へられるのが幼児教育の特色だと思ふのであります。

其意味からして、先づ幼児の生活を尊重する可く、その幼稚園の生活形態に重きを置いて考へなければなりません。心理學的に申しますならば、幼児の生活は、その子供の一人の自發性と言つた様なものであるものであります。併し、此處に申して居りますのは、生活が充分生活らしさを發揮して来る云ふ社會的見方に於て云ふのでありますから、幼稚園の形態をその意味で考慮して行かう云ふ事になるので、その幼児の生活を、充分生活らしさに於て損はない爲には、幼稚園生活形態が、所謂自由の要素を出来る丈多く取る云ふ事は當然であります。自由とは云ふものゝ、寧ろ子供の方に取りますしては、それが當り前なので、此方で、もう少し注文をつけて斯うしたいと思へば、其處に自由云ふ大層事々しい、或は自由を許す云ふ様な意味も出て參りませうが、元來が、対象を主として取扱つて居る幼稚園に於きましては、自由云ふ事が先づ幼稚園生活形態の基礎になつて行く譯であります。その子供の生活そのまゝの動きを許して、それで生活形態の方は宜いとしても、それでは、教育目的の方は暫く引込まして置くのであらうか云ふ風な問題が起る譯であります。

すが、之を、生活それ自身が自己充實の大きな力を持つて居るものだし、斯う云ふ意味で、既に其處へ教育の目的を多少も結びつけ得るものだし斯う考へる。その自己充實に信頼する幼児の生活を宛らまらにして置きますが、これに就ては、たゞ打つちやり放しに放任して置くに云ふ事とはもさより違ふので、そこが昨日申しました「この意味に於ても幼稚園の必要がある」。云ふ問題に觸れて來るのでありますがその意味をこれからお話しして行きます。

幼児の生活

1、自己充實 自由 設備

2、充實指導

3、誘導

4、教導

幼児の生活—先づその幼児自身の自己充實に信頼して、出來る丈發揮して行くに云ふ事に保育の一段階を置くのであります。之が爲には實際問題としては、子供の方から云へば自由。その爲に幼稚園の方として用意します所の問題は設備。幼稚園とは、此意味に於ては幼児の生活が充分に自己充實の出來る様な設備を自由さを備へられて居る處である、斯う、先づ言ひ得るかと思ふ。その設備が何う云ふものであるか云ふ、そこまで細い問題には此處では觸れませぬが、兎に角設備なしに自己充實を充分にさせる事は出來ない。設備に依て生活を發揮させる。此意味から、幼稚園に云ふ處は、先生が自ら教育の任に當つて子供の生活へ直面して行く前に、設備に云ふ事に非常に重きを置く場所である、斯う言ひ得るので、設備は或場合に於きましては、出來て居る自然の状態を利用して行く場合もありませう。けれどもそれにしては、幼稚園に云ふ中に取入れられた場合には、その設備の後には先生が隠れて居る。その設備をして呉れたに云ふ事に於ては、

先生の教育目的は大いに這入つて居るのであります。けれどもまだその生活目的が幼児の生活へ直面的にぶつかつて來て居ない、而もその設備が充分出來ましても、その設備に餘り子供が束縛されて行くのであつては、此方の希望に添はない。そこでこの意味に於ける大きな心遣ひは、幼児の生活が自己充實を發揮し得る様に、周到至れり盡せりの設備をして置いて、而もその設備自身及び設備を使はせて行きます幼稚園の全體の態度が、何所迄も自由でなければならぬと思ふのであります。此間も此處の幼稚園で或保母の方ミ子供が遊んで居ります處を見て話した事でありましたが、此處の幼稚園の設備は勿論非常に不充分であります。子供の生活の各方面に互つて自己充實をさせる可く、非常に物が足りないのであります。然しその貧弱なる設備ミ雖も、其所に與へられて居ります子供の自由ミ云ふものに依て、子供がその貧弱なる設備をぐんぐん利用して行く時に、この設備ミ云ふものが段々擴大されて行く。若しもその使ひ方が束縛された様な場合に於ては、その設備はその設備の持つて居る一杯を發揮する事は出來ないのであります。子供が自由に其れを使ふ事が出來、そこに自由感が一杯に満ちて居れば、此方で與へた設備が子供の生活に依てきこまでも擴大されて行く。殊にその自由感の中に、即ち此方で子供が勝手に使つていゝ云ふ事を基として與へられて居る設備を使つて居ります時に、普通の家庭に於きましては到底許される事の出來ない生活——自己充實が出來て來る。家庭に於きましては、恐らく廣さが狭い云ふのみならず、その廣さに與へられて居ります自由の全體の感じミ云ふものが非常に狭い。單に空間的に狭い廣い云ふ許りではありません。狭い處でも自由感があれば實に廣い。四疊半の室に立て籠りました、そこに釜をかけて松籟の音を聞いて居ります茶人は、その四疊半が、實に廣やかなものとして悠々たる生活をするのであります。それと同じ様な事で、そこに與へられて居る自由の如何によりましては、きんぐ／＼廣まつて行く。又逆に假に千坪の廣い場所が與へられたとしても、其處に自由さが少なかつたならば、子供は自分の持つて居る僅かな身を入れる空間以上に千坪を使ふ事は出來ないのであります。

さう云ふ意味からして、幼稚園の與へて居る自由ミ云ふものが、これだけでも非常な意義を持つて居る。斯う云ふ事を

子供の勝手に——着物は汚しても叱られないし、多少の喧嘩をしましても保母の方がニコ／＼見過して居ります。あつちへ行かうか、こつちへ行かうか大人の目を恐る々々窺ひ乍ら遊んで居る云つた様なものでない。自由に満ち溢れて居ります光景を見ました時に、これだけでも幼稚園云ふものゝ大きな意義がある様な気がする。其所で、話した事でありましたが、斯う云ふ意味からします云ふに、これ以上の事を加へなくても（幼稚園の保育眞諦は此以上のもを加へなければならぬのでありますけれども）これ丈で幼稚園云ふものは非常な意義を持つものだ。斯う考へ度いのであります。今日の幼稚園の色々の考へ方を批判的に見ます云ふに、何うも、斯う云ふ事を與へて見ようとして、これでは何だか物足りなくて他の方に行つて了ふ云ふ事がありはしまいか。まさか今日の幼稚園で、幼児生活の自己充實を全然無視して居る云ふ様な亂暴な横暴な事はない。如何に現在がファツシヨの傾向を帯びて居るにしましても、幼稚園までファツシヨ主義云ふものにはなる譯はないと思ふけれども、こゝのところに力が入れ方が足りない爲に他の方に行つて了ふ。もう少し今日の幼稚園の研究を要す可き點を、此處に置いて置く必要がないか云ふ事を大いに考へるのであります。

五、幼児生活の充實指導

所がこゝに出来るだけの設備を與へて、子供の自己充實生活が一杯に發揮したまして、幼児の生活は形態に於ては充分發揮しましたが、未だ自己充實そのものでは足りないところがありますから、これを何かで補はなくてはならず云ふので、私は假に充實指導云ふこの言葉を擧げて見たのであります。之は今日の教育に於きまして、生活指導云ふ言葉があるのであります。指導云ふ言葉は、第一の自己充實云ふ場合から比べますと、餘程此處に教育者の働き方が加つて来て居る。こゝでは教育者が既に表に立つて居ります。立つて居ります關係からして、その教育者と子供の間に行はれて来る直接の交渉が始まるのであります。それを此方につけて考へるか、彼方につけて考へるか云ふ事で、此所に色々な違が起つて来る。指導云ふ事だけでは、目的へ向つて指導する云ふ風に考へましたならば、此方へつい

て居るものになる。幼稚園の先生が、子供のして居る事に對し非常に自由を許されて居る云ふので、感心して偉い先生だと思つて見ます。何ぞ冷淡にして不自然にして不熱心にして「あゝ私、幼稚園に居る云ふ事を忘れて居た」云ふ様な、のびやかな人であつたりします。所が其反對の先生がある。子供のやつて居る事に就て實に氣になる方がある。何ぞまづき事よ、何ぞへまな事よ、何ぞごんちきな事よ、それじやいけないこれじやいけない云ふ風に、先刻の實に超然たる方に比べます。——超然の反對、何ぞ言ひますが術語を知りませぬが——非常に子供に向つて働きかけて居る。苛苛する程働きかけて居る。いらいらは、自分の方を本體として向ふに要求する、不満足の不規則的體驗であります。自分の要求を以て相手を見て、思ふ様にならない時多分屢々さう云ふ事がありませう。親切であれば、熱心であれば、さう云ふ感じは當然起るのでありますが、之は系統づけられて來ればしつくりした自然になりませうが、之が斷片的に現はれて來る云ふまじ苛々になる、その苛々して居る先生は自分の目的を以て子供に望んで行く力が強い云ふ事が出來ませう。ものの強さは、其れ自身が持つて居る強さの他に、その強さを持つて居る物との關係で定つて來る。例へば一ボルトの電流を通じましたらその一ボルトは強くはない。一ボルトを通ずる事の出來ない針金に通じたら針金は切れて了ふ。そこに大變強いものになつて來る。皆様が熱心を以て幼児にお對しになつた時に、皆様が御自身の目的に相當する丈の強さ太さの針金であつたならば、自分に取つて、さう強いものになりませぬ。熱心即氣違ひなんか云ふものは、これはその目的の強さではなく、その針金が電流に耐へきれない。弱さが片方にあつた言へると思ひます。色々御機嫌の悪い時もありませうから、苛々が起るので御座います。その苛々云ふ様な要素を以て之に向ひました時には、何うしてもこの指導は此方を主にした指導になる。

犬に繩を縛りつけてぐんぐん引張るから、何處へ行くかと思ふ。犬を指導して居る云ふ。後から鞭で打つたり色々して居るから、何をして居るか云ふ。指導して居る云ふ。その方の心の中では實に尤もだ、餘りに尤もが通用しないから舌鼓を打つたり……舌鼓じゃあないですが……チエツなぎと言つて居る。その意味からしますと指導云ふ事柄は

同じ事柄でも此方について了ふのであります。其所で私は、僅かでも指導ミ云ふ言葉に充實ミ云ふ言葉をつけた。教育指導ではない、目的に基く指導ではない。それはまだく此方の話だ。先づ彼等に於て自己充實が出来て居るか何うかミ云ふところだけを指導する。一體、人の世話をするミ云ふ事は、大層な氣苦勞なものださうです。私は餘り経験がない。こつちの思ふ親切を通せば、向ふは大抵は電球が切れて了ふ。そこで、向ふの程度の所へ、此方が御機嫌を取る。「人を使ふのは使はれるなり」ミ云ふ事は、氣の利いた奥さんが知つて家政法則であります。幼児を指導するには、此方の目的で指導したのでは、指導ミ云ふ形式があつても無理が起る。決して押付けて居るのではない指導して居る、ミ仰言るれどもその指導は此方に屬して行く。私が此所で特に充實指導ミ云ふのは、子供から見ても充實して居るか何うだらうかミ云ふ事でありませぬ。太郎が自己充實して居る、其れ以上の所迄、餘計なお世話かいはしないのであります。大人が子供の側に居て思ふ通り指導してやる。叔父さんなんかよく「お前は何うもさつきから見居るが見ちやあ居られない」この見ちやあ居られない先生がある。偉い先生程見ちやあ居られない。そこで「お前を指導してやる。俺はなあ……」ミ俺を標準にして指導してやるのであります。此所に尠くも言つて置きたい事は、彼等の充實は彼等の充實として一杯行はれて居る、斯ういふところ迄やるのであります。ブランコに乗つて子供が漕いで居ります。ブランコは設備であります。「先生ブランコに乗つて宜しいですか。今度は誰の番で御座んすか」ミ云つて、切符でも渡してブランコに乗るのではなく、兎に角自由感を持つてブランコに乗る。私は幼稚園でちやんミ列を作つて先生が時計を見乍ら「その次」ミ云つてブランコに乗つて居るのを見るミ實に動かざるブランコだと思ふ。ブランコは動いて居るが生活形態は動かない。そこで、取合ひをしてもいゝ。汽車の切符を買ふのに取合ひしてはいけませんが、自己的生活を營んで居る時に取合ひしても構はないと思ふ。さうして子供はブランコに乗り自由に自分で漕ぎます。勿論適當な時間には次の人に譲るのでありますけれども、その譲る事自身が、之亦自由でなくちやならぬ。之亦自由ミ云ふのは、譲らうが譲るまいが勝手だミ云ふ自由ではありません。あゝ待つて居るな、ミ云ふ必然性がある。譲る可きであるが故に譲るのである。中には、ブランコは何の位時間がかゝるか知りませぬが、

「三十秒たるこゝ」云ふに、今日は自分一人丈で、誰も居なくても、三十秒経つて下りて、「先生第二回に乗つてもいいですか」云ふ事になる。誰も居なければ三十秒が三十分、三時間に延びてもいい。人が居れば譲る云ふのは、之は私は自由の中に這入ると思ふ。さう云ふ氣持でブランコをやる。其中には、何うやつたらよく漕げるか云ふ事が、自己充實で行はれる。けれども何うも下手で、一寸やつては震動を壊したりするに、其處へ先生が出て行つて、その子供が一杯に此の子を漕いで行くとこの位迄行く云ふ事を指導する。之が充實指導であります。「駄目だなあ、漕いで御覽。先生ならこの通り天まで行け」云つて感服させて子供を乗せてやる。子供が恐い々々云ふのにやる。之はいけない。先生は元、ドイツのサーカスに居た経験を基としてやつてゐるので、其の子が求めて居るころこは違ふ。私はこゝが難しいと思ふ。花子は何の位の程度に揺れようとして居るか。此所が見付からないで指導する事は出来ない。

食物等もさうである。私なき始終誤解されて困る。他所に行つて、物を少ししか出して呉れない。所が又非常に優待する意味で、私の求める以上の物を出される事がある。「此間横綱が來た時に之で出した」云つて井で出される。御好意はよいが私に即したのではない。その測量が出来なければ……只ブランコのやり方をする云ふのは誰にも出来る。そんな事が保育なら誰にも出来る。頭で何の位云ふ事が分らなければならぬ。そこからが保育になつて來るので、その求めて居る充實の所迄指導して行く。之が實に私、幼稚園の多忙なる仕事は澤山あると思ひます。たゞこれは先刻の苛々したジリ／＼した先生には之ではつまりませぬ。もう一つ教へてやり度いけれども幼稚園保育であるが故に此位にして置く。先生としては一ぱい出すよりもこの方がすつこ難しいと思ふ。私なんかの様な、實に力のあり餘つて居ります人間から見ます云ふに——何の力があり餘つて居るか説明しませぬが——力を小出しにするのに骨が折れる。私が朝寢坊してタクシーに乗つて参ります。私のポケットからは十圓札をそのまゝ出すのがいゝのであります。私の手近には十圓札許りある。それで圓タクを七十錢に値切るに骨が折れる。力がある者は小出しにするのに骨が折れる。皆様が此所が出来ない

のに對してお察しする。皆様が皆様と同じ者を相手にして幼稚園をお開きになつたならば、嗚かしの良い充實指導が出来ると思ふ。よく海水浴なんかで、お友達同志でやつていらつしやる時には實によくやつて居る充實指導も、幼稚園の子供に合せて行く云ふ事に就ては、この理窟は分つても實に物足りない。始終出し足りない様な變な氣持がする事をお察しするのであります。尠くも此所のコツ、云ふものが幼稚園保育の眞諦の大きな部分を爲すと思ふ。これを飛び越して了つて直ぐこつちの方の、或は教導云つた方に行つて了つたら保育眞諦を誤まる事考へる。

この充實指導をしますには何う云ふ風にするか。之は餘り細かい問題になるのであります。其所迄這入り得ないと思ひますが、まあ今迄申した所を基にして考へましても、先生が子供の中に本當に這入りきつて了はなければならぬ。外からの指導ではなく、中に這入つて居る指導でありますから、子供の中に這入つて居る。彼處で今花子が何かして居る。花子としては何所迄行き得るか、その充實が出来ない云ふ時に、自分を小さな小切れにして、花子に送つてやつて花子いづばいの生活が出来るやうに助けてやる、云ふ事が出来れば實に都合がいゝと思ふ。その意味からして、之は一種の内部指導で、中の方から指導して行くのでありますから、先生は子供の中に這入つて行かなければならない。中に這入つて行く事は、生活形態として中に這入つて行くと共に、子供の心持の中にも勿論這入つて行く事でありませぬ。何處に先生が居るか分りませぬ。こゝでは先生はもよより何處に居るか分りませぬ、設備を自由の後に隠れたる先生、姿は見えないのであります。こゝに出しや張つてはいけませぬ。「何うです。設備が豊たらう。この設備は私がやつたのを知つて居るか」等云つて出しや張つてはなりませぬ。充實指導では先生は少し出て來ましたけれども、小さな小人になつて子供の中に這入つて行く、生活充實を指導して行く云ふ意味でありますから、先生は殆んど自立たないのであります。

モンテッソリーのアブラタスでありますが、このアブラタスを取扱はなければならぬのである云ふ風に仕向けて行く云ふ様な事が、何うして出来るだらうか。モンテッソリー主義幼稚園云ふものをたて、それを聞いた者には義理で

も義務でもやらなければならぬ様に押付けて行くやり方が随分ある。アメリカ邊りでもイギリス邊りでもさう云ふ幼稚園があります。さう云ふ事が何故出来るだらうか。私共不思議に堪へない。モンテッソリーの書物に就て調べて見ます。實に立派なものであります。あのアバラタスはその目的を書いたより以上に立派なものであります。道にモンテッソリー女史で、子供を云ふ事を考慮してあのアバラタスが出来て居る。

フレーベルの恩物にしても同じ事でありまして、幼稚園に子供が来ます。兎に角、恩物をやらなきやならぬ。「先生、今斯うやつて家を拵へて居るが棒がなくて困る。屋根がなくて困る」、「それは斯う云ふ積木があります」。云つて持つて行つてやるのは充實指導になるけれども、「此處に來た以上は一週間に一度はこれを使はなきやならぬ義務がある、之を使つてくれなければ目的が通らない」。保姆が云つたならば、志は間違つて居ないけれども、幼稚園保育眞諦を失はれて居る。云ひ度いのであります。

幼稚園に居る間は、子供の凡ゆるよき遊び道具は幼稚の倉の中にいっぱい入れて置いて置いたらいゝ。フレーベルの恩物も勿論ある。クリーブランドの積木、色々あります。さう云ふものを何でも彼でも倉に入れて置いて、それを持ち出したら充實指導になる。斯う思つた時だけ持ち出す。道具の爲に子供を連れて來るのではない。一つの室の中で、此方の子供は何をして居り、彼方の子供は何をして居り、違つた事をそれぞれして居る。する。或先生が「此處では一つのお室の中でまちな事を致すので御座いますか、何て秩序がないだらう」。見る方もあり、なんて自由だ。見る方もありますけれども、私は何も自由の爲からのみ言つて居るのではない。

私は昨日、新宿へ子供を連れて行きまして或る處でお茶を飲みました。まあ其處の様子を見て居ります。實際、それを配る人が大變である。此方には西瓜を持つて行く、彼方にはメロンを持つて行く。アイスクリームだ、ソーダ水だ。色々持つて行く。私は見て居りまして實に愉快だ。己が慾する物が必ず満たされる。實に夏の夜の愉快さがある。彼處に入りまし

て、一、二、三、四と號令で、もう西瓜の時間は済みました、と持つて行かれたならば、一つ一つはおいしくても全體の生活形態が詰らないと思ふ。そんな事を例に出す必要はないが、幼稚園の生活充實、これが一々異なる事は個性であつて、個性を尊重するに、個人的たる可しと云ふ哲學的心理學的なものでなく、コンモンセンスからそれと違つて來るのは當り前と思ふ。「さあ皆さん本日は私の考へて居る通りにこれから二十分何を致しませう」と云ふのできちんちんこやる、その方の考へ方から云へば良いに相違ない。目的もいふ。その結果も恐らくいふものが澤山生ずるでありませう。けれども、その仕事に行くまでの子供の生活順序を通つて居ないと思ふところに私共の不滿がある。昨日申しました「何だか、もう一つ何うかならぬか」と云ふ所にこの問題がぶつつかつて來るのであります。

人が澤山食ふから私も澤山食はなければならぬ。いくら以上食はなければ及第出來ないと思ふ事はないので、只それを勝手にやつて居る。それで充分その人々は満たされて行く。幼稚園に云ふものは實に立派な働きが出来る。之が家庭では出來ませぬのであります。第一充實指導が出來ませぬ。之は本當にかゝり切つて居なければならぬ。私が、機會捕捉、機會を捉へて教育すると思ふ事を保育原則にして居りますが、詰り之は機會を捉へなければ出來ませぬ。自己充實、充實指導が一通り出來て——之が出來ないで次に進む權能はないと思ひます——次に更に加ふるに

六、幼兒生活の誘導

幼兒生活の誘導に云ふものが始まつて來る。誘導に云ふものは、子供から見ますと、ずつと大人の方が多く働いて居る。指導をしようと思ひましても、何もしないで居る子供があるかも知れませぬ。中には、何時迄も同じ指導許りさせて居る子供もあるかも知れない。そこで、こゝにいふ生活をもう一つ、幅に於て、深さに於て展開して行くに、もう一つ強い働きを加へて來ます。幅に於て深さに於て進展させるのみならず、幼兒生活に云ふものはその大きな特色として實に刹那的であり斷片的であるのであります。その刹那的であり斷片的であると思ふ事は、之は幼兒の生活として決してがむべきではありません。その爲に、生活興味に云ふものは、もつと味はへさうなものが味はへないで居る事がありま

す。本を澤山讀む人の中で、斷片的に讀んで居る人がある。手當り次第に讀んで居る人がある。其の、本を手當り次第に讀んで居る人も勉強にはなるが、残念な事にはその一冊の本よりの事は味はへないのであります。所が若し或一つの問題を頭に持つみか、或一つの中心興味を持つみか云ふ事になります。其小さな一冊の本だけの興味以上のものが與へられて来る。小さな一冊のパンフレットを讀んで見まして、何だ、と思ふ。その問題が關係して来る大きな系統を持つて居る人にはその系統の中に這入つて來るので實に面白い。芭蕉の俳句「古池や蛙飛び込む水の音」これ一つでも面白い。芭蕉の讀み、其角の讀み、蕪村の讀み、嵐雪の讀み、支考の讀み。或は現代の方々の讀んで一々面白いのでありますけれども、若し其人が芭蕉研究をして居るさしましたならば、「古池や蛙飛び込む水の音」が面白いのみならず、芭蕉研究云ふ中にその一句が這入つて來る。和歌の興味云ふものは非常に深いものであるであります。お料理の中にも所謂スープから段々に進んで行く定食、一皿で行くさあります。多分定食にはずつと行きます美味くないものも、嫌ひなものも出て來ませう。一皿取りますれば自分の好きなものが取れませう。料理そのものは皿の味でありますから一皿づつ食べればいゝのであります。ずつとコースを逐つて行く時には、一皿の味の他に變つた味が出て來る。コースの中に這入つて居るものを取り出して食べたなら美味くなくても、肉の蔭に狹まつた野菜に特別な美味さがある。斯う云ふ爲に、子供が斷片的に生活して行く事はそれで宜しいから、若し子供にその斷片性を、或中心を與へて系統をつけさせてやる事が出來ましたならば、興味が非常に多くなつて來るだらう云ふ事が考へられるのであります。今の例に基づきまして、單に興味が多くなる云ふ比較ばかりではなくして、斷片的興味はその事柄の興味であります。一皿の料理は即ちその一皿のフライならフライ、ピフテキならピフテキの味であります。コースを逐つて食べて行きます。食事の快感が起る。此所に大きな力があると思ひます。寄宿生が自炊生等が勝手に好きなものが食べられていゝ云つて居るが、其人は一つ一つの美味い味は知つて居るが、食事云ふ味を知らない。食事、云ふのは食事の一つの系統が味ははれる。私

も、自分の家では一つ一つの美味さのない憐れな食物を食べて居るが、兎に角食事である。書生さんで、今日は一皿何を食べた、何を食べた、ミ云ふので大變に贅澤で食道樂で食物通で、何が美味しい美味しくないミ云ふ事は分つて居るが、食事の味を知らない人が澤山ある。

幼児をして、一つ一つの事に興味を味ははせる他に、生活的興味を味ははせて行くには、其凡ゆる食事の味ミ云つた様なものと同じで、或系統が與へられるならば大變に都合がいゝのであります。單に、斷片よりも系統の方が興味の分量に於て、より勝つて居るミ云ふのみならず、興味の本質が違つて来る。生活の面白味ミ云ふものが少し其所に這入つて来るのであります。

詰り自分の生活に或系統をつけた時に、生活興味が起つて来るミ云ふ事は大きな問題であります。其意味からしまして、幼児をして斷片の生活を或中心へ結び付けて行く事が出来るならば、幼児の興味を深からしむる。随つて、幼児の生活を、一層、生活ミして發展さして行く事が出来る。此所に誘導の問題が起つて来るのであります。指導だけならば「ああそれかい、それかい。それを斯うしようミするのかい。ブランコを漕ぎ度いのかい。繪が書き度いのかい」。と言つてその時その子を指導して居るのが指導であります。

此處の幼稚園で皆様御覽下さいませ様に、色々の室に色々なものが拵へてあります。這入つて直ぐのお部屋には水族館が出来て居ります。進んで汽車のステーションを中心しました色々なものが出来て居る。彼處で誰方でしたか食堂ミ書いてあるので何か食べられると思つてお這入りになつた方が居りますが……色々の御馳走がある。或は玩具屋の店がある。「あゝこれは暑中休暇の前に何か會でもして、見せ物でもしたのか」ミお思ひ下さいませミ非常に困る。あゝ出来ては居ますが、あの部屋の子供達が何をしても構ひませぬ。朝、來ました以上何が何でも水族館に關係ある事をしなければならぬ、ミか、兎に角水族館に來て鯛様鮪様に御挨拶申上げなければならぬミ云ふのではありませぬ。庭で遊んで居て

も構はない。或は突拍子もない事に興味を感じて走り出しましたら、先生は其の子のやつて居る事に向つて充實指導を取られるでせう。けれどもあの組云ふものがありまして、幼児に對して、もう一つ積極的にやらうとする時に、あの部屋は暫くの間夏向きの水族館を作られたのであります。あの組の先生を私知つて居りますが、何も魚類學に就て精通した方でもないし、子供に動物學を教へようとして居るのでもない。唯何かしら——まあそこは別問題として——あれを一つ作つて見て、あれが子供の興味を始終誘導して行くのであります。

汽車の場所で、あの改札口からあの荷物からあの精養軒食堂に至る迄、段々發展して行きました。その發展は、初め一寸汽車のテーマを與へた事に依て、子供の生活が其所迄、ごんごん誘導されて居るのであります。斯う云ふ意味からします云ふに、私は幼稚園云ふものは、自由な設備を用意され、懇切、周到、微妙なる指導慾を持つて居る人が充實指導をして下さる上に、更に子供の興味をよく考へて置いた材料に基いて、子供の生活を誘導して行く中心を立て、何か與へて呉れる、之が一つの意味ではないかと思ふのであります。

こゝで私は皆さんに一つ、私のお話して居ります事の、極く、もこの意味を申し上げます。

幼稚園の保育真諦を此所に語つて居るのであります。幼児教育の問題を言つて居るのではありませぬ。幼児を如何に教育す可きか云ふ問題を此處で言つて居るのではない。幼稚園云ふ Institution に就て言つて居る。幼児を如何に教育すべきか云ふ事、幼稚園云ふ Institution は勿論關係あるものに相違ないけれども、幼稚園云ふ Institution に就て考へて居るのであり、だからこそ昨日「幼稚園に何か無理のある事を始終考へる」を申したのであります。幼児教育そのものに無理は起りませぬ。幼児教育云ふものは、幼児の心理に基いて適當なる教育をして行けば宜しいのであります。之は其れを其れだけいづばいにやつて行けばいい。幼稚園云ふ Institution を持つて幼児を教育して行くのであります。皆様お宅で、幼稚園の子供と同じ年のお子さんをお持ちの方は、家庭に於て教育する場合、幼稚園に於て大勢

の子供を集めて教育する場合に、澤山の共通する事があるに同時に、別な事がある事をお氣付きになると思ひます。その別なところに無理が起るのだと心配したのが昨日のお話である。そこで私は、此所迄の所は家庭教育でも大いに取るのがあります。お母さんが、家庭として出来る丈の設備を自由さを與へて幼児を砂場のある廣い庭で遊ばせる。

私は此間實に赤面しました。或お母さんが小さいお子さんを連れて来て話した話に「此子は大変熱心で、やり出した事は何時迄もやる。砂場でも、遊び始めるご一日中やります」と言つた。私はてつきり幼稚園と思つて「ごこの幼稚園ですか」と聞くに家の砂場ですと云つた。砂場位作るのは當然の事であるから何でもないが、何うも其所が商賣の辛さで、砂場と聞くに幼稚園と思ふ。ブランコだつて何だつて家庭の庭に置ける物であります。お母さんも自由さを充分與へて宜しい。子供は幼稚園では餘り要求しない。「大勢の子供を先生はお世話なすつて、お忙しい。自分が無理を言つても悪いだらう」と注意して居りますが、家庭では一寸困るに「かあちゃん、お父さん」と呼んで来る。お父さんお母さんは元來が教育目的を主にして居るのではなく、坊やが可愛いから「何、うするのかい。之でお前の自己充實は出来たかい。満足されるかい」としてやります。其處へ他の人が来て「何ですお母さん。下手な事をやつて……」と笑つても、坊やの爲にして居ると云ふので一生懸命やつて居る。幼稚園の先生になるに、其所の所が反つて難しくなる。そこで、充實指導迄は家庭で出来るが誘導になるに家庭で出来ない。然し夏休の間だけでもやるに良い。水族館でも何でもいゝ。人が来て、玄關に水族館があつたり食堂があつてはおかしいが「休みであるから誘導設備を作りました」と云へばよい。所が平常は出来ない。たつた一人の子供の爲に充實指導迄は出来るが、誘導は却々難しいと思ふ。之を相當大任掛にやつて行ける所に、幼稚園の Institution としての存在價值がある。

又或る部屋には幼稚園を本體とした廣い地形地圖がある。皆様が休憩して頂くには實に邪魔で、誰かが、あの女子高等師範の上に腰掛けないかと思つて居るのでありますが、あゝ云ふものを家庭に置いた日には蚊帳をつる事も出来ない。此

所が幼稚園の幼稚園たる、實に子供の爲の場所に来るいゝ所だと思ふ、高價なものでも、子供の爲なら使ひ得る、斯う云ふ事が私は餘程保育精神のいゝ事と思ふ。机を置いて時間を計つて、計畫を立てゝ、「さあ諸君、教育を受けに来ましたか。之をしてゝゝ、出來たらお歸り。さあ……」。云ふ事では其處に行つたから云つて別に自己の生活が大いに誘導されるものではない。

私は時々デパートに連れて行かれる事があります。するに大勢の人が來て居るのを見て何時も思ふ。皆が買物に來て居るのではない。お客の大部分は見物にいらつしやる。「見物させてもつまらないね」云ふに、「此處にいらつしやるに欲しくおなりになる。欲しくおなりになりさへすれば今日お買ひにならなくても商賣には宜しい」云つて居る。却々するい。幼稚園に子供が來て、何だか這入りたての子供がブラ／＼して居る。始めて南洋から出て來た人が三越に行つた様に「何があつたか」聞くに「何もなかつた」「時計を見たか」言へば「何もなし」云ふ。「やつぱり彼處にも椰子の植木があつた」云ふ。さう云ふ人は實に何の益もない様ですけれどもさうでもない。幼稚園に這入りたての子供がブラブラして居る。家に歸つて來るに「今日は何うしたい」聞く、「別に何うもしないよ」「じゃあ、まあ一月は保育料たゞだね」なんて云ふ。所がその幼稚園には種々の物があるものですから日に日に生活が誘導されつつある。さう云ふ意味で幼稚園には誘導さ云ふ仕組を澤山置く必要があると思ふ。この誘導がつまり一つのプロジェクトになつて來るのであります。生活の自由からずつと出て來ます所の動きが、誘導に依て導びかれて、其所へあるものがずつと進んで來ました時に、こゝに始めて

七、幼児生活の教導

教導云ふものが出て來るのであります。之が教育の中では差しあたりの主の問題になつて居りますが、私は、之を今迄申した斯う云ふ風なもの後に持つて來るもの、斯う考へ度いのであります。この教導云ふのは何か言ひますに、幼稚園保育眞諦としては最後にあつて、極く一寸する丈であります。子供の方から云へば敢へて其所迄來て居りませぬものに向つて、「あゝ此子にはもう一つ之を付け加へて行かなければ……」云ふものが出て來る。

此所迄は子供の持つて居るものを指導した丈であり、子供の生活を誘導して来た丈であります。子供が水族館の魚を拵へる云ふ。水族館が出来て居れば魚が作り度くなる。鯛や色々作りましてさうして先生の處に来て「もう他にないの？」と聞きました時に他のものを教へてもいゝでせう。或は何も聞きませぬでも此子の力一ぱい満たされた時に教導の方に這入つて行きませう。

私は斯う云ふ意味で段々進んで来て、其所に保育の保育らしい一つの特色を表はして居るかと思ふ。

詰り幼児の生活云ふものを、生活の本質を毀さないで——生活の本質を毀して此方の目的通りに行かなくては別の問題であります——、保育して行く云ふ時に、斯う云ふ順序に進んで行く考へたいのであります。

八、幼児生活の陶冶

斯う云ふ事で、所謂幼児の能力が段々發展されて來るのであります。この他に幼稚園は、併せて幼児の道德云ふ事も考慮に入れなければならないのであります。所謂生活陶冶云ふものをして行かなければならぬ事も勿論であります。繪が段々書ける様になつて来た云ふ様な、生活性そのものが發展して行きます他に、陶冶云ふ事も考慮しなければならぬのであります。此の陶冶の問題に就ては、從來の或やり方に於きましたは、普通の生活指導によりやつて行きます他に、何か或る特別な方法を講じて陶冶の目的を取つて行く云ふ様に思はれる向きがないのであります。乍併私は、幼児生活が生活として發展して行くのみならず、陶冶されて行く、云ふ事も、亦斯う云ふ順序に於て行はれて行くものだ云ふ事を、此所で併せて言つて置き度いと思ふのであります。例へば意志が強くなつて行きます云か、感情が洗練されて行きます云か云ふ様な問題も、子供自身の自然にやつて居ります生活も、斯う云ふ風に保育して行きます間に、伴ひ生ずる事として考ふ可きであらうかと思ふ。随つてその陶冶は、目的をしましては或理想的な完全な事を目的としますけれども、その幼稚園に於て實際行はれて來ます陶冶は、何所迄も其の生活に即した陶冶であると思ふのであり

ます。

人間の意志は幼児に於て、何れ位の強きに迄進んで行くか云ふ事は、目的の方から出て来る。色々……何でも彼でもそこへ持つて行かなければならぬ云ふ事は、目的に忠なる理想から云へば望ましい事でありませぬ。斯う云ふ順序に段々やつて来ました時には二年或は三年の保育に於きまして、或子には幼稚園が一尺の進歩をさせましたが、或る子は或處までしか行かない。一人一人に依りまして陶冶され方が違つて来る。斯う思ふ。能力の方に於て一人一人が違つて居る事は誰も認めて居りますから、教育の結果に於きましてその違が起つて来る事は容易に是認するのでありますけれども、陶冶の方に於きましては、さうも道德的陶冶云ふ方に重きを置きまして、生活的要求を以て子供に望む風が少いのであります。斯う云ふ意味から考へて行きます云ふに、その子その子に於て違つた結果が其處に出て来る事は止むを得ぬ。或は當然であるを考へられるのであります。

九、幼児の個性

斯う云ふ意味からしまして、此所に幼児の個性云ふものに就て一つ考へて置き度い云ふ事が起るので御座います。幼児の個性がそれぞれ違つた色彩を持つて居る云ふ事は、心理學的に調べて、今更言ふ迄もない明かな事でありませぬ。或は、人間が皆同じと思つて居つた無智な時代があつたかも知れませぬ。然し今日に於きまして、心理學的に考察せられたる個性差別云ふものは誰も認めて居るのであります。又随つて、その個性に基いて教育して行かなければならぬ云ふ事もよく分つて居る事でありませぬ。その結果をしまして、今日、教育者の方々が幼児の個性を先づ知らう云ふ事に就て、非常に重きを置かれる。之は誠に當然な事と思ふ。然し私がこゝで一つ言ひ度いと思ひます事は、個性尊重、兒童心理學的に個性を知る云ふ、これが詰らぬ云ふのじやない。不必要云ふのでは決してありません。乍併私の此所と言ひ度い事は、今迄申した様なやり方で保育が進んで行きますならば、當然その保育は個性的になつて来るのじやないか云ふ問題であります。豫めその子の個性を調べて、その個性に相應しい様に相應しい様にこやつて行く云ふのは、心理

學的に考へました通りの順序でありますが、之も、出來ますれば大いに吾々の參考とし、注意條件をしたのであります。假に此處へ這入つて來ました子供の個性が、はつきり分つて居りましても、何の子も皆、一樣に出發して行くことば自ら個性以外の保育は出來ない事になるのではないかと云ふ事であります。中には、幼稚園へ子供が參りますと、暫くの間何もしないでたゞ子供を調べて居る方があります。さうして「何をして居るのか」と云ふ「現代教育は個性に基つかざる可からず。そこで個性を調べて居るのである。親に聞いても分らぬし……それが分つたら徐ろに此子の爲に教育しよう」と云ふ事を言つて居る方がある。之は心理學的に考へるに實に正しい順序なのであります。けれども私は、その子の個性が心理學的に分つても分らないでも、兎に角、之にさうつゝ這入つて行けば、自然にそこに出て行くのではないかと云ふのであります。一體個性と云ふ様な事は、人間生活の中から、其子の性質と云ふものを、學問的に抜き出して考慮する事に依て始まつた問題なのであります。例へば家庭なんかに於きまして、家族は互に個性を個性としては何も知りませぬでせう。親は吾子の事に就きまして、何う云ふ個性であるか聞かれた所で、はつきりそれが言へる譯ではない。けれどもその親はその子の生れましたその日から、その子に就てたゞ、斯う云ふ生活をして來たのでありますから、若し之を正しくやつて居さへすれば幾つになつても其子に相應しい事以外の事はしない譯であるのであります。

斯う云ふ意味から、個性と云ふ問題を心理學的に言ふ意味ばかりに考へないで、所謂、保育の實際の方から見た所を考慮に入れましたならば、心理學的に考へたよりも、より生きたものとして吾々に取り入れられるものと考へ度いのであります。之は少し矛盾した様にお聞きになるかも知れませぬが、吾々は保育的生活をすれば、きつと個性的になつて行くこと云ふ事を、心理學を離れて斷言し得るのであります。乍併、斯うやつて居りましても、その子の個性と云ふものを吾々は、書き表す事も、集める事も、他と比較する事も出來ない。個性をはつきりつきつめる爲には、科學の力によらなければならぬのであります。であるから私は、あの科學の調べによりまして、個性がはつきり吾々に分りますけれども、それを基に

してのみ個性教育が出来る云ふならば、あまりに科學が吾々教育の實際を軽く見て居る、こ斯う言ひ度いのであります。個性に基づかざればいかぬ、こ云ふのは法則でも何でもありません。心理學が吾々に注文して來る法則でも何でもないので、斯う云ふ風に保育眞諦に基いて保育を致しますならば、自ら個性に即した教育になる云ふ事を一言申して置くのであります。随つて斯う云ふやり方をすれば、個性教育の反對の一齊教育にはなりません。劃一教育にもなりません。一齊教育劃一教育を吾々が避けるのは、個性の差別が人間にあるから一齊教育をしてはいかぬ云ふ、科學的理論を立てるだけじやなく、斯う云ふ風にコンモンセンスにやつて行けば、一齊教育には到底なれる筈はないのだ、こ云ふ事を、教育云ふものゝ限界内に於て斷定し得るこ、斯う申し度いのであります。

斯う云ふ意味からしまして、昨日申しました、何だか物足りない。何だか變だ。幼稚園云ふものももう一つ生きて居る様なものになるまいか」こ云ふ事を、斯う云ふ所から考へて行き度いものだと思ふのであります。今日の幼稚園は、何うも斯う云ふ意味から云ふこ可成り距離の遠いものではないかと思ふ。目的から出發して、その目的を何うして子供に與へ様かこ云ふので方法論が生れる、其所だけに止まつて居るから一齊教育をしても平氣なのではないでせうか。或は劃一教育で行くのは目的の統一から出る。目的に色々ある譯はない。一つの目的で幼稚園はやつて行く。其所から行けば一齊教育劃一教育になるのは寧ろ當然の事と思ふのであります。さうして、一齊教育云ふものは、個性を無視するからいけないこ、心理學に注意を促がされて、何うしてこれをバラ／＼に毀さうかこするその順序が、抑々既に間違つて居るこ私は思ふ。之が私のこのお話の本旨なのであります。

そこで私はもう一つ、幼稚園云ふものを何う云ふ風に變へて行くかこ云ふ事を、頭に置き度いものだこ考へるのであります。

十、幼稚園に於ける保姆の位置

そこで斯う云ふ風に幼稚園の保育眞諦を考へて來た時に、その幼稚園に於ける保姆を云ふものゝ位置は何うなつて行くか云ふ事を一つ考へなくちやならぬ。何所迄も幼児を云ふものゝ生活を主體として幼稚園が出來て居ります以上、幼兒のその幼稚園に於ける位置は分つて居るのでありますが、保姆を云ふ教育者の位置は何う云ふものになつて來るであらうか。之に就て私は、幼稚園の保姆位、實に何と申しませうか、心遣ひの細やかさで保育をして行く仕事はないと言つていゝ位だと思ふのであります。幼稚園の保姆を云ふものゝ生活は、實に心遣ひの細やかさを云ふ事で一ぱいであります。心遣ひの細やかさを云ふ事を、もう一つ俗な言葉で言ひますれば……云ふよりも表はれて來る形から言へば、實に氣が利いて居る、云ふ事でありませう。若しも自己の目的があつて、その目的を子供に傳へる事を以て任務として居るならば、そんなに氣が利いて居なくても、細やかな心遣ひをしなくても、仕事は出來て行くのであります。上手下手を云ふ事で大體が定つて來ませう。所が、目的は目的でありますけれども、保育眞諦で相手を或る所迄進め、それからそれへこやつて行くならば、實に細かく氣が付かなければならないのであります。然も氣が付いてやつて行きますけれども、此方の取つて居ります態度はごこ迄も子供本位に行かなければならぬ云ふのですから、細やかになる。ですから一ぱいに氣の利いた働きをしても、その人の幼稚園に於ける存在は極めてくつきりしないものであります。くつきりしない云ふは、何だか幽霊の様になつて來ますけれども、畢りその先生を云ふものは、非常に大きな働きをして居るのであります。其先生の存在を云ふものが子供の生活を支配する迄に強い存在になつて來ないのであります。その、強い存在にならない云ふ事は、誰に對して強い存在にならないか言ひますと、先づ第一に、一般に外から見ました時に強い存在にならない事は勿論、第二には、其處に居ります子供自身にこりまして強い存在にならないのであります。此處のところが、私、幼稚園を云ふものゝ本當の特質を表はして來ます上に、非常に大事な問題になつて來るかと思ふのであります。子供に對しては何處迄も強く響かぬのであります。強い存在ではないけれども、その先生のその仕度をする事に於て、指導

する事に於て、教導する事に於て、實に氣の利いた細やかなる心遣ひで一ぱいの活動をして居る人でなければならぬ。まあ私は幼稚園に於ける保姆の位置を云ふものをそんな風に考へ度いのであります。その位置を取つて居ります保姆の方が、實際の上に於て何う云ふ風に働きをして居るか云ふ事は、保育過程のところで考へたらいいと思ふのであります。が、之が普通言ふ所の保姆中心保育でなくて、幼児中心保育を云ふ事も私は言ひ度くないのであります。尠くも保姆中心保育でない幼稚園を云ふものを其處に生じて來る所になるかと思ひます。

生活を尊重して、生活に向つて此方から教育を持つて行く。その保姆さんの中には凡ゆる教育が一ぱい用意されて居る。それを誘導する事に於て、隠された力を非常に使つて居る。斯う云つた様な時に其保姆さんの働きを云ふものは實に私は：：何と言ひませうか、方法的存在を超越して來る様な氣がするのであります。

目的を、向ふへ徹底させる爲に考へられるものが方法であります。けれども此方で先に方法を立て置いて、あてがうて行く事は出來ない云ふ事になります云ふに、方法的存在以上のものに、幼稚園の保姆を云ふものがなつて來るのがあります。

こゝで私、最後の一言を申して一くぎりを終らうと思ひます。

「今の幼稚園がもう一つ何だか變だ」云ふ事は、段々こんな風に話を突きつめて來ました時に、保育方法の實行所を云ふ風に幼稚園がなつて居るのが、其處が「何だか變」になる所以ではないかと思ふ。保育方法を云ふものが一つ何か考へられて、その保育方法を此處に實行します、云ふ風に定めて行く趣きが、幼稚園を云ふもの及びその幼稚園に於ける子供の本當の生きた生活を、何處かで殺したり固めたりして行くのじやないか。

幼稚園に、何だか子供の匂がしないで、幼稚園らしい匂がブン／＼と鼻につく。その匂は何處から來るか云へば方法を云ふものを先に拵へて持つて來る、その方法に付いて居る匂ひではないのでせうか。況んやその方法が十年來ちつとも變

らない方法であれば、古臭い匂ひも付きませう。或は七月に使つて居た方法を休みの間、何處かに藏つて置いて、九月になつて又その方法を出して來て使ふ云ふ事になれば、この間に徹臭くなつて行きませう。仍で古い方法を換へて新しい方法にして行けば、その古臭さは減つて來るのでありますけれども、然し如何に新しい方法であつても、方法の方を先に立てて置いて、それを子供にやるこ、斯う云ふ風に考へるこ、何處までもその方法の匂ひ云ふものは逃げ切らない。斯う思ふ。

之が實に幼稚園の難しい所で、方法が定つて居て方法を適用するこ云ふやり方、この方法を如何にして子供に合せるか云ふやり方ならば難しい事ではないけれども、一人々々の子供に方法が生れて來るこ考へる所に、此所に實に幼稚園が始終生きて居る所以を生じ、幼稚園の臭さを除いて居るものではないかと思ふのであります。

これは後の事に繋ぐ問題として、之だけの事を申上げて置きます。之で幼稚園保育眞諦云ふ事の概括的なお話を終る次第であります。

二、保育案の實際

一、無案保育

これから第二の保育案の問題に這入りますが、私の平常説いて居ります處が、從來の或意味の保育案に對して多少非難を試みたりするものでありますから、その意味がちして我々の考へ方は、全然保育案なしで以つて幼稚園をやつてゆく事を主張してゐるかの如く取られてゐる事があるのであります。是れを假りに無案の保育と申します。然し乍ら、苟も子供を集めて目的をもつて教育をしてゆきます時に、全然何等の心構へ、或は計畫、或は規定、立案云ふ様なものが無しでやつてゆける筈はないのであります。若しさう云ふ事が出來たとするならば、これは恐らくその日暮しになつてしまふと思ふのです。故に我々は保育案云ふものを立てる事、その事については決して反對しないのであります。若しも非常な

頭の中の自由主義よりも、性質上の自由主義の放蕩な人がありまして、行き當りばつたりで毎日の保育をして居つて、それが新しい保育である云ふ事を云ふ人があつたさしますれば、是は、私共として無責任な保育者として反對を仕度い位に思ふのであります。

二、保育案の意義

然し乍ら、だから云ひまして従來行はれてゐる或種類の保育案そのもの云ふよりも保育案の立て方の根本の考に就いては、私共多少の疑念を持たざるを得ない。是れは何も變つた事を申すのではなくして、今迄考へました幼稚園保育の眞諦云ふものをあゝ云ふ様に考へる事を許されるならば、保育案も亦あの上に乗つて來なければならぬ。幼稚園保育の眞諦は子供の生活に教育を持つてゆくの、此方に目的はあるけれども、日々に行つてゆく保育の實際の動きは、子供の性質の方へ此方から合せてゆく云ふ様に考へたさしますれば、その子供の日々の生活を無視した此方の目的だけを盛り込みました保育案が、幼稚園として適當でない事は當然の結論になつて來るのではないかと思ふ。

ですから保育案の如何云ふのがいゝか悪いか云ふ様な議論は、保育案そのものを比較していゝ悪いを考へる前に、その幼稚園の取つて居ります處の子供の生活に對する態度の如何に依つて違つて來る事を認めなければならぬと思ふ。その意味でまあ、悪口を云つてみますならば、従來保育案の中に於て行はれてゐる色々なものの中には、私共からみれば幼稚園保育眞諦に於ける保育案と稱する事の出來ない保育案がありはしないかと思ふ。單なる時間割に過ぎないものを保育案と稱してゐる方があります。例へばこの講習會に於きまして、お手許に配つてあります名簿の裏の時間割が、きちんと四角の枠の中へ填み込みまして出來て居りますが、あれは決して此の講習の皆様を、さう生活させようか云ふ意味から云つたさすれば、何等の意味をもつてゐないものであります。此方の方である目的をもつて居りますので、その目的を六日間の午前午後如何分つのが便利であらうか云ふだけです。丁度、何か御馳走を拵へまして、お客さんに如何云ふ風に是れ

を盛り分け様か云ふ、皿の盛り方をしてみるのミ別に變つた意味を持つてゐないのであります。あゝ云ふものは保育案じやない。月曜日の何時から何時まで何々をして……云ふ譯で、一週間の間に談話が幾つあつて、隨意課が幾つあつて云ふ事を角の中へ細切れの様に、切貼の紙の様にその中へ盛りました處で保育案ではない、時間割であります。私が何もさう云ふ事を申すばかりじやなく、又別段さう云ふ判然した聲を表へ出して云つてゐる人がある譯じやないが、近來の色色の所謂新しい幼稚園の方を御覽になります。保育案云ふものミ時間割ミは別になつて居ります。さう云ふ例を申上げますれば數年前にコロンビヤ大學の幼稚園及び尋常一年を合せました幼稚園から出して居りますコンダクトカリクラムにその例があります。又、ミス・ヒルの案には、幼稚園及び低學年教育は、概念を主とした教育でなくして、動作、行ひ、性格の實體的なものをもつてその内容ミする、云ふ處から、コンダクトカリクラム云ふものが出來てゐる。そのコンダクトカリクラムの事は、その本が出て後、始終こんな事を申上げて居つたのであります。幸にして、つい數日前、私の手許へお送り戴いたこの本が即ちコンダクトカリキュラム、でコロンビヤで出した本であります。大阪の保育會の調査部で譯されて、大阪フレール館支店で發行して居りますが、之は大阪保育會の立派な業績であります。是れにはコロンビヤの幼稚園及び一年生が、如何云ふ風に教育されてゐるか云ふ事の、一年中の計畫が載つてゐるのであります。是れは御參考の爲に御覽になります事をお勧めしたのであります。「コロンビヤ大學附屬幼稚園及び低學年級の過程」ミなつて居ります。その本を序に御紹介をおすゝめしたいのであります。この本をバラ／＼開けてみます云ふミ、これ全體が保育案でありまして、私の考は兎に角、コロンビヤ大學で考へてゐる保育案はこれでありまして、その中に特に時間割が這入つて居る。時間割ミ保育案は別なのであります。此の時間割をミつてしまつても保育案があります。保育案の中へ、保育案を運用してゆく處の極く實際の心覚えミして時間割が出てゐるに過ぎないのであります。ですから昔の幼稚園の保育室の入口に掛けてありました藍筋の時間表、あゝ云ふものが即ち保育案云ふ考へ方は先づ私の意見ミ云ふよりも、誰が考へ

ても別なものとしなければならぬかと思ふ。

そこでそれについての問題はその時間割は必要か如何か云ふ問題でありますが、最も新しいと稱されて居りますシカゴ大學の幼稚園、コロンビヤ大學の幼稚園、時間割を持つて居ります。私はもう古い事になりますけれども、是等の幼稚園を訪問しました時に時間割がきちんと附いてゐる事について非常な異様な感をもつてきたのであります。兎に角時間割が出来てゐる。その時間割は何時に幼稚園に来てさうして先づ何分間如何云ふ事をして、如何云ふことをして、段々午後になつてゆく云ふ様な事でありませう。處がこの時間割をみますと云ふに、我々の普通考へて居ります時間割と少し違ふものが發見されて來る。是れは段々にこちらから與へようとするものをあの藍筋の中へ切盛りをして入れたと云ふ教課過程時間割に過ぎないのであります。その教課過程時間割よりも、何時に手を洗つて、何時にはばかりに行つて云ふ様な種類の事が、ちやんこ時間割に大きな内容として位置をしめてゐるのであります。何時にはばかりに行つて云ふ様な事は、大さう無理の様な話でありますけれども、それも大體決めてあるのであります。これは外國の幼稚園と云ふよりも、外國の生活全體が實に御承知の通り、生活規則と云ふものが時間的にきちんとなつてゐる。極端に云へば日本のやり方はだらしないうり方だ云ふ西洋人が云つてゐる程に、向ふではきちんと云ふことなつてゐる。その生活の實際のきちんとしたものを幼稚園に於て崩さない様に、一層それを嚴密に守つてゆかう、さうしてよい生活習慣を子供に付け様、云ふ事が、大いに取入れられてあるのであります。この生活規則と云ふものを決めてゆく云ふ事を考へました時には、さうしても時間割を立てなければならぬ。つい遊んで居たから十時に飲ませる果物の汁を十一時に飲ませてしまつた、だから順に御辨當が遅れた。何處か遠くの方へ子供を連れて遊びに行つて、ばつたが澤山居た爲にお辨當が三十分遅れた、云ふ事を平氣でやつて居れば、何でもない事ではありますが、さう云ふ事を非常に嚴密に考へる、時間割を元にして先生はその所でも始終考慮して考へなければならぬのであります。でありますからこの時間割に就きましてはさう云ふ生活規

定の方を主體として、コロンビヤ邊りの幼稚園でも立てられてゐる。私はこの問題それ自身に就きましては、改めて申上げる事があると思ひますけれども、兎に角、その時間割が此方の教育目的の内容を切り盛りするだけの時間割とは違つてゐる云ふ事だけは認めておき度いのであります。よき家庭に於きましては矢張り時間割があります。何時に起きて何時に顔を洗ふ。だらしなくぶら／＼してゐないで何時には朝御飯が食べられる様に、何時にはお八つ、何時には睡眠、何時には又お八つ云ふ事がきちんと決つてゐる。その生活過程の内容の事は決つてゐない家庭生活に於いて、この時間割は立つてゐるから、幼稚園に於いてその意味の時間割がある事は當然だと思ふ。

然し乍ら、若しもさう云ふ事でなくして、唯、談話、自由遊び、唱歌、觀察……、觀察が又此處に出たから一日おきにしようとか、此處は重なつてゐるから見た體裁が悪いからよさう、云つた工合に、丁度時間割を、事務員か工場かがしゐる様に、さうしたら是れが當て嵌るだらうと思へたり、始めての保姆がさうしても觀察が三つ這入らない、苦心する様な、さう云ふ時間割はいらんと思ふ、いらん云ふよりもさう云ふ時間割が生活へ教育を持つてゆくあの保育の眞諦に於ては、そんなに出来るものではないと思ふ。ですからその生活云ふもので子供が夢中になり生活が満されて居る時に、胃袋の方はちやんこ機械的に運動してゐるから、此處でお八つをやらなければならぬ云ふ様な時間割を決めるならば宜しいのであります。そこで今申して居ります事は二つの問題がこんがらかつた様であります。先づ時間割云ふものが必要でないか云ふ論を半ば云ひ乍ら、寧ろ時間割を保育案とは別なものだ云ふ事を力説してゐるのであります。時間割が即ち保育案ならば、是れをその日暮し幼稚園に對して、あてがひ、ち幼稚園を名付け様。先生今日は何をやる？私の生活なんかは、あてがひ、ち幼稚園ではさせるものか、云ふ子供が出て来る、先生の方で、子供の生活がみんなに澄刺してゐるか云ふ事はみんな感じない。唯あの時間割できちんとやつて居れば、片方に時間割と同じ紙があつて、豫定通り／＼云ふ事を書いておけばその日が済むのであります。斯う云ふ様な事を私は保育案云ふものに入れ度

くないのであります。入れ度くない云ふよりはさう云ふ事は生活を主にしてゐる場合には出来ない事でありませう。

さうするに保育案に云ふ事の本當の意味は何であるか云ふ事になります。是れは、私の考を一杯に強めて云つてしまひますならば、幼児生活の自己充實に、此方で案を立てた様なものであります。充實指導に案を立てた様なものであります。本當に案らしい案が立つのは、幼児生活の誘導の處へ案が立ちます。誘導の本體として計畫される處へ案が立ちませう。即ち幼児生活そのものを、さう拵へ、形を變へてゆくか云ふ事ではなく、幼児生活をさう誘導するか云ふ處に、保育案が立てられると思ふのであります。

それからもう一つ保育案の意義があります。今のは何處までも子供の生活を本體としてそれに即して考へたのであります。すけれども、云ふ迄もなく保母諸君の方にも目的がある、その目的を、片寄りなく子供の生活の中に持つてゆくに就いて、全然先生だけの注意として、斯う云ふ方が缺けない様に、斯う云ふ方が多過ぎない様に、云ふ事に注意して案を立てるに云ふ事は必要だと思ふ。殊にその目的は、漠然たる大きな大局的目的が實際化して來るのでありますから、一番小さい子供にはどんな事をしやうか、年長の者にはさう云ふ方面をすゝめやうか、斯う云ふ目的が子供の年齢に應じて色んな方面に分れてゐるに相違ありません。それを此方で用意しておかねばなりません。子供の生活から云へば、さう云ふ事を中心にして子供の生活を誘導すべきか、云ふ案が立ち、此方の方では、その誘導案の中にさう云ふ事を始終心掛けてゆくべきか、云ふ事を自らの覺えとして案を立てる。即ち保育案はこゝに子供の生活に即する方の意味を、保母諸君に即する意味を二つになると思ふのであります。

これを、私はよく食物の例ばかり引きまして人柄が見える様な氣が致しますが、例へば家庭で心利きたる主婦が生活の獻立を立てるに、これは寄宿舎なんかの、或は兵營なんかのメニューに云ふものは少し違つて居ります。あの寄宿舎、兵營のメニューは、それへ一々書込んである、何であるか知りませぬが、朝、味噌汁、いんぎん豆、蕪、薩摩揚げ、

晩は何でせうか、御馳走でカツレツ。その次は朝がトースト、晝が……まあさう云ふ様に色々書いてある。その色々配當して出來てゐるのでありますが、これを料理方が見ては拵へてゆくのではありません。斯云ふメニュー云ふものは、これは出來上つた料理そのものを配當してゆく様なものでありますから、大抵の場合には、その家で出來る料理、可能性の繰返しになつて來るのであります。同じ様なものがくつつかなければいゝ、朝も味噌汁、晝も味噌汁、晝も味噌汁云ふ様にならなければいゝ、ミ云ふ様に配分して居るだけで、特別にさう云ふ風な何をセンターにして、その食事を愉快にするかミ云ふ事はしてない。この食物はこれは一定の時間に皆が來て食ふのでありますけれども、生活が色々に流れて來る、それ〴〵の違つた都合で生活が動いて來るのに、その動き通りにきちんとして何が何でも何月何日の配當なら、精進揚げを食ふなければならぬ。何月何日には寄宿舎中が何を食ふなければならぬ云ふ様に食事や何かはきますが、保育案は子供の生活の方から動いてきますからさう云ふ案は立てられない。然し乍らいつ歸つてきても何を食へてもいゝ云ふ譯にはいけない。少し氣の利いた料理方ならば、色々食卓の上に中心的な料理がありその他には色々おもしろいものがありまして、それを多少時間が遅れて出て來ても食臺にあるものを適當に取つて食へる云ふ様ないき方になつてゐる。あの船なんかにお乗りになります、今日はこれだけのものが出來る云ふ中に、今日は特にこれがスベッシュタルミでも申しますか、特別にいい魚がありましたから刺身をする云ふ様に中心料理がありまして、それが嫌なら他のものを食べてもいゝ云ふ、中にはこれを食へない云ふ損だ云つて船の中で腹をこわす人があるが、お客を喜ばず全體の食卓が出來てゐるので、都合が悪かつたら後で食臺に行くか、外の人と違つたものを食べても勝手であります。斯云ふ出鱈目ではない、あり合せをそこへ出しておくのではなくて、ちゃんミ計畫はしておくが、何が何でもコロッケを食ふなければならぬ云ふ様にきちんさない、食卓の案はあると思ふ。

これは大さう贅澤な方になりますけれども、保育の場合に於いては、斯云ふ考へ方より外に仕方がないと思ふ。向ふが

向ふの生活に居るのを、何處までも主にしてゆくののであると考へる以上は、向ふの通りに委せるものであると云つて、何でも好きなものを食はせる。朝、いきなり刺身を出せと云ふ様な無理を云ふのでは困る。ある範圍内で、さう云ふ事が出来る様にしておくに云ふ保育案が、普通の所謂機械的メニューと違つたものとして出来ると思ふ、處が何を食べてもいゝと云ふものがそこへ出来て自由を許しますが、それを食べてもこの人達に食べさせ度いと思ふものばかりを出して置く様に注意しなければならぬ。ですから幼児が保育案に基いて自由自在の生活をするにしても、その自由自在の中に、先生としては、Aに偏しない様、Bに偏しない様、ある方面だけの生活に偏しない様に云ふ注意を始終すべきでありますけれども、何もそれを此方から料理の上に現に此方の目的を出してゆくのではない。こちらの目的は中に入れておかなくなりやならぬ。

斯云ふ意味で、誘導生活の中では、子供自身が食卓へ出て何を食はふかなあつてしまつて考へてゐる中に時間が経つて仕方がないから、お茶を飲んで騒ぐと云ふ無駄な事もしないし、又あの食卓のメニューは、兵營に於てする様に、何でもかんでもこれを食べなければならぬから食べるに云ふ風でもなく、そこには自由さがある。纏り云ひますか、指導と云ひますか、誘導と云ひますか、朝寢の方は不愉快な思ひで食卓に出ても食ひ度くなる様に誘導される様にそれが出来る、それを誘導されるは露知らず、勝手に思はず自由にこつて食べますが、その中には必要な滋養價値が配分されてゐる。斯云ふ様に出来てゐるのが保育案だと思ふ。あてがひ扶持保育案と云ふものは、私は保育案の本當の意味を持つてゐるものじゃないと斯う考へる。

三、誘導保育案

そこでさう云ふ意味から保育案を考へて來ますと、その保育案はさうしても誘導保育案になつて來ると、斯う思ふのであります。

若しも此處に、幼稚園ミ云ふものは先生の計畫通りになつて、きちん／＼ミ教育効果を擧げてゆくのが立前であるミ考へ、何分おきに如何する、斯うするミ云ふ事をきちん／＼ミおきめになつて、丁度何か儀式の時に立つて座つてお辭儀をして、次は歌を歌つて立つて、ミ云ふ事が時間割に分けてあつてその通りやりますが、あんな風にまで神經運動を細かくやつてゆかうミする事は、實際のない事でありませう。それよりも一年の間ミか、一月の間ミか云ふ様に、こちらでは誘導案を立て、おくのであります。子供が幼稚園へ來て何をするかは分りません。此方が出来るのは誘導だけであります。

誘導以外の事は子供が來てからするのであります。子供が居ない中に立て、おくものは誘導だけであります。子供が來たならば斯云ふ處に充實指導をしてやらうミ云ふ事を考へて居りましたが、出て來てその通りやつてくれないミ充實指導が出来ませぬ。けれども、此方でさう云ふ様に子供を誘導しやうかミ云ふ事は、子供を離れて考へておく事が出来るのであります。此の誘導保育案を立てる事が私は保育案の先づ一番本當の處じやないかミさう思ふのであります。

その誘導保育案ミ云ふものは、實際的に申しますれば何であるか、自分の幼稚園の事を例にひきまして、何でありますけれども、例へばある組では水族館をもつて誘導保育案にしておられます。又或組では汽車の遊びをもつて誘導保育案にしておられます。或組では八百屋、玩具屋、或組では海底、釣遊びを誘導保育案にして居る。或は昨年澁り雜誌なごに引きりに載つて居りましたが、或は自動車誘導保育案になりましたり、或は汽車がなつたりして、何か子供の生活に或纏りを與へる様なものを配當しておるのであります。その纏りはすぐに皆様、實際家としての問題がそこに出来来ると思ひますが、一年の中に斯云ふものを幾つしたらいいかミ云ふ様な問題であります。これは、二つのコンデションで決つて來ると思ひます。

一つは子供の年齢になりますが、若しも子供の年齢が極く若い時分に於きましては、生活を中心的誘導で纏める。纏めるのではないが誘導してゆくに就いてその期間が短かゝらざるを得ない、厭きつほいミ云ふよりも、興味が發展してゆく

力が短かゝらざるを得ないのであります。都合によりましては、これが一週間後に別の誘導保育案に移つてゆかなければならぬかも知れませぬし、一月後になるかも知れませぬし、長くて一學期で止まるかも知れませぬ。子供の年齢が段々進んで來ましたならばその生活が連続してゆく力が多くなりますから、そこで都合により一年一つの誘導案で通すところがあるかも知れませぬ。ですからこれを幾つするか云ふ事は、條件的に客觀的に云つてみれば子供の年齢によつて違つて來るのであります。年齢ばかりじやないのであります、子供によりましては、同じ年齢でありまして、一年保育で這入つて來た子供には、これを一區切りにしては纏りが付かないかも知れませぬ。三年保育であつた場合、追がに其の子供達は、生活が或連續性に於て練習されてゐる爲に、これが少し連續性の多い保育案でも構はない云ふ事になるかもしれない。一定の一つの事を、何分見つめられるか云ふのを注意繼續時間云ひますが、この注意繼續時間の外に、興味繼續時間云ふものもあります。興味繼續時間云ふのは、何分何秒云ふ様な實驗心理學的の見地で出て來るものでなくして、これがずつと幾月續くか云ふ事でもあります。例へば引越の好きな人が大人の中にあるが、これは興味繼續時間の少ない人であります。一つの家に住居一月も經つと嫌になる。しまひには、一月毎に變らなければ氣持が悪い云ふ様になつて來る。勿論、移らない人が興味繼續時間が長い云ふ事はありませぬ。厭きてきても金が無かつたり。無精だつたら移れませぬから……。

何か研究をするにしても、仕事をするにしても、その興味繼續時間の長いか短いかによつて結果が違つてまゐります。この興味繼續時間は、彼等が保育に於きまして養はれてくる大いなる結果であるから、先生は、これは相當に用意しておいた方がいゝと思ひます。形だけの誘導で、實際に子供が誘導されないのではつまらないのであります。あてがひぶち案でなく、誘導保育案を次々こ、變つたものを持つて來る様に、先生は相當に用意しておく事を必要とします。

もう一つこれの、一年にどの位これが運ばれるか云ふ問題に就いては子供の問題の外に、この案そのものゝ意見による

のであります。この案そのものが發展性をもつて居るものでありますならば、この案自身が形を變へてぐんぐん發展してゆくと思ふのであります。寧ろそれ自身發展性の少ないものでありますならば、これは種類を澤山にしておくより外ないのであります。この發展性云ふ事に就きまして又二つの方向がある。外へ向つて發展してゆく發展性云ふ、そのテーマがつてゐる、内に向つて發展してゆく行き方云ふある、内へ云ふ何ですが、色々内へ云ふ細かになつてゆく行き方であります。例へばあの食堂が出来て居りますステーションの保育、即ち、あそこは所謂、交通機關云ふ事から始つたのであります。子供の漠然たる概念からして、小さな子供では切符を切つたりする事で濟んでゐる。處が子供自身はその内部が、内部的發展を遂げて來て、何かなくちやいかん、云ふ様に感ずる。進んで考へますれば、あの中で料理が出来、何か出来るかも知れませぬが、終ひには、すりが出て來たり、色々出て來るかも知れませぬが、あれは相當に長く繼續すると思つてゐる。あれを外へ發展させやうとして、品川驛を拵へたり、靜岡驛を拵へたり云ふ風になる云、發展はしますが、その度に別なものになつてしまふ。

船の方：海岸に船がありましてお魚を釣つて居ります。あの船の方は、私は如何云ふお考へがあるかも知れませんが、——船はさう内部發展はしないものだと思ふ。子供が船について持つてゐる興味が、さう細かに……ステーションに就いて内部的に集中的に發展するに比べるとあれだけのものである。そこであう云ふものは子供によりましたならば、繼續度が少ないかも知れませぬ。勿論、釣は子供が好きなものであります。幾時まで釣つても厭きないならばそれはそれで繼續して參りますが、あの魚を料理して食ふ云ふか何云ふか云へば、船は違ふものに發展してゆく。斯う云ふのがいゝ悪い云ふのではないが、内部發展のゆくもの云ふ、外部發展のゆくもの云ふ問題によつて違ふと思ふのであります。そこでその關係からしまして、内部發展の端的であるものならば、一つのテーマで相當長く續く考へます。外部發展が主になつて來る云、隨分これは變つてゆかなければならぬと思ふのであります。

今迄申上げました様に、一年の中に幾つ位これが這入つて居るか云ふ事は、子供の方の關係に、テーマそのものの方の關係によりまして、色々變つて参りませう。その誘導保育案を立てましてこれを——つまり私も言葉で云つてしまひましたが——所謂、幼児生活がそれを中心として行はれる、それを行ふのではない、それを中心として、それに導かれたり、それに暗示を與へられたり、それに促がされたり、事によつたらそれと反對の暗示をおかれた場合もあるほゞ、それ自體がさせるのじやなくて、誘導の力を持つてゐるテーマをそこに作るのであります。これが保育案であると思ふ。本年度に於ては子供に斯う云ふ事をやらう。一學期は斯う云ふ事をやらう、二學期は斯う云ふ事をやらう、三學期は斯う云ふ事をやらう、それには二つ位に分けて斯うしやうと云ふ案を此處に分けるのであります。之れは從來、全然行はれていなかった事じやないのであります、私が見る處を申しますならば、從來は普通の所謂キチンキチンとした保育をやつて居つた、その間、時々斯う云ふものが餘興的に挟まる。そこで斯う云ふ案を入れますと、此方の事は出来ない云ふ様な、變則的な事柄の様に終る向があるが、多少或る緩おなまみ云ふ感じが伴つて居たんじやないかと思ふ。さうも子供がこればかりでは單調であるから、時々催し物をする云ふ事になつて來るのではないか。私の考ではテーマを選択して、この案ですつと通して行かふと思ふ。

四、保育案の據りどころ

誘導保育案云ふものを——私は之ればかりで保育案を立てゝゆき度いと思ふのでありますけれども——假にこればかり云ふ事がいかんじししても、さう云ふ案は立つ事は認めるに致しまして、そこでその保育案云ふものを何でも考へられますが、汽車でも、電車でも、山でも、海でも、八百屋でも、玩具屋でも何でも考へられますが、これをさう云ふ處を據り處にして、それを子供に持つてゆくであらうか、選ぶであらうか。

これは別に特別な事を考へる迄もなく、要するに適當なものをもつてゆけば宜しいのであります。然も適當云ふ意味

が色々でありまして、誘導保育案の誘導の意味を、誘導價値を發揮します爲には、子供の興味に合したものでなければ、誘導價値を發揮しませぬ。寧ろ純理窟から申しますれば、子供の興味そのものから誘導保育案が作られて来る云つてもいゝ程なのであります。そこでその子供の興味を此方から探りを入れておきますに於ては、云ふ迄もなく二つの事になつて来るのであります。

一つはその年齢の子供が持つて居ります處の心理的興味である。その年齢の子供は、心理的にさう云ふ興味を持つて居るか云ふのが一つ。

第二には、その子供の環境がその子供に促して来る興味、即ち、社會興味とか、社會條件とか云ふもので、その條件は或は季節であるとか、或は年中行事であるとか、或はその時々 of 事柄、例へば、今度の防空演習云ふ様な事も這入つて来るかも知れませぬ。さう云ふものが適當に取入れられ、それを據り處にして誘導保育案が出来て来るのであります。

五、保育案と保育項目

ところで此の保育案を作りました時に、こゝまで立てゝやりましたならば、これは子供を面白く、楽しく暮らさせるよきお相手としての任務が一つすむのでありますが、もう一步進んで、所謂教育云ふ意味を加へて来る云ふ事になるこゝの先き色々考へる問題が起つて来る。

そこで例へば八百屋云ふものを誘導保育案として一つ立てたします。これを春やるがいゝか、夏やるがいゝか、秋やるがいゝか云ふ事は決つて居りませぬ、何んでもかんでも八百屋をせよと決定してゐる譯じや無論ないのですけれども、幼稚園の子供には本屋よりは八百屋の方が興味があるかも知れませぬ。或は呉服屋よりは八百屋の方が興味があるかも知れませぬ。又その子供の環境によりまして、八百屋の方は御承知の通り、子供には面白いに違ないが、今それらの事は實際的に考へられない。それでこれが選ばれますと、これから先は、八百屋の遊びでありますが、これがぎれだけの教

育目的を實現してゆく可能内容を、この中に含んで居るか云ふ事を、綿密にやつてゆかなくちやあならぬのであります。八百屋でありますから、兎に角、果物を置きませう。或は野菜を置きませう。その果物、野菜なごをおきますならば、それから觀察が出来る云ふ事は當然にたちます。或は又、その八百屋に看板を懸けたり、ピラを書いたり、色々果物の名前を書いたり何かします事から、此處に文字の問題が這入つてきます。或は八百屋を元にしまして、勘定をする事も這入つて来るかも知れませぬ。或はこれの中へ竝べますものゝ種類に就いて、製作の問題が此處に這入つて来る事は勿論であります。斯う云ふ意味で、それ〴〵の色々な事によつて何が教育されるか云ふ事をこの中に配當してみる。出来得べくんばその配當の澤山出来る誘導保育案が誘導保育案として有效な譯であります。

水族館云ふものをこゝに立てたこゝにしますれば、その水族館についても亦斯う云ふものがずつこ出来てゆくのではありません。然も、斯う云ふ事を私が特に云ひますのは、知りきつた事ではありますが……從來云ふよりも、近頃の從來であります。斯う云ふ様な何々遊び云つたものをします時に、その價値を、賣買ひ云ふ様な事に大變に重きを置く。八百屋遊び云ふものの中には、一種の社會遊びとして賣り買ひもある。八百屋を中心として、その出来て来る生産關係を考へれば、寧ろ農業生産のもので、商業のものではない、遊びがそれを如何う遊ぶか云ふ事が主になつて居つて、それを出来てゆく、作つてゆく云ふ處に保育の色々なものを順々に配當してゆく云ふ事が割合に手輕く考へられやしないかと思ふ。

この事に就て、私は始終考へて居るのでありますけれども、所謂、手技の方はものを作るプロセスを尊重して、出来たものがさうゆく云ふ事は、往々にして輕くみられてゐる様な風があります。電車を拵へて出来たらそれでお終ひである。子供は電車を造るのが目的ではなく、電車遊びが楽しいのに、出来たものを動かさないうで、出来上つたものを成績品としてしまひ込まれてしまふ。玩具は玩具で別なものが充てがはれる云ふ事になるのであります。手技の方はプロセスを尊

重して動きの方が軽んぜられる様であります。今でも、何々遊び、何々ごっこ云ふものは、その運轉手の方が主になつて、作つてゆくプロセスの方がそれよりも軽く見られてはゐるはしないか云ふ事を私は考へる。これをよく詮索してみます。云ふに、さう云ふ様に考へられて来る、無理も無い點があるのであります。子供が純粹の遊びの中でやつて居ります。マ、ゴトにせよ、何々ごっこにせよ、それは凡てプロセスを極めて簡略に間に合せ、イマジネーションで補ひ、八百屋ごつこをしやう云へば、石ころを持つて来て胡瓜や茄子にして賣つてしまふ。兵隊ごつこをしやう云へば道具なきは考へないでやつてしまふ。何々ごつこを子供自身がやります世界に於てはその間のそこまでゆくプロセスよりも、その直接の遊びの方へすぐ行くのであります。

さう云ふ處から、斯う云ふ八百屋遊び、水族館遊び云ふ様にしてゆきます。結果の方へ遊ぶ様になつて来るのも免れないと思ふが、此處の幼稚園では、これが動いて八百屋遊びになり、水族館遊びになつてゆく。ポテンシャルインテレスト所謂潜在的な興味を元にして、さう云ふ長い間、個々の途中をやつてゆく、此處に幼稚園のいき方があると思ふのであります。

家庭教育では、「お母さん水族館遊びをする」云ひ出したします。「それじゃ水族館に魚がなくちやいかん」云ふものを集めてくる、何でも出来るかも知れませぬ。

處が、幼稚園では、個々の處に力を入れるのが、所謂保育の教育目的を到達する所以でありますから、子供の方では魚が作り度いではなく、水族館でポテンシャルインテレストに誘導されてゐるのであります。此處を先生の方では——こゝの處を、これが所謂、先生の一つ一つの誘導保育のテーマの中へ立てたものが這入つてゆく云ふ事になるのであります。所謂この中へ這入つてきますものが、幾つでも這入つて來ます、これが保育項目云ふものに當りませう。保育項目を組立て、保育案を作るのじやないのであります。誘導保育案を立て、それをさう保育項目に利用出来る

か、ミ、斯う逆に考へてゆき度い。保育項目の羅列が保育案でもなく、保育項目が縦に羅列して何等中心のない並び方をも、私は保育案ミ云ひ度くないのであります。これは保育案の配當案であります。さうじやない、生活のテーマが先にいつて、よくみる色々なものが這入つて来る。その次の誘導保育では前の案に缺けてゐるものを入れ、又這入り過ぎて居るものを省く事になりませう。保育項目をさう云ふ風にして入れてゆき度いミ私は思ふのであります。

六、保育案の立案度及徹底度

例へば、八百屋の遊びの中にも水族館遊びの中にも観察があるミします。漠然たる観察に止るミ大まか過ぎます。これは當面の責任の不忠實であります。この観察の中で了解をして居る名があるならば、これをやらせ度いミ思ひます。烏賊ミ蛸ミ違つた處があるミするならば、兩方やらせ度い。蟹ミ蝦を作らせ度い、ミ云ふ様な事を考へる。或は八百屋であるならば、茄子ミ胡瓜ミ云ふ様なものを並べてゆくのもいゝでせう。こゝにつまり観察の内容に就いては細かいものを見るのであります。先程の言葉をもう一度申してきますミ、こゝだけが子供に對して、誘導生活をもつて望みます。これから先は先生の懷覺えであります。即ち懷メモミしてさう云ふ様にする。さうかするミ此處の處を並べて保育案ミ稱し、觀察主義で分けて、その中の何をさせ、かにをさせるミ云ふ事を機械的に並べてゐる事を私は嫌ふのである。これは先生の覺えミして、子供の生活ミして行はれてゆく様にしたいのであります。そこで保育案の極く實際は、斯う云ふ様にゆきやしないかミ思ふのであります(圖を板書せらる)。

こゝに水族館ミ云ふものが大きく這入つてしまふのであります。

極く極端に話をすれば、切り方、並べ方、七夕祭ミする。切り方ミ七夕祭は違つたカテゴリーに屬する。こゝに年齢に就て、此の一つくが、さう云ふ保育項目が、さう云ふ様に巧く配當利用出来るだらうかミ云ふ事を見るのであります。さう云ふ個の保育項目を、それくの中で分けてゆくのであります。さうして個々に就いてすつミ見通しますミ云ふミ、

この意味からも偏せざる教育目的を子供に與へる事になる。斯う云ふ意味で私は保育案を云ふものは斯う云ふ全體のものが立つのじやないかと思ふ、そこでこゝを誘導保育案で立てまして、さうしてこゝの所までは先生が指導的にゆくかと思ひます。

今日はまあ、八百屋の店の方をしませう。八百屋が出来ないのに、いらつしやい、いらつしやい、なんて云つて居る子供があるさします。さう云ふのは將來、有望なる賣子になるかも知れませぬが、それは幼稚園としては反して来るものですから、そこで、賣り度くてたまらない子供があるかも知れませぬが……又八百屋遊びをしませう云ふみずつこお金ばかり拵へてゐる子供がある、さう云ふお子様は實に將來いゝ奥さんになるかも知れませぬが……こゝの處で、お金もいゝし、賣り方もいゝけれども、先づ買出しに行きませうよ、云ふ處から始めるとする、近所の八百屋に連れて行つてもいいでせう、そしてあそこで取引きをする云ふ段階を経てもいいでせう。農園を作つて知らするならば、或は外へ行くのもいゝでせう。水族館なら蛸踊りなんて云ふものを考へる。

さう云ふ事をやつて來まして、こゝに來ますと、先生が斯うしろ、あゝしろ云ふ事は出来ませぬ。そこで此處は充實指導の方へ子供にくつ付けてゆきまして、子供が鯛なら鯛でも食つて居ります時に、そこへ出ていつて子供のする處に、充實指導の道を取つてゆくのであります。

斯う云ふ様に出來たならば、實に生きてゆくのじやないかと思ふ。尤も根本的に申しますれば、皆が保育案を作る必要に差し迫り、實際は子供の爲ではなく、自己の爲、大部分はお役所の爲に考へる事があります。保育案を示せよ、云ふ、そこでお役所では配當を纏めるのであります、さうも遊戯ばかりやつてゐる、暑いものだから睡眠保育ばかりやつて居はせぬか、云ふ事が當局としては心配でありますから、保育項目がきちんとこゝいつてゐる云ふ事を知つて置き度いのであります、幼稚園では斯う云ふ様なものを此方で拵へて見せてやつたらいいと思ふ。役所に出すもの、此方でやつ

てゐるものと同じでなくともいふ。此方の考で保育案を作つてやる。これは實に、動いてゐるまゝを豫め案を立て、おいて、さうしてその中で何がどの位になつてゐます、云ふ事を役所の方には出したらいと思ふ。さうして何處かへこれを書込んで置きます云ふ意味で、明に實際を付けたしてもいふと思ふのであります。斯う云ふ譯で、保育案云ふもの恰好も違つて來ると思ふのであります。

さてその保育案が出来ました時に、その案がどれだけ子供に向つて徹底して來るか云ふ事、若しも、あてがひ扶持案でありましたならば、その通り子供にさせなければならぬのであります。この保育案は餘程、誘導性が多いものでありますから、必ずしもその通りさせる事を條件としてゐない。そこでその程度が子供の年齢等で大變に變つて來ると思ふのであります。所謂、何處までその保育案云ふものを窮屈に、嚴密に徹底させるか如何か云ふ事は、子供がその誘導保育案にさう附いて來るか云ふ事だと思ひます。もつこそれを徹底的に考へれば、若しも此處に、子供の生活にびつたり合つた保育案が出来て、それが巧い具合にきちんさいきましたならば、その保育案の徹底もさう云ふ様に強い要求をしないでいふと思ひます。こちらではいふ積りで立てました誘導保育案が、子供には、さう云ふ譯か充分深い注意をひき得なかつた云ふ時には、さう強い徹底を要求する事は出来ませぬ。處が水族館を作つて置きましたならば、子供は喜んで、もつこやらう／＼云ひましたならば、そんなに魚の種類が多くなつても構ひませぬ。處がさうかした加減で、面白くなかつてしまふ云ふ様な時には、この決定は加減をする事は止む得ないのであります。それでありませぬから、小學校に於きまして、教授細目が徹底性を元にして行はれてあります。

七、保育案と自由遊び

さて斯う云ふ様にして出来て來ました保育案の持つてゐる、一つの大きな特色として、その保育案に依つてやられて居ります保育は、所謂子供の自由遊び云ふもの、極めて自由なる關係に置かれてくるのであります。從來の保育案云ふも

のは自由遊びと違つたものであつた。自由遊びは子供の自由、此方であてがふ過程はきちんとしたもの云ふ考があつた。例へば此處に水族館があつたミすれば、その水族館に關係したものを部屋の中でやつてゐるものが自由遊びでないミ誰が云ひ得ませうか。或は外へ出て自由遊びをしてゐる時に、誘導保育案では自由遊びの仕方までが誘導されてゐるのであります。でこれが私、自由遊び云ふものミ、保育案によつて指導されてゆきますものミ、生活云ふ意味に於てちつとも變らないものになつてゆく妙味の存在するものじやないかミ斯う思ふのであります。

八、保育案と保姆

さて斯う云ふ意味の保育案を立て、やつてゆくミしました時に、保姆はさう云ふ位置に立つか。幼稚園の問題を考へます時に、保姆がさう云ふ位置に立つかミ云ふ事が一番大事な問題なのであります。

そこで生活を主にした幼稚園に於ての保姆の位置云ふものは、昨日考へました様な事ではありますが、誘導保育案を斯う云ふ様に作つた時に、保姆はさうするか。

若しも、此方の計畫を子供に強ひる、例のあてがひ扶持保育案であつた時には、保姆は子供の生活の外に立つミ思ふのであります。「皆さん、よく幼稚園にいらつしやいました、今日は何をするか私は考へてゐるが、貴方は知るまい。へびが出るか蛇が出るか、そんなものは出さない、面白く而して有益なものを出す……」なん云つて色々ゆつくりやります。中には亂暴な人で、何を爲すか決らないが、口上を云ひ乍ら考へてゐる人があります。さうして計畫してゐるのを出し、今日は折紙、なん云ふのを出して来る、子供は何の爲か知りませんが、先生が前口上宜しくやつてゐるから期待して居ります。斯う云ふ期待をポテンシャルインテレストに對して空待ち、空期待云ふ。その期待でもつて先生を信頼してゐるから、いゝやうなものでありますが、段々信頼しなくなつたら困る。それを期待して形式的に緊張して、何だらうかと思つてゐるミ、「綺麗でせう〜」云つて昨日も使ひ、一昨日も使つたもの、先生も約束した以上「綺麗でせう」空興味

を充實してゆく云ふ様な……さうしてそれは如何云ふ様にして……私には出来るけれども、貴方の爲に折つてあける。或は「出来る人あるかしら？」と人を馬鹿にして「出来たら私が拍手喝采する」と云ふ様な事をやる。これは一種の縁日のインチキ山師保育云つてもいい。

誘導保育案の場合に於きましては、そのテーマが誘導してゆくの本体としてゐるから、子供の来る前に出来てゐなければならぬ。苦心を要するこゝを先生がさうしても先へやつて居なくてはならない。誘導保育案では、テーマは先生が先に考へつてゐるなければならない。ですから保姆の位置は、几帳に隠れたるものではなく、保育案に基いて先生が先やらなければならない。抑々誘導保育案たるや、子供が相見れば、知らず／＼それを中心とする生活興味に引きづられてゆくのでありますから、子供が来てからじゃなくて、先に始めてゆかなければならない。

そこで色んな出方がありませう。八百屋遊びをしよう云ふ時に、先づいゝお天気だから散歩に行きませう云つて出るのもいゝでせう。八百屋の前に行つて綺麗なものねなごゝ立止り、場合によつては二つ三つ求めて来る云ふ様に、もう一つ前の誘導段階を拵へておく、保姆がさう云ふ様に具體的な先んじ方をしなければならぬと思ふのであります。

九、保姆の創造性

斯う云ふ意味でゆきました時に、保姆は非常な創造性を必要とする、云ふ事が出来る。この誘導保育案云ふものは、八百屋にしても、水族館にしても、始終保姆が工夫して先へ先へ考へてゐるのであります。「一寸これしませうか」と斯う半分指導して「それじゃ」と斯う子供がくつ付いて来る様なやり方でありませうから、保姆の方には創造性が無くちやならない。決つてゐるものを與へるのではない。今迄はさうかするに保姆が子供よりも先生として進んでゐる所以は、能力に於て進んでゐる事で済んで居つたかと思ふ。「貴方がこの紙で折つたつて巧く折れない。私は巧く折れる。御覽なさい。でも私にはかなふまい……」と云つた様なのが、所謂そのやり方で、即ち先生云ふものは、能力に於てすぐれてゐるこ

云ふ事で誘導してゆくのであります。しかしそれでは足りない。子供より創造性の強いものでなければならぬのです。

さて此處に皆さんがお氣付の通り、創造性の勝れた幼児の間に保育案があるのであります。幼児の、技倆の下手なる事は申す迄もありませんが、創造性に於て、實に潑刺活潑である云ふ事をよく御承知でありませう。私共相手して居りまして、子供の方がごんなに巧く創造をしても、表現する技倆が足りない爲に、もごかしくも、そこに出て來ない事がある場合があるのであります。先生は巧いけれども實に創造性に於て乏しい。人によつては相變らずのあれをやつてゐる人がある、二十年も同じ事を續けてゐるならば、巧くなるに決つてゐる。

斯う云ふ意味で誘導保育案を立て、ゆく上に保姆の創造性を非常に必要な條件とするのであります。

十、保姆の生活性

さて保姆は斯くの如く創造性で色々なものを作り出しておる。八百屋の店へ行つても色々變つたものをしなければならぬ。概念的でなくて實に一寸したものでも八百屋らしい、一寸此處が斯うなつてゐて八百屋らしい感じがするとか、例へば西洋の幼稚園の寫真を見るまよくある、人形の家が出來て居りまして、屋根があるでせう、壁があるでせう、子供が寢てゐるでせう、ザツボール、ミ云ふのでなくて、その子供の家を造りますミ、家根の處に鳥の巢を置いてみたり、犬を置いたり、或は呼鈴の鈴を下けてみたり、一寸したものを働かして生々してゐる、それが創造性であります。

八百屋にしましても、果物が置いてありますけれども、その側に野菜物に水をかける如露が置いてある、ミ云ふ様になつた仕組で子供がにこ／＼笑つてやつて居る。要するに生活興味を誘導してゆくのでありますから随分氣のきいたものになつてゆかなければならぬのであります。それからその生活興味によつて生々した子供が引立てられる様になりませうが、こゝに一寸子供はその誘導保育案によつて、八百屋なり、鮎釣なり、色んなものが出來て來たミする。子供はそれを作る事の興味を促されてそこに來たのであります。元來誘導保育案の出來ました所以が、生活の動きを本體ミしてゐる、

そこでこの出来て居りますものを、單に八百屋なるもの、水族館なるもの、こしないで、これを生活的に動かしてゆく。その生活態度を云ふものが保姆の方に非常になつて来る。

これは問題を大きく擴げますならば、學校教育に於きまして、實に教師の大なる缺陷は生活性の缺陷であります。創造性の足りない先生も居るが、生活性の無い人も居る。そう云ふ人は手紙を書いても、速達か書留か云ふ問題に就いて決定しないのであります。唯手紙を書いておいて、それを入れておけばそれでお終ひになる。こうではなくて凡ての問題を現實の生活に動かしてゆく、そこに目的の動きを先生が持つて、八百屋を作ります、子供が瓶を轉がしてゆきます。「駄目よ、その處は道端じやないの」云へば生活になります。「そんなに積んでお客様は何處から這入るの……」云へば、子供は優しいお客様が這入れないと思ふ、一口云へばそれが生活性になつて來ます。凡てのものを生活で生々して持つてゆく云ふ事は、氣が付かぬ人から見ると、氣の付く人はトレンチで云つてゐる様に見えますけれども、その人の頭が生活的に動いてゐる人ならばさう云ふ事は當然になつて來ると思ふのであります。

斯う云ふ意味で、私は誘導保育案を云ふものは保姆自身がその中へ這入つてゆく云ふ事、その方の創造性と生活性によりまして、更に生々したものになり、誘導性のタップリしたものにして、幼稚園に於きまして充分な位置を占めてゐるものじやないかと思ふのであります。

これで先づ第二の保育案の實際に就ての話を終る事にします。

三、保育過程の實際

一、幼稚園の朝

幼稚園保育の本當の意味を第一義に致しますると、その計畫案を云ふものは前申上げた様になると思ふのであります。

乍併、此所迄は理論ミ及び計畫でありまして、幼稚園そのものが本當に生きた働きを其處に表はして來るのは、毎日の所謂、保育過程であります。一日の保育が何う云ふ風に動いて行くかミ云ふ事に歸著するミ思ふのであります。又、保姆諸君のその人ミしての本當の働きが活躍して來ますのも此處でありまして、如何に立派な保育案が立ちまして、それに周到なる目的があつても、之を何う生かして行くかミ云ふ事は、保育過程に於ける保姆諸君の活動にまつのであるミ申しいミ思ふのであります。

其所で、その保育過程を、幼稚園眞諦に基いて考へて見たならば、何んな風になるかミ云ふ事が今申し上げる問題であります。之を斯う云ふ風に、ミ示せる様な、一般的形に於て考へる事は非常に困難な事なのであります。

理論は兎に角、其所に或一つの通有觀念を立てる事が出來ます。保育案ミ云ふものを立てるミ云ふ形式は、理論に於きましては一般に通用するものが出來得るのであります。日々の幼稚園ミ云ふものは、實に、其の日其の日變るのであります。或は其先生の人柄ミ言ひますが、趣味ミ言ひますが、良し悪しミか、上手い下手いを離れて、其人らしい幼稚園が實現して行くに相違ないのであります。之も此所に通有の一つの形式を立てる事は無理なのであります。寧ろ幼稚園過程が或通有の形式で、斯う云ふ風に保育して行くべきだミ云ふ型を示す所に、幼稚園ミ云ふものに膠をつけてしまつた様な窮屈なものになるのであります。之は自在にまかせておけばいゝ譯であります。幾つかの要點を考へて見度いミ云ふ丈の意味であります。

その意味からして、日々の過程に於ける幼稚園の朝ミ云ふものが非常に重要な意味を持つて來る事は申す迄もないのであります。幼稚園の朝が、如何に大事であるかミ云ふ事は、色々の意味から、從來の皆様の御注意になつて居る事に相違ないのであります。或は如何にして子供を幼稚園が受け取るかミ云ふ意味に於きまして、それゝの御注意がある譯であります。私の此所に特に考へ度いミ思ひますのは、一日をして所謂生活本位の幼稚園にして行く事、之は朝の一寸し

た仕向け方に大いに關係がある云ふ事を申し度いのであります。

従來の幼稚園の或通有の型を申し、かと思ひますのは、朝は一應幼稚園へしつかり入れて、それから色々解いたり散らしたり緩めたり云ふ風な順序に行く風があるが、若し幼児生活のそのまゝを、何所迄も幼稚園の土臺にして行かうとするならば、朝に於て何の位自由の感じを子供に與へるか云ふ事は、極めて大事な事と思ふのであります。昨日申しましたアメリカの新しいナーセリースクールが、朝、子供が來ます自由なる生活に入れる、云ふ事が實行上しては相當極端な風にお考へになるかも知れませぬが、それもさう云ふ精神から吾々の參考になると思ふ。

二、自由遊びから仕事へ

兎に角、朝は實に自然の家庭生活の形態そのまゝで、さうつゝ幼稚園に來るのであります。仍て其幼稚園を、成可く殊更めかしい形で子供に影響させない様な注意が必要だと思ふ。その結果、大體に於て、朝は先づ自由遊びから始めて行く云ふ風に考へて宜いかと思ひます。勿論之は毎日の事で、時によりましては又色々の御計畫が立ちましても構ひませぬ。之は一つの形を申上げて居る譯ではないのであります。今言つた様な精神から先づ自由遊びがそこに始まると思ふ。その自由遊び云ふのは——所謂自由遊び云ふ言葉は何であらうかと言ひます云ふに、子供が自由感を持つて遊んで居りますのが自由遊びである事は言ふ迄もない。ですから、幼稚園教育が遊びの様な形式を持つて居りますものでありますから、その中で自由感を存分に持つて居るか何うか云ふ事に依て、自由遊び云ふものゝ色々の形態が現はれて來ると思ふ。昨日、保育案に自由遊びの關係を申し述べて、保育案云ふものが何であつても、これが誘導保育案である場合に於ては、自由遊びに迄影響して行く云ふ事を申ししたのは、その誘導保育案の誘導して來る興味の内容に依て、遊び乍ら、而も自由感でやつて居れば其れが自由遊びになる云ふ意味でありますから、此自由遊び云ふものゝ、誘導保育案に依て立てられて居ります生活内容には、必ずしも別なものであると定つて居りませぬ。自由遊びはごんごん馳け廻つて

居る事で、何か紙を弄んで或物を拵へる云ふのは、自由遊びではない云ふ事は言へない。何だか私のひねくれた見方も知れませぬけれども、「遊び」云ふのは所謂保育項目の何れでもないものが自由遊びの様に考へられる傾きがないでもないのではありませんが、内容としては何時も私が申します通り、保育項目そのものが自由遊びの中から持ち出して来たもので、自由遊びを見て居ります。保育項目のされかゝ行はれて居るのであります。而もその保育項目の内容に就ても、誘導保育案の方から導びかれて来た場合に於ては、子供が自由遊びをやつて居る事、先生が所謂保育項目を主としてやつて居る保育、變つた内容ではない事になり得る。さう云ふ意味からして、子供が朝来て、先づ自由遊びになる云ふのは、何云ふ事なく——今は自由遊びだから缺を使つてはいけません。自由遊びは幼稚園をブラ／＼して居る事である。お部屋に這入つて何かしようとする云「今は自由遊びですからサッサと出て」云、斯う云ふ風に考へる必要はないのであります。さう云ふ意味からして中には、たゞ遊びの時を過す可く幼稚園の庭を逍遙して居る風流な子供も居りませう。或は少しづらつて居ない云ふ云ふ纏まりが付かぬ云ふ様なタイプの子供もありませう。大人でも、何かしようとする云、「暫らく休まなければ力が這入らぬ」云その休み時間が長いタイプの方がある。或は何かしたはずみで、子供達の間に、自分達の思ひ掛けない何事かゝ起つて来る事も妨たけなうであります。この意味からして色々な内容の自由遊びが起ります。けれども先づ先に来るものは先生が、出来る丈指導要素の多く加はらない、ましてや指導云ふ事が多く加はらない意味に於て、極く自由感に満ちた時間に出發する云斯う考へていゝかと思ふ。

私は、又かき多くの方がお考へになるかも知れませぬけれども、何う考へても朝の會集はつく／＼反對になつて來るのではありません。私の心境を正直に申し上げますならば……會集反對論を出しましたのは十何年前若かりし頃であります。其時は随分若氣の理論で、私は理論は強いが氣は弱いので、理論では、いけないと言ひ乍ら實際に於ては、いゝでせうと言ひつゝ、更に進んで、そんなに反對しないでもいゝ様な氣持になり度い云、始終自分でも思つて居る位であつた。所が何

うも年々、私の會集反對意見云ふものは色々な方面からそれが強くなつて來るのでありまして、今日では向ふの人の御顔色なきを恐る々々窺ふ云ふ事は卑怯である云確信するに至りました。

理論は先に出て、其れが自然に變つて來る。先に自然が出て其れを理論に拵へて行くのではない。何うしても、幼稚園云ふものを斯う云ふ風にするのが本當云考へる以上は、朝の、自由感を本體とする立場から、會集云ふものが何うしても其所に狹まつて來る氣分になれないのであります。まだ私、遠慮深いので此位で止めて置きます。

その自由感に満ちて居ります朝の時間が、十一時過ぎ迄續くのがいゝのか、三十分位できり上げるのがいゝか分りませぬが、生活のある自由感から、段々に變つて行くのではないか。之がああ目的の爲にしくちやならないのだ、或處までやりおゝさなければいかぬのだ、隨て或意味に於て出來る丈うまくしたいものである云ふ様に。もう一度申しますならば、あの目的の爲にやつて行くのである。或程度迄はしおゝさなければならぬのである。し遂げなければならぬのである。併せて、出來る丈うまくやらなければならぬのである云ふ様な感じが、程度は極めて色々であり、極く薄い場合もありますが、自由感以外のさう云ふ感じが加はつた、さうなる云ふのを私は假に仕事云名付け度いのであります。

人間は自由を求める當然の要求がありますと同時に、自分の生活に向つて、其位の纏まりを求める要求も自然あるのがあります。人間が職業を求める云ふ事は、人間の自然心理であります。職業を求める云ふのは必ずしも、ルンペンをして居ては心も云ない、定収入がなければ困る云ふ丈から來るのではなくて、何か目的へ結びついて或生活がしたくなつて來る。同時に、或所迄仕上げなければ氣が濟まぬ。窮屈さうな事ではありますが敢へてそれを求める。さうなればたゞ目的に結びつけて仕上げをすればいゝだけでなく、出來上るものを良くしたい云ふ感じが起つて來る。

自由感云精進感が、健全なる人間に於ては兩方共自然であります。人に依て何方かの強い人があります。然し私がこゝに申して居る精進感云ふのは、力の様で、實はさうではない。何か仕事を——佛語の言葉は知らないが——勤めて行くこゝ

云ふ事であります。勤め、云ふ云ふ「勤めの辛さ」云ふ事になるがさうではない。精進の樂しみである。斯う云ふ事は人間の自然性です。性格の缺陷者は之を持ちませぬ。性格が健全であるならば之を持ちます。之を持つたから云つて自由感がないのは、性格の變質であります。而も私がこゝで言ふのは、義務でして居るさか、義理でして居るさか、役目と思つて嫌でもして居るさか云ふ様な世間普通言ふ所の、仕事を強ひてする精進とは違ふ意味を持つて居る。

義務云云ふ押しで、義理云云ふ綱で人間を縛りつけるのではない。さうでない所ではない。反對に斯う云ふ事がナチュラル：大人もさうでありますが幼児に於きましてはよくあるのであります。「ある事はあるかも知れぬが幼児の自由性の豊かさ云々比べて餘りに微かである」云々仰言るかも知れませぬが、私は、幼児の自由性も幼児相當に實に弱い：云云ふ言葉は當りませぬが、そんなだと思ふのであります。

保育に従事する事極く年の淺い方は、幼児云云ふものは、手もつけられない横紙破りの様にお思ひになるかも知れない。まだ幼児云云ふ、あの生活程度の持つて居る自由感の要求は知れたものであります。吾々の持つて居る自由感は非常に大きい。幼児は知れたものです。ですからあの幼児に満足する自由を與へるならば、直ぐ満足する。止め様とするから大變に横紙破りの際限のない自由らしさに見えるが、知れたものです。その自由感さへも幼児には知れたものゝ程度でありますから、幼児の持つて居る精進感も、程度は大したものではない。吾々の：吾々以上の人は、非常なる自由感云々非常なる精進感を持つて生活して居る。その兩方ともいゝ加減な人を、程度の低い人云云ふのであります。そこで幼児の精進感は弱い筈である。自由感が僅かである如く之も弱い。そこで自由感から精進感に移つて來るころに自由遊びから仕事へ云ふ道が出來て來るのであります。

子供が自由云云つて遊んで居るが、其中、あまりに自由だが、何か吾等の精進感を滿す方法はないか云云ふ氣分が出て來る。それが、自由を味はせない云々之は出ない。腹がすかなければ食欲が出ないと同じである。所謂、お腹の中のきれい

な自由感の生活を定めて與へられれば、今度は此方が欲しくなる。

其所で、こゝに來た時に、私は實に子供の朝の生活を見て色々な姿を見るのですが、子供は、精進感が起つて來て、何うしようかと思つて困つて居る。「御同様、お互に自由だけでは人生は面白くないですな」ミ子供が二人話して居る。「何處に精進を求む可きか。其れは先生の處に行つて決定をして貰はうじやないか」ミ云ふ事になつて居る子供がある。そこで先生の處に行つて「先生何か仕事は御座いますまいか」ミ斯う云ふ事になります。

私は憐れなものだと思ふ。職業紹介所へ出掛けるのと同じであります。實に憐れである。さうするミ先生は「よく私の處に聞きにいらした。私は仕事をあなたに、仕事として與へる」ミ云つて與へて下さる。それで「成程先生だ」ミ先生も子供も思つて居る。いよく情なくなる。先生の處に行かなければ職業が貰へない、ミ云ふ風な事よりも、幼稚園そのものの形態が、子供の自由感ミ精進感ミを實際に取捨選擇出來る様に、先に豫じめ出來て居なければ話らないと思ふ。

「先生何をするのでですか。今度は何をするのでですか。もう之でいいのですか」實に奴隸的精進感であります。さうしてさう云ふ風に馴らされて居る。段々さう云ふ風に馴らされて來る事が幼稚園の慣はしであつたりしはしないかと思ふ。家庭に於て遊びを、子供がたゞ庭に出てガヤ／＼やつて居るでせう。其中には、お母さんが洗濯をして居る側に行つて洗濯をやる者も居りませう。或は室が與へてあつて自習の道がついて居ればおさらひを始める。斯う云ふ様にすうつミ内容は別に變りはしない。所謂自由感であるか精進感であるかであります。幼稚園に來るミ一々先生に伺ひを立て、自己の生活を求めて行かなければならぬミ云ふ事が既におかしい。斯う思ふ。この意味で、自由遊びから仕事へ、ミ云ふ事をさう云ふ風に解釋し度いと思ふのであります。

さう云ふ風にしようと思つても子供がしないで困るミ云ふ方がある。斯う云ふ風になり得る様に凡ての計畫ミ施設ミ態度を定めて置いて、さうして思ふ様にならなかつたら、幼稚園に責任があるのであります。子供が悪いのではない。

三、個、分團、組

さて、斯う云ふ風にして所謂仕事へずうつこ這入つて來たごしますならば、この這入り方は恐らく個々的に這入つて來る事は當然であります。

皆が集つて「何うですそろく、仕事にかゝりませう」——私の家の隣で此頃建築が始まつて居りますが、誰かゞ仕事をそろそろ始めませうか云ふこ、それでは嫌でもついて來る者があり、或は皆が休んで居るのに自分だけしてはつまらぬ云ふ感じの人、色々ありますが——幼稚園で、自由遊びから精進へ這入るのに、何も列を作つて這入る必要はない。ラッパが鳴つたら精進へ、云ふ事は自發的に仕事に來て居ない證據であります。先生が顔を見せたならば、急に勉強らしい顔をする云ふのではないから、バラ／＼に來る。それがずうつこ續く事もあれば、分團云ふ一つのグループになる事もありませう。多分グループになりませう。グループになるご同時に、そのグループの集りこして組云ふものがそこに出來て來る事がありませう。この組に來る事は……所謂あの幼児の生活感から、四十人一かたまりになる云ふ所迄行く事は、可成り私は幼児の年齢としては多過ぎるかと思ひます。

幼稚園に於て、個から發生して來るものはグループだと思ふ。グループになつてもならなくても宜しいが、個々に來ると思ふ。其れで、個、分團、組を書いてあるのは、斯う云つた、生活は個からグループに來る云ふ順序を示して居るので、今日の幼稚園が、若しこの組から分團へ、分團から個へ、ご考へて居るならば之は逆になつて來るのであります。組全體を考慮して、さうしてその組云ふものゝ中で大き過ぎる云ふので、丁度遊戯のコースの様にグループに分け、さうして吾々、心理學的に個を尊重しなければならぬ云ふので個を織り出す。斯う云ふ考へ方になつて居るのこ、私の言ふのこは違ふのであります。自由感をもつて、個の生活から始まつて居るごすれば、個からグループへご云ふ順序に行く可きだご考へるのであります。殊にグループご云ふ事が……色々の意味で此問題を考へますが……グループの位置、形式ごし

て協同云ふ事を云はれます。個人製作でなくて協同製作云はれる。協同製作云言ひますミ、斯う云ふ机の前に竝んで「之はあなた方皆さんで作るのですよ。生活云ふ仕事を何う分配しませうか」さうも吾々は全體を分ける事許り考へる。小さい時からお煎餅を幾つにも切られたり、お饅頭を分けて貰つて来た育ちからのさもしい考ミ思ふ。何か持つて来て「たつた一つしか持つて来ないので「分けて上げようね」云ふ。子供も、下さい云ふ言葉を知らないで「分けて頂戴」云ふ。分割性を食云つた様なせち辛さでありませう。教育云ふものも、渾然たる生活があつて、保育案が饅頭の様であつたら全體へ分けて行く事になりませう。

或は、子供が「誰さんも私の方をしますので」云言ひますミ、先生が「あなたのする分が廣いのですからいゝじやないか」云情ない事を云ふ。或は協同製作をし乍ら、その中に一々色々な、誰々云ふ標を立てたりする。又よく寄せ書をする。五人なら五人が寄せ書をして色々なものを書く。所がその寄せ書の中で、自分の書いた處だけ輪廓をつけて「之は俺のだ」云ふ風にする人がある。

さう云ふ意味の協同製作ではなく、個でやつて居る中に、人間は自ら其れが或個々のものにならないで、全體に纏まつて来る事を認める。自分の作つたものが——此コップは誰が作つたのかわりませぬが——誰かの作つたコップが誰かの作つた水差と一緒に居るさうだ云聞けば嬉しく思ふでせう。個そのまゝ云つかに藏はれて居たのでは淋しさに堪へないと思ふ。ですから個々に自分がやつて居る中に、それが全體の中に這入つて行く自然性がある。あの水族館にもあゝ云ふ協同のものが多し。此所は誰が作る、鮎掛り鯛掛り云ふものが出来て居るのではない。あゝ云ふものがありますミ、同じ鯛を作るにしても全體の中に這入る云ふ氣分が強くなる。只部分に行く云ふよりも、部分が繋つて全體に行く云ふ事が大きな自然であります。教育目的論の方から考へましても、さう云ふ風に人間を養ひ度い。自分のして居る事が實につまらぬと思つてやつて居るが、圖らずも全體の中に入つて居た云ふ事に氣が付く嬉しくなる、全體のするものゝ

役を分けられて始めてやる、ミ云つた様な生意氣な考ではなく、自分は小さい事をして居る、ミ云ふ。「何の事もなく一人一人の人が寄り合つて全體が斯うなつて來たのである」。ミ云ふ様に、目的論から言つてもさうでありませんが、自然の成行きもさうであると思ひます。ですから、個から分團へ、分團から組へミ云ふ風に段々なつて來ると思ふのであります。

四、個の時間割 五、生活態度による分團の組合せ

其所で其次に一寸變つた事を申すのでありますが、私は昨日時間割の事を一言言ひまして、時間割は保育案ではないと言つた。之は保育案の本質の意義を明かにする爲であります。さてその時間割が、必要であるか必要でないか。之は存在の意味があると思ふのであります。

結局、教育は均等、同じ幼稚園に來て居る子供が、或子供は大變に活躍して居り、或子供は何もしないで居る。それに皆均等に教育結果を持たせる。自由であるのは、正しい考それがあるからこそである。

あの、組ミ云ふものを色々時間割でやつて居るのは別の理由があると思ふ。悪い方から云へば、あれが一番面倒臭くないやり方であるかも知れない、然しもう少し表面から解釋すればさうする事に依て教育が不均等にならない。時間割を作る事は先生の任務になる。

ダルトンプランは、インデイヴィジュアルアツサイメントによれば斯うであります。皆自己の時間割を持つて居る。其れを先生が見て、皆違つて居るけれども、皆教育は相當に受けて居る事をアツサインして居るのであります。ダルトンプランは中等教育に依て最もよく實現する。幼稚園に於て皆實行させる事は出來ますから、其子供自身がやりますインデイヴィジュアルアツサイメントを、先生がお作りになればいゝじやないかと思ふのであります。

自由から精進へ、個からグループへミ來て居るが、見て居るミ、時間割を作るミ云ふミ大變ですが、心覺えてやつて居る。花ちゃんは此頃何時でもひよろ／＼して居る。三郎さんは何もして居ない。太郎さんは一生懸命やつて居る。斯う云

ふ事をお心付きになつて居りますならば、之が即ち、花子三郎太郎の時間割になつて来るのであります。

幼稚園で出席簿云ふものをつけて居りますのは、自分は、調査する意味でつけるのではないと確信して居る。皆様が與へようとする教育が、休む事に依て與へられないと云ふ事を、心覺えするためにつけて居らるゝ事を信頼する。あの出席簿は、個の出席簿ではない。幼稚園生活の教育効果に於て、出席簿を作り、個の時間割をお立てになつて望むのではないかと思ふ。何も之は勤務表ではない。こんな事をするさすぐ奨励表になつて、黒板の隅につけて、激勵なさるがさうではない。

その個の時間割を作りますのは、三郎がブラ／＼して居るので教育効果が悪いと云ふ時に、親を呼んで、他所の御子さんは斯う云ふ風です。お宅の御子さんはこう云ふ風で幼稚園の生活形態の組方がさせて居る教育効果を三郎さんは取らない、さういふ事を説明する。すぐ醫者にかけたら、心臓が悪かつた、それでは斯うなるのは無理はない。検査表の様に簡單ではない。さう云ふ風にその子供について行くのがいゝのか。同じにする事が必ずしもよいのではない。さうして、三郎は心臓が悪かつたから一學期は斯うしたが、二學期になつては、太郎さんに比べては駄目だが三郎としては進歩して來た、と云へば、三郎さんに於て教育價值が増したのであります。

四十人位なら、個の時間割を作る事は何でもないと云ふのであります。うまく行けると思ひます。あの一番奥の舟のあの組に、仕事による一人々々の時間割が表にしております。あそこには、誰が何をしたと云ふ事を記入しておく、それが一週間位経つと、何う云ふ風に違が出て來たかと分る。斯う云ふ風な事はその仕事をして居る事を中心にした時間割であります、之を全體的にやつたらいゝと思ふ。

幼稚園が大事な事は、子供が歸つた後、今日一日が自分の保育に依てさうなつたか。子供達に依てさうなつたか云ふ事を思ひ見る、その三十分にあると思ふのであります。斯う云ふ意味で、其子々々の生活時間割と云ふものゝ意味をよく考へておいたらいゝと思ひます。さうしてその個の時間割と云ふのは、一つ大いに御考へ願ひ度い。個性に屬する教育、

ミ云つた様な心理的抽象的な事を考慮しておいでになるが、それも大事であります。もつミ現實の、事實の個別的なものも、當然出来ていゝミ思ふのであります。その個別的なものをしらべるミ、精進感の中の目的ミ結び付いて來ます。

斯う云ふ様にして先生の方では、周到なる氣分を持つてお出でになり、又實に周到なる注意をもつて子供達を見る。それで子供達は自由感から精進感へ、又自由感に出て行く事もありませう。私は、幼稚園が誘導保育案をちゃんミやつて居るミ云ふ事を前提ミして話して居るのであります。ですからもう其處に這入るミ、或生活興味に満ちて來る。之が青年でしたら空の室へ這入つても圖書館へ行つても勉強するのが當然であります。幼兒はさうは行かない。

六、流れゆく一日 七、流れの向け方

斯う云ふ様に先生の方では非常な努力をして居りますが、子供は誘導されて居るミも知らず、實に流れる様にすうつミ行くミ思ふのであります。假に、流れ行く一日ミ洒落た言葉で表はして見ました。

先生の方では大變であります。子供の生活は小川の流るゝ流れ、先生は汗の流れ行く一日であります。が仕方ありません。而もその流れ行く一日を、流れ過ぎるミ云つて喰ひ止める。それ〴〵に對して流れの向け方を變へて行く所に、その先生の微妙な技倆が出て來るミ思ふ。流れを止めるのではない。丁度、支へて見たり、溢れさしたり、色々な事で流れて行く自然の生活過程の向け方を色々な變へて行くのであります。

八、生活の偶發性

之だけを以て、先づ保育過程の實際の大體的なものミ考へますが、生活を相手にして居る限り生活を本體ミして取扱つて居る幼稚園ミ云ふものは實にその人の幼稚園であり、その子の幼稚園でありまして、所謂教育ミ云ふ概念をもつて一切が律せられて行く性質のものではない。寧ろさうなればその幼稚園に起つて來る偶發事項ミ云ふものは——生活が生きて居れば色々な偶發が起ります——その偶發ミ云ふものを一々適當に取扱つて行く事は當然大事な事であります。形を定め

た場合には、偶發事項は邪魔になります。流れ行く一日の遊び、岩があつたから堰止められ、急な瀬であつたから溜つ瀨になり、ミ云ふ様な普通の流れの他に、ひよつこして、石で物が支へたミ云ふ様な色々な事件が起つて來ましたならば、之を始終取扱つて行くべきかと思ふのであります。同時に又この保育案の、私の申上げた事は大體に於て、所謂教育内容を取り上げざる保育案を考へたのであります。一日の生活課程ミ云ふものを出来るだけ尊重すべきだと思ふのであります。

九、日々の實際生活の尊重

之は、昨日一寸他の意味から申上げた事で、所謂コンダクトカリキュラムを主張するのであります。繪を書くとかピアノを弾くのもコンダクトカリキュラムと言ひ得るが、私の言ふのはさうではない。朝、手を洗ふ、お辨當の時に何うする、教育から云へば、實際的に過ぎて居る様な事に就て、始終之を大いにやり度いと思ふのであります。もう少し今日の幼稚園が、實際生活に重きを置き、それにもう少し何かを入れて、その爲に時間を取られる事を惜しまない、ミ云ふ風な事をして行つていゝと思ふ。

其實際生活を二つに分けて、所謂全然そのものに必要なる實際生活ミ、幼稚園の集團生活をして居りますが故に必要な實際生活ミに分けます。之を兩方共尊重したい。自分自身の爲なら、帽子を脱ぐとか、或は食後に嗽をするとか楊子を使ふとか、汚れたら手を洗ふとか云ふ事は、幼稚園でなくてもやる事でありませう。保育ミ云ふ事になればお辨當の時に何うするとか全體の爲にやつて行きます。併し斯う云ふ事は大いにやり度いと思へるのであります。

十、おかへり

若し、斯う云ふ風に朝の自由からずうつこ一日が來ました時に、歸りは何うするか、

このお歸りに就て私は、お歸りの時だけは幼稚園の先生の考を強くして行くべきではないかと思へます。朝お早うと言つてずうつこ這入つて來た幼稚園、その間に一日の疲勞があり、先生は時によりましては心なくも荒い言葉を使つたかも

知れませぬ。或は子供達に向つて、つひ言はなくてもいゝ理窟つほい事も言つたかも知れませぬ。子供が先生、ミ懐いて來たのに返事を忘つた事もあるかも知れない。その子供の方の微かなる感じ、是等の全體の決算がおしまひの時間にすうつこ來て居ります。この一日を、生活力のエナージーから言つても感情から言つても、もう少しピツチリ納め度いと思ふのであります。來た時に丁寧でなく、歸る時丁寧なのが社交作法である事は云ふ迄もない。日本の禮儀は來た時に非常に丁寧で、歸る時は何時の間にか居なくなる。初めはお客の如く歸りは鼠の如し、ミこそく行くのであります。その反對に歸る時に一切の事を話して、ちやんこしてゆつくり別れるのが作法であります。私は幼稚園もドツシリしたお歸りがいいと思ふ。手が汚れて居たら洗はせませう。何ならばブラシもかけてやりませう。鼻がたれて居たら拭いてやりませう。

幼稚園をして、今迄は實に子供の自由にやつて置き、幼稚園に居るミ云ふ事を忘れさせるが、歸る時には幼稚園から歸るらしい歸らせ方の感じを一ばいに持たせ度い。私はよく幼稚園でおしまひに紋切型に「今日の稽古も濟みました」ミ歌つて歸つて行くあの心ない歌は大嫌ひであります。お歸りは三十分かゝつても一時間かゝつても宜いと思ふ。「もう仕事も濟んだ」誰々ミ喧嘩したがもう仲良くなつた」ミか色々事がきつしりして徐ろに歸る。幼稚園にフレッシュに來たが徐ろに歸る、ミ云ふ風にして送り度い。ドチャンく來てドチャンく歸るのではなく、河の終る時の様に、幼稚園は送り度い。幼稚園から歸つた子供を念入りに迎へる事を家庭に要求していらつしやるでせうが、それを念入りに送り返すのは當然の事と思ふのであります。初めの中は大變にきちんミやりますが、先生も疲れ子供も疲れ、汗を拭いて居る間に二人三人ミ行つて了ふ事はあり易い。

これで今回の講義を終ります。(文責在編輯部)

アメリカの幼年圖書

松原至大

(3)

童話類の續き

Mather Goose

これは私の解説をまつまでもなく、子供たちが年齢を超越して、一つの古典として愛してゐるものである。空想と現實とを巧に織りなして、その中に言葉のもつあらゆる興味と、情緒のあらゆる形態とを、生き生きと感ぜしめる。子供の感情をありのままに噴出させたものゝ先驅者であること云はれてゐる。アメリカの學者の研究による『マザア・グウス』の名によつてアメリカで上梓されたのは、十八世紀の半ばすぎとされてゐる。イギリス版よりも後のことであるが、その時代のものは、アメリカ版もイギリス版も唄の数は五十一しかなかつた。それが時代と共に今までのものが作りかへられ、また新しくつけ加へられて、今日では五百に近いものになつてゐる。

わが國にも數氏によつて紹介されてゐるが、多くは名ばかりのものである。稍々まごまつたとしては、先年上梓された『童話大系』の中の竹友藻風氏の手になつたものであらう。また私の拙譯になる『マザア・グウス』子供の唄』と云ふのが、大正十四年に春秋社から出版されてゐる。これにはわが國の子供にも理解されると思はれる程度のものを二百四十九篇收めてある。云ふまでもなく風俗習慣の違ふ上に、その土地の人間の身體と共に育ひたつ民謡のこゝであるから、それを異國

に移さうとするのには、随分な無理が生ずる。妙な云ひ方ではあるが、私としてかなりな良心の痛手の伴つた仕事であつた。

イギリス版にも、アメリカ版にもかなりの数がある。この本に推されてゐるのは Real Mother Goose (Rand Mc Nally & Co., New York) 及び Blanche F. Wright 氏の挿繪がある。定價は \$ 2.00

Sing-Song (Christina G. Rossetti)

幼い子供の心をよくつかんだ短い詩を集めたもので、子守唄風の童謡から、ほんごうの詩へ、子供の心を導く役をつとめるのがカインドな。 (Macmillan, \$ 1.00)

Child's garden of verses (Robert L. Stevenson)

これもわが國の人たちがよく知つてゐるものである。葛田菡、左右田實の諸氏の譯がある。彼の地ではその中の次ぎの數篇を、五歳むきにして推してゐる。

Bed in Summer (夏の寢床)

at the Seaside (海邊にて)

Rain (雨)

Singing (唄)

My Shadow (私の影法師)の第一節

The Cow (牝牛)の第一節

Happy Thought (喜ぶ)

Time to Rise (朝起かゝる時)

この版は M. H. Squire 氏の美しい繪がある。(Rand., \$.75)

I live in a city. I go a-travelling (James S. Lippett)

この本も單純な子供らしい印象で、都會での體驗をうけたものである。Elizabeth J. Wolcott 氏の挿繪がある。(Harper & Bros., New York, 各冊 \$.75)

十仙本 拾銭本

これは確固とした地位をもつた作家のものごちがつて、多くは名もない人たちの手になつたもので、随分教育的効果をあやぶませるものがあるが、中には内容、装幀と共に優秀なものが少くない。また一つには價が安くて、子供が自由に買へるので、子供自らが自分の圖書館を作るに云ふ興味をもたせるために、細心な吟味の下に、次ぎの數種があげられる。

Baby's first book.

一、三歳むき。ボールとか時計とか子供用の車とか云ふやうな幼い子供の興味を啜るものゝ大きな寫真帖である。

(Saalfield Publishing Co., Akron, Ohio, \$.10)

Little black Sambo (Mrs. Helen Bannerman)

著名なサンボの話を面白く再話したもので、Fer B. Peat 氏の愉快な挿繪がある。(Harter Publishing Co., Cleveland, Ohio)

Wild flowers we know (Thornton W. Burgess)

一般に知られた二十種ほどの草花がわかりよく物語られてゐる。挿繪は Pitts スタヂオの人たちの手になつたもの。(Whitman Publing Co., Racine, Wis. \$. 10)

Mother Goose picture book.

Charlotte Stone 氏の挿繪で、いかにも手輕な『マザー・グウス』である。(同上)

Our animal friends.

家畜の中で私たちに最も親しみのあるものゝ美しい繪を收めたリンチル製。(同上)

Playtime.

鳥、花、雪、水泳を云ふやうなものゝ繪を收めてある。四、五歳から大きい子供にもむく。繪は Roy Best 氏の筆。(同上)

Birds (Frank N. Shankland)

子供がよく十二羽ほらの鳥の姿を、美しい挿繪によつて物語つてゐる。Fern B. Peat 氏の筆による。(Saafeld, \$ 10)

Forest friends (同上)

挿繪も前と同じ人。よく自然を表したもので、十二匹ほきの動物が収めてある。(同上)

Three bears.

リンチル製。繪は C. R. Stone 氏の筆。(Whitman, \$ 10)

Three little Kittens.

前のと同じやうに子供たちがよく知つてゐる古い童話で、繪は Peat 氏のもの。(Saafeld, \$ 10)

Bugs (Eleanor D. Walter)

普通見る小さな蟲の興味深い繪に、唄を添へたもの。(Whitman, \$ 10)

以上で Rose H. Alschuler 夫人を委員長とする委員會の選擇は終つてゐる。この委員會によつて選擇されたものを見るのに、わが國にもつてきても、大體そのまゝ受け入れることのできるものであるやうに思はれる。總てのもの——が殊に子供のものにおいて——がさうであるやうに、良いものには國境がない。私はこゝでもしみじみそれを感ぜしめられた。(をばの)

十月の觀察

堀 七 藏

一、十月の行事と觀察事項

今年は舊曆では閏があつたので、十月四日が舊の八月十五日、所謂お月見の晩である。また十月十七日が神嘗祭で祭日である。全国的に十月は收穫の月であり、運動會や遠足が行はれる月である。幼稚園でも運動會や遠足會が行はれてよいので、比較的行事の多い月といはねばならぬ。

秋十月は收穫の月であり、いろいろの果實が成熟し、稻は實のり取いれに多忙な月である。野菜類では大根でも蕪でも、またにんじんでも牛蒡でもさつまいもでも里芋でも蓮根でもくわいも皆收穫せられるときであるから八百屋ごつこを行はせることも面白い。そしていろいろの野菜物を觀察させ、また繪にかゝせ、厚紙や粘土なごでは等の野菜物を製作させることも結構である。

また十月には豆でも小豆でもまた柿でも梨でも林檎でも葡萄でも、いちぢくでもくりでもいろいろの果物や果實が澤山出来るときであるから、八百屋ごつこには非製作させねばならぬ。従つて觀察させねばならぬ。

是等の果物の外にあをぎりの實でもぎりの果實でもじゆづだま、楓の實、ぎんぐりの類、いろいろのものがある。

是等のものを幼児に拾はしめるも面白く、是等を利用していろいろのものをこしらへさせるもよい。勿論是等のものについて六ヶしいこを説明する必要がなく、唯専ら幼児に實物を觀察させて明白な觀念を得させ、いろいろ繪にかいたり物をつくつたりして、その性質についての知識を得させることを本體させねばならぬ。

お月見を幼稚園で行はせるときにはすゝきや里芋やなごの供物についての觀察をさせ、お月様をよく觀察させてそ

れを繪にかゝせるもよい。また星の觀察も面白い。是等は夜の觀察であるから、その幼兒にも行はせることが出来ないし、また月や星について六ヶしい説明をするこゝも出来ない。

二、くりの果實と種子

くり、まかきの果實について参考のために解説せねばならぬ。

栗のいがは雌花を包んでゐた苞が大きくなり、その外面に多くの針を出したものである。いがはその中に三つ許りの果實を包みて果實を保護する。秋になつて果實が熟するまゝ、いがは先の方から裂け開いて果實を落すのである。

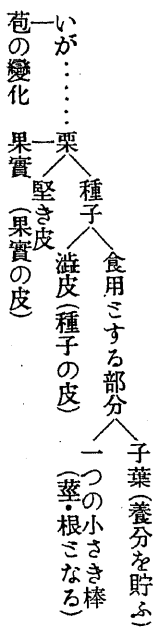
栗の果實には茶色の滑らかな堅き皮があり、その先は少し尖がり、この所に萼及び雌蕊の先の尚ほ残つてゐるものがある。栗の果實の本には廣くて淡茶色の粗き面がある。

これは果實のいがに著いてゐた痕である。栗の果實はその形が一様でない。それはいがの中で互に押合つて成長したからで、中栗と外栗とが異なり、一つ栗と二つ栗と三つ栗とで、それ／＼形が違ふ。栗の杓子は中に種子が出来なかつたものである。

つたものである。

栗の果實の堅き皮を剥去るま更にその中に淡茶色の皮があつて澁いから通常澁皮といふ。この澁皮は種子の皮である。果實の中に通常の種子が一つであるが種子が二つあるまきにはふたご、三つ種子のあるまきには三つごといふのである。これはいがの中に一つの果實、二つの果實、三つの果實があるのま誤解してはならぬ。一つの果實の中にそれ／＼澁皮をもつた種子が一つ、二つ、三つあるまきのこゝである。

栗の種子の皮、即ち澁皮をさるま白く厚くして養分を含める部分があつて、これを食用まなすものである。この部分は子葉を稱する二枚の厚くして互に密著せるものから出来てゐる。子葉は果實の先に近い所に一つの小さき棒の如きものを挟み、之に連つてゐるのである。故に栗の果實は柿の果實と大變に違つてゐるのである。



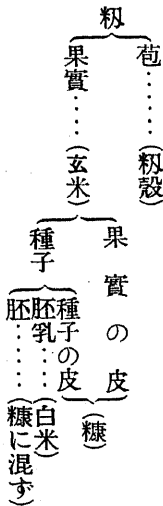
三、柿の種子

柿では果實ミ種子ミを誤る人はない。柿の果實を食するが種子を食せぬ。柿の種子を地にまいて置くミ芽が出るから、兒童に柿の種子をまかせるがよい。柿の種子は橢圓形で扁たく、その一端には果實に著きし痕がある。種子を縦に割つて見るミ、赤茶色の薄き皮の中に淡鼠色の堅きものがある。その中に一つの小さき白色の軟きものがある。この白色のものは二枚の薄く扁たき子葉ミ一本の柄の如きものより成り、柄の如きものゝ先は種子の果實に著きし痕に向つてゐる。柿の種子より芽を生ずるミき、子葉は最初の二枚の葉ミなり、柄の如きものは根及び幹ミなる。而して淡鼠色のものは養分ミして用ひられる。子葉ミ柄の如きものミを併せて胚ミいひ、鼠色のものを胚乳ミいふ。粟の種子ミ比較して考へるがよい。

四、玄米と白米

更に稻の種子について説明する。稻の果實、即ち玄米は灰色を帯び橢圓形で稍く扁たい。茲で注意せねばならぬこ

ミは、稻の果實は二枚の苞の中で成長し、これを充し次第に堅くなるのであるから、普通に粃ミいふのは果實ミこれを包める苞ミを併せていふので、粃を果實ミ考へてはならぬ。粃から苞を除いた所謂、玄米が稻の果實である。それで稻の果實には一つの種子がある。種子の皮ミ果實の皮ミは共に薄くして互に密著し離れ難きため、果實ミ種子ミ明白に區別するミが出来ない。種子の中は白き胚乳で充たされ、その一隅に小さき胚がある。それで玄米を掲げば皮及び胚が離れて糠ミなり、胚乳は白米ミなる。白米は玄米に似てゐるが、その一隅に少し凹んだ所がある。所謂胚芽米ミいふのは玄米を搗くミきこの胚を糠ミしてさらないのである。それで稻の果實について表解するミ次のやうな關係になつてゐる。



五、いろいろの果實

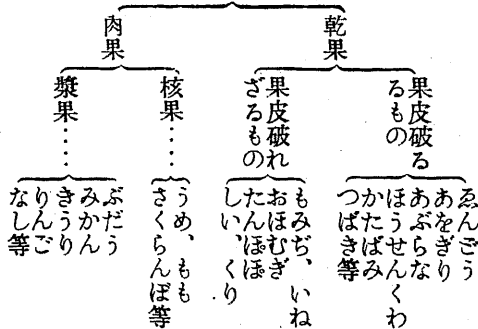
いろ／＼の果實を研究して分類するに次のやうになる。

(一) 集生せる裸子雌蕊より成れるもの

球果……あかまつ、くろまつ、もみ、さはら、いのき等

(二) 被子雌蕊より成れるもの

(イ) 單花果
一個の花より
成長せるもの



(ロ) 多花果……多數の花より成長せるもの

くは、いちご、
パイナップル

六、月

三日月は三日の月で、その形は一定してゐる。一月に二度三日月があると思つてはならぬ。三日月形になるときは勿論二度あるが、その向が全く相反するものである。元來月は地球の周圍を運行するから、吾等に向けてゐる面が太陽の光を受けてゐるとき、即ち望になつたとき満月となり、光を受けてゐる面を全く吾等に向けないとき即ち朔のとき新月となつて月が見えない。新月から光を受けてゐる面が見え出すときは三日月である。それから半面だけ光を受けてゐるとき普通に半月といふ。これは上弦の月である。上弦の月は月の圓形の一部が弓に相當し、かけてゐる所が弓の弦に相當し、それが上にある場合である。下弦は反對に弦が下にある場合である。而して上弦の月は月が出るときに弦を下向け、中天にあるときは弦を垂直に、没する時には弦を上向けてゐる。それで大體月の右方が光つてゐると思へばよい。上弦の月は夕方天中して夜半に弦を上に向けつゝ没するものである。しかし上弦の月が出るときは、弦が下向けであるが正午であるから人目に觸れない。

下弦の月は反對で、出るときは弦を上に向け天中するときは垂直となり、没するときは下向く。それで下弦の月は夜半に上弦に出で、曉方に天中するが、多くは人が知らぬ。朝弦を下向けつゝ徐々に西へ廻るので下弦の月を稱するのである。

七、星座

星の觀察は幼児にはまだ興味が起らない。唯星を見付けた。強く光る星を見付けた。一番星二番星といふ程度である。しかし教師が星座に興味をもつて觀察するのは大變よい。

天空に散布して見える恒星を表はし易からしめる爲に、これを適宜の群に分ち、それ／＼固有の名を附せるものを星座といふ。その中で太陽が恒星に對して天空を通過する如く見える道、即ち黃道の附近に十二の星座がある。うを、をひつじ、をうし、ふたご、かに、しい、をさめ、てんびん、さそり、いて、やぎ、みづがめがそれである。太陽は春分の頃にはうをに、夏至の頃にはふたごに、秋分の頃

にはをさめに、冬至の頃にはいてに來るのである。而してうを、をひつじの北方にベガス、カシオペイア、アントロメダがある。またをうし、ふたごの南方にはオリオン、おほいぬ、こいぬがあり、北方になぎよしやがある。

北斗星はしい、をさめの北方のおほくまにあり、北極星はこぐまにある。をさめ、てんびんの北方にうしかひがあり、いて、やぎの北方にこぎ、わし、はくいでうがある。みづがめ、うをの南方にみなみのうがある。

それで誰でも第一に知るべき星座は北斗七星である。この星座は昔から大熊星を稱する。しかし熊を見ることは困難であるが、柄杓を見ることは容易である。十月十五日午後七時頃天空を見るに、北方地平線に近く見える。この北斗七星は大切な星座で、北極星を見付ける便宜となる。柄杓の柄の反對側、杓の先の二星が北極星を指す。この二星を結付ける距離の五倍先を見るに北極星がある。北極星は常に一定の方向に見えて殆ど動かない一つの星である。この近くの星はこの北極星を中心としてその周りを一日に一周するが如くに見える、それはこの北極星が殆ど地軸の方

向にあるからである。

小熊星座に北極星がある。北極星は小熊の柄杓の柄の先端である。秋にはこの小熊は倒になつて柄杓で水をあげるやうになる。春は小熊がおきてゐて、大熊が柄杓から水をこぼすやうに見える。これは北極星を中心として小熊、大熊が廻轉してゐる如く見えるからで、地球の自轉から起る。

カシオペイカは晴夜何時でも見られるきれいな星座で、椅子にかけた淑女さいはれる。大熊から北極星を反對側にある。小熊の北極星を通る指針を伸ばすこ、大きな先の開いたW形の星座を見付ける。これがカシオペイカである。この近くにアンドロメダーがある。

ペガススは北極星からカシオペイカまでの距離位更に遠いところを見るこ大きな四隅に四つの輝く星のある四角である。

十月の天頂附近に飛ぶ白鳥を呼ばれるきれいな星座がある。實は翼をひろげた白鳥を想像するよりも、十字架に見える。この白鳥は丁度銀河の中にある。

白鳥より天頂少しはなれて琴を稱する輝いた小さな星座

がある。この星座の中に北方の空で第二番目に強く光る琴がある。この星は太陽の百倍も強い光をもつ大きな星である。この琴が所謂織女星である。織女は牽牛を戀に落ち父の怒にふれて銀河の兩岸に追はれた。それで織女は織女星となり、牽牛は牽牛星となりわし座にある。

コ罗纳はかほらしい星座で、星の小さな圓で十月の晴れた日、西の空に冠の如く見える星座である。

十月東の空に見える小群の星で、七曜星を呼ばれる星座がある。



日本幼稚園協會夏期講習會

開會及び講師の言葉

開會の辭

倉 橋 惣 三

講義に這入ります前に、主催者として御挨拶を申し上げ度い存じます。今回幼稚園協會主催でこの講習會を試みましたところ、私共の豫想外の多數の方の御參集を得まして、折角計畫致しました私共さしましては、誠に望外の幸と思つてゐるのであります。私共が喜んで居るのみならず、これは我國の幼稚園界の爲に誠に慶賀すべき事と申して宜しいか、秘かに考へて居るのであります。

本會の講習は昨日調べました處では、沖縄、樺太を除きましては、全國各府縣からお集り下さつた事は皆驚いてゐるのであります。その上に朝鮮、滿洲、上海、天津云ふ様な御遠方からもお出で下さつて居るのであります。自ら、講習は申し乍ら、全國幼稚園大會の様な壯觀を呈してゐる次第かと思ふのであります。

講義の方は、淡路博士の午前の部も、午後の戸倉さんを除きまして、二人も主催者側の者が這入つて居りますので、講義の事に就いて私、禮を云ふに云つた様な事も出来ないのですが、之れは偏に皆様の御熱心の賜物であると思ふのであります。殊に私にして御願ひ致し度いと思ひます事は、斯云ふ全国的な各地方の御熱心な方の選り抜きの御集りでありますし、元來が皆様のものである幼稚園協會が主催した會でありますから、さうか外の講習へお出でになりましたに云ふ様な改つたお心持でなく、皆様の内輪の集り、内輪の講習であるに云ふ様な寛いだお心持でお出でになつて頂き度いと思ひます。私はもごより、皆様と御一緒の間に於きまして、さうかこの六日間を充分打溶けた氣持で御會合を願ひ度いと思ふ、その爲に多少のお役に立つかと思ひまして、名簿を用意しておき、何番が誰方であり、どの地方からお出でになりましたか云ふ事がすぐに分りよい様にしてあるのであり、席も甚だ、此方から場所を決めました様なこゝで恐縮であります、大體何處にお出での方があの有名な誰れであるに云ふ事がすぐに分る様に用意しました積りであります。充分一つ講習の講義以外に於きまして、恐らくやそれ以上の意義のあるこゝがこの皆さんの間に於て自ら醸し生じ得るかご希望致して居ります。

本會に致しましては、元來が甚だ手不足であります處へ、期待以外の多數の御出席を得ました爲に、殆んど天手古舞を致して居る次第でありまして、何か準備が出来て居りませぬ。遠路の皆様に対して不行届のこゝが多からうと思ひますが、これも内輪に云ふ中にお含みいたゞいて、お手傳ひもいたゞき、御注意もいたゞき、この六日間を楽しく寛いだ氣持で過していただき度いと思ひます。此の新しい建物が出来まして、或は既に御訪問下さつた方も多數あるかも知れませぬが、御承知の前のバラックの時よりはいろんな點に於て便利になつて居ります。然し何分にも未だ大事に致して居りません。始めの間でありますから、本校の方も幼稚園の方も體操場の方も、子供、生徒にも云ひ付けまして、出来るだけ綺麗にさせて居ります。その爲に皆さんの居られる此講堂でも、幼稚園の方でも、殊に體操場一切履物を換へて頂く御面倒をお願

ひ致さなければならぬのでありますが、之れも新しい建築を勞る心持を御察し下さつて、御面倒乍ら御願ひし度いと思ふのであります。

大體毎日、今日は受付の爲に少し遅れましたが、八時から始めて午前の第一部が十二時に終り、第二部が一時から四時迄云ふ事になつて居ります。唯明日だけこの場所で、文部省主催の講習會の開會式が行はれます爲に、場所の關係から此方の方の會を三十分遅らせまして、明日だけ八時半から始めます。さうしてつゞ明日は三十分づゝ遅れさせまして、頭も身體も胃袋も三十分づゝ遅めます。これは明日だけの事してお含みを願つておきます。尙ほ二十五日の午後、遊戯の方の講習に附帶しました事をして、幼稚園の子供に頼みまして此處で、實演云ふのは固苦しい言葉であります。平常のまゝの遊びをして貰ふ事にして居ります。之れは餘興として皆様にお目にかけるのではない。殊に皆様には子供の遊戯は珍らしくもないでせう。

本會の主旨を致しましては、皆様を御同様、子供を見物する云ふ様な事は全く避け度い事日頃考へて居ります。で、そつといふ意味では決してないのであります。

皆様が戸倉講師から御講習なさいます事を、皆さんがおやりになりましたも、大變巧くて出来過ぎるかも知れませんので、子供がすれば斯う云ふ風である云ふ事を、此處で子供にしてみらひ度い考へて居ります。その遊戯實演が濟みまして、後で、同じく此の場所で、他に皆様をお入れするだけの廣い場所がありません。その場所は、そのまゝ使ひまして、懇親會を申しますが、茶話會を申しますが、差上げますものも、殆んきないのであります。講義とは違つた意味の午後を持ち度い考へて居ります。これは多少の準備云ふ程ありませんが、若しお差支のない方は居て下さいます都合がいゝのであります。出来れば皆様一人もお残り無く御出席下さいまして、色々寛いでお話を願ひ度い考へて居ります。折角東京へお出でになりました半數以上の方に對して、何處か御案内云ふ事も考へないではなかつたのであ

りますが、講習中、朝から夕刻までびつしり時間がつまつて居りますので、會として御案内をします計畫も致さなかつたのでありますが、若しも東京の御見學とか、御見物も云ふ様な事で、我々の方に御便利の計れますことがありましたならば、喜んで致し度いご考へますので、本會内係員の方へ御希望を申し出て下さいますれば何かご御世話申し上げ度いと思ひます。

これで本會主催者としての御挨拶を終る事ご致します。

續いて講習の方に這入りますが、私の受持つて居ります時間に二つの事を計畫して居たので、一つは考へておきました題目に就いて、簡單ながら一渡りの話を申し上げるご云ふ事、それからもう一つの計畫は、項目にも書いておきました、自由質疑討究ご云ふ様な名前で、皆様の日頃色々御研究になつて居ります間に、問題としておいでになります様な事、これを此處で互に話合ひまして、僭越ではありますが、私が此の席に居りまして、その問題に就いて、皆様の間に色々御議論に討究が行はれ、若し私を要します場合には意見を申し上げて或纏りを付けるご云ふ様な、普通の討究が耳だけでお働きになつて居りますの少し違つて、座談會式ごでも申しますか、話合ひの研究會をしたいご云ふ計畫を立てたのであります。私としては永年さう云ふ事を希望して居りますので、個人的には、皆様色々な話合ひを致します機會は常にあつたのでありますが、その問題を皆様の全體の前に公開して、又その問題に就いて、皆様お互の間から御説が伺はれるご云ふ様な事は今回が初めてとあります。こゝにいふ試みは、講義を單純に申し上げるよりは、又違つた利益、少くも味ひがあるだらうと思つて居ります。そこで初めの計畫ではこんなに多數お出でになるご思はなかつたのでありますから、本當の座談的にこゝで問題を出して戴き、その問題に枝が繁え花が咲くご云ふ様に致し度いと思つて居りましたが、是れだけ多數四百人を越えます皆様の前で、問題を次々に伺つて居りましたのでは、第一、時間の經濟の上に損だと思ひます。でお手許に差上げて置きました用紙に問題の、質問——ご云ふご子供らしい、失禮であります、こゝに討議します研究

問題を御提供願ひ、私が拜見してその問題を整理し、その問題に基いて此處で皆様に御話を願ふ事に致し度いと思ひます。それで明日その問題を頂戴致しますと、さの位になるかと思ひますが、問題は一人平均一つにして四百位のものだらうと思ひます。そしてその問題に就て、系統的な取扱ひでなく、部分的な何處迄も實際に即した問題、個々の取扱ひ云ふ様な事を致し度いと思へて居ります。この計畫がこの講習會の少くも一つの特色であると思ひますならば、皆様からさし／＼この問題を頂戴致しまして、その計畫を賑はせ度いと思へて居るので、その問題は今回の私のお話に關係しました事でも結構でありますし、全く別の事でも宜しいのでございますが、餘り問題が廣くなりまして、さうしたら金が儲かるだらう、さうしたら美人になれるだらう、云ふ様なお話になりますと、私の手に負ひ兼ねますので、保育に關する問題ならば、さの範圍でも宜しいと思へるのであります。さうか明日の正午迄に、出来るだけ多數の問題をお書き下さいまして、係の方へ御提出を願し度いと思ひて居ります。

講師として

淡路圓治郎

教育は愛に始まり、愛を以て一貫せられねばならぬ。愛こそ教育の生命で、愛なき所には到底活ける教育は在り得ない。

然し乍ら、愛は元來盲目であるから、愛のみによる教育は動もすれば軌道を逸して、危険に陥る虞がある。愛は理性の杖に導かれて漸く當を得る。教育に於て理性の杖たるべきものは、實に方法である。教育は方法を得て始めて正しくある。

こころが出来る。

子供を養育するのに母の情愛と父の叡智が必要であるやうに、子供を保育するのにも愛と方法とが兼ね備はらなくてはならぬ。愛のみに頼る教育が不當であることは、方法のみに頼る教育が不當であること相等しい。

私は今回並びにこの後の機会に於て、教育の方法を論議して、將來の保育に對して幾分でも理性の杖を提供して行きたいと思ふ。然し乍ら、私の提供するものは、何處迄も單なる方法であるに過ぎない。之を活かす活かさぬとは結局諸君の愛の深さの如何によつて定まるのである。

プロゼクト手技製作について

及川ふみ

この夏の幼稚園協會の講習の項目の一つに「プロゼクト手技製作」を入れていただきました。

見出しだけ見るに、そんな新案な手技製作か少々好奇心をおこして下さつた方もあつたでありますし、又實際講習會に、當日に入會を申込みながらプロゼクト手技はむづかしいのでせうか、私に出来るでせうか、と御心配そうにおたづねになつた方さへありました。

何とこの名はめんごうくさい様な、むづかしい様な氣持のする名であります。

けれども幼稚園の手技製作はその名の思はせる様な、めんごうな、むづかしいものであつてはならないのであります。

動物園あそび、おもちゃあそび、水族館あそび、汽車あそび、魚つりあそび

こいふ様に、一つの遊びの目的を定めておいて、それに入用ないろくろくものを製作するこいふのがこのプロゼクト手

技製作なであります。

例へば「動物園遊び」さいふものを幼児だけで定めたり、或は保母と幼児と相談の上できめたり、又は保母だけできめたりしておいて、その動物園遊びに必要な、いろいろの動物、その動物を入れる柵、動物の小屋、園内に配する種々の木、餌をうる店、入場券賣場、動物園開園の廣告のびら、招待状など、一つの動物園遊びに入用なものを次ぎ々こしらへてゆくのが、即ちこのプロジェクト手技製作であります。

何々遊びをする、幼児がよろこびそう、教育的のこころもあり、さいふものを考へ出すこころにこのプロジェクト手技製作がむづかしいので、その遊びの道程は決してむづかしくはならないのであります。幼児はなか／＼氣の短いもので、興味がわけばその興味の湧いてゐる間に結果の出来るのをまつてゐるものであります。折角こんなものを造つて見たい、この遊びにあんなものがあればさぞ面白からうと考へればすぐにそれがほしくなる。そのすぐの間にあはせてつくられるものがほしいので、作られるものなるべく簡單なものがよいのであります。

動物園遊びのうちで、その遊びの主體となるものはさうしても動物でありませう。

この動物を簡單に、しかもそのものゝ感じをよくあらはすさいふこころに苦心致しました。

幼児は動物園へ、家庭の人たちに度々つれてゆかれて動物には親しみはあります。そしてその顔や形を平面的にあらはすこころは比較的容易にいたします。たゞ立體的にその胴をつくるのがむづかしいのであります。この六ヶ敷い、比較的材料の澤山に費す胴を至つて簡單に、材料もかゝらない空箱で造る事を考へつきました。空箱の胴をその肢の部分だけくりぬいて顔と尾をつけるのであります。

これなら至つて簡單に幼児たちにも動物の胴がつくられます。夏帽子の鼠色の箱がありました。鼠色だけで象と思はれましたので翌日幼稚園で象の肢をくりぬいてゐるこ、幼児が登園してまゐりました。象をつくつてゐるのですから、その

蓋で顔をつくつて手傳つて下さい顔をつくつてもらひました。小さい尾もこしらへてくれました。こゝに簡単に象が一匹出来上りました。次に茶色の箱で馬をつくり、白い大きな空箱で白熊をつくりました。長細い箱できりんをつくり、虎をつくり、うさぎをつくつてこゝに數種の動物が數日のうちに出来上りました。

この動物を主體として、お部屋の一部に動物園をつくり出して夏やすみになりました。

龍宮城

空箱を横にして龍宮城つくり

鯛や、平目、かつを、なぎ幼児のよくしつてゐるおさかなを自由畫してかゝせ、それをきりぬいて數匹の魚をこしらへて、糸で上よりつるして、さんご、こんぶ、なぎを配して前景として箱の奥に龍宮城をはりつけます。

これは個人的の製作として、一人の幼児がいく日もかゝつて或る日は數種のおさかなをつくり、或る日はこんぶ、さんごといふ様につぎつぎに製作をつゞけてゆくのであります。

この同じ龍宮城をつくるにしても、規模をすつゝ大きくするに、部屋の一部を龍宮のバックとしてこゝに共同的に大小數種のおさかなを製作して、海底には岩をつくり、たこや、ひみで、その他の貝類を粘土でこしらへて、多人數の幼児で數日間製作をつゞける事が出来るのであります。

たゞ二間も三間もある大きなバックにつり合ふだけの大きなおさかなを、幼児にはじめからいきなりつくらせる事は一寸容易の事ではなからうと思はれます。大きな紙をあてがはれても、それをその紙の大きさに充分にかきこなすのは、大勢の幼児の中にもそんなに澤山にはない事と思はれます。それで、はじめは、個人製作の小さいものをつくつて、だんだんに大きなものに移ればぎの幼児にも比較的によく出来るのではなからうかと思はれます。

こゝに保姆として注意しなければならぬ事は、形のミゝのつた、色のきれいな所謂よく出来たおさかなをえらんで龍

宮に配するものではありません。幼稚園の特技製作は、技巧のすぐれたものをのみみるものではありません。技巧のみを教へるのでもありません。上手下手を度外視して、つくられたぎの幼児のものもその中に吊されてゐるこいふ事が重大なこゝであります。

尙ほこのプロジェクト主義製作は概して全組の幼児がこぞつて製作にあづかり、又はその組の半分或は三分の一の幼児こいふ様に、共同製作が主體であるのでありますから、すべてに發表力の強い幼児がより多く製作するこいふ傾向になりやすいものであります。そこでその指導者たり、相談役たる保母は、すゝんでは、よりよく出来る幼児をのばすこ同時に、他方あまり活動しない幼児をいつも注意して、なるべくこの人たちにも手傳はせる様に細心の心づかひを忘れてはなりません。

こんな老婆心から、専らこのプロジェクト製作にかゝりはじめました。四月の末頃から私は、自分の受持の幼児の各兒に、日誌を記しはじめました。一日の保育を終へて、幼兒を玄關におくり出した後、再び保育室にかへつた時に、靜かにその日の出来事を思ひ浮べてつき／＼各幼兒の欄の上に記してまゐります。そして一週間の終り、或は十日の終りにそれをしらべて、積極的にはその各兒がその長をます／＼のばす様に、消極的にはその幼兒のおきざりにならない様にこ自分の目やすをこしらへております。

幼児の心にかへりて

戸 倉 ハ ル

所謂唱歌遊戯の動作は、年々共に複雑化し來り、又その動作には大人の主観がは入り過ぎ、随つて子供は大人の主観を真似る様強ひられる結果になる。近來、この傾向が著しくなつて停止する所を知らざるの状態にまでなりつゝあつた。自分も亦、不知不識の裡にこの弊に陥りつゝあつた。

六月のある日の事であつた。幼稚園の倉橋先生その他の諸先生と、私共との座談會が開かれた。その席上、倉橋先生の「遊戯はもつこ粗朴で簡單で、一刀彫の様であり度い。もつこ子供の自由表現の餘地をあらしめ度い。」

と云ふお言葉が強く、私の胸を打つた。私はこのお言葉に躍動した。先生のこのお言葉は、實にあの粗朴な子供心そのものを表現する様に、指示せられたものとして、私の胸に喰ひ入つた。爾來想を構へ考を練る。こゝ幾度か、その間、無心に遊び戯るゝ子供等の、その表現に見入つた事も幾度か數へ切れぬ程であつた。かくして漸く今回の講習に間に合つた有様である。併し幾度の觀察も、思考も、實際家のそれに及ばない事はよく知つてゐる。お心付きの事、實際に子供等にせられての不適當の點等、忌憚なき大方の批判を切に乞ふ次第である。

最後に一つ申上げ度い事がある。それは、今回の講習に於てのみでなく、私は、遊戯の動作なるものは、誰が考へ出すよりも、誰が作り出すよりも、子供等の自由表現に待つべきものであると思ふ。私が皆様の前に踊つたもの、遊んだものは、その踊り方、遊び方のほんの一、二例として御參考までに御披露したに過ぎない。皆様も子供達の前に示される時、絶対のものとして強ひられる様の事があつてはならないと思ふ。子供等に教へるに云ふ事よりも、子供等にらくらく、自由表現させる志向を起させるのこそよき指導者、よき保母であると思ふ。子供等の前に踊るのも遊ぶのも、つまりは子供等にその志向を湧出させ様爲の、ほんの手引きとして示されるに過ぎない、この心を、常に忘れてはならないと思ふ。

會員感想

日本幼稚園協會主催の講習會に列りて

名古屋市 松若幼稚園 沼 波 馥

例年開催せらるゝ文部省主催の講習會も、同一の感があ
る協會主催の講習會が、七月二十一日より同二十六日ま
で、大塚女子高等師範學校の講堂で開かれた。

私は幸ひにも初日から終りまで、聴講し得た事を深く喜
んでおります。

建築様式の何たるかは知らぬ事ながら、宏莊にしてモダ
ンな中にも、嚴肅味ある廣い堂内に漲つた空氣は、現代幼
稚園新教育の凡てを、包含してゐる頼母しいものがあつ
た。

倉橋先生は十二時間さいふ長い間、講義をして下さつた
が、いつもながら幼児教育の眞髓一々身にしみて、有難き
ものが多かつた。

然し時々耳の痛い我身の垢をさらけだされた様な心地が
して恥かしかつた。或講習員の一人が「私の事をいつてお
られる様な氣がしたわ」と言つたのも同感であつた。

保育案について、細々とお解き下されその誘導保育案
は、新らしき一つの刺戟であつた。

自由感、遊びから、精進感、仕事、に移る幼児生活につ
いても目醒しい御指導であつた。最後に我々がいつも怠り
勝になる「おかへり」の時間の御注意は、今度の御講義によ
つて著しく記念し得たわけである。

淡路先生の性能検査法は、幼児のメンタルテストに最も
ふさはしい検査法であり、性行評定尺度の試案は、直に試
みられる親しみのある、新研究調査法であるこゝを伺はれ

た。斯様な研究が幼児の將來の幸福さを物語るものであることを信じた。

戸倉先生の遊戯は「自然に歸れ」を叫ばれ、「幼児の要求を容れよ」を吐かれた様な氣がした、私は常に幼児に「どんな遊戯がすきか」を尋ねるに「日本男兒」「僕は軍人」をあげない簡單さをもつものゝみで、今その幼児の要求の眞なる強い確實性を得た嬉さが感じられた。

及川先生のプロゼクト製作品は、先生獨創の手技で、下圖から構製に至るまで御研究の新發明品で、御妙案たゞただ感激の至りで、實にくゞ尊い御指導であつた。

休憩室にあてられた、新園舎各室に陳列せられた、八百屋、おもちゃ屋、海、水族館、街や驛の賣店、食堂の獻立棚等は、同先生初め諸先生の、誘導せられたプロゼクト製作品で、幼児らしき發展性を帯びた、藝術品のほゞ同はれるものが多かつた。

新園舎の建築、設備、こみに庭園に至つては世界に誇るべきもので、地球の上になつた一つの幼稚園であるこみを感ぜさせられた。

保育室竝に遊戯室の宏大さは申すまでもなく、帽子掛、辨當棚及辨當溫め、専門のお部屋、男女各々別室の便所や湯殿は、まだ一度も見た事のないすばらしい設備であつた。尙ほ此園特設のお化粧の間が職員室の一隅にあり、保姆先生方が、朝な夕な、朗かなお顔や氣高きお姿を、おうつしになつて、幼児の前にお立ちになるこいふこいである。

お庭は眞に廣く、いろ／＼の運動具、砂場、お手洗ひ、水呑み、水道栓、至れり盡せりこいふわけだが、この外に鐵筋コンクリートの四阿式藤棚も、世界一なりと思はれた。

お山は高からず、低からず、山道長く、幼児が跋躡するに程よく、喬木鬱蒼たる下に、芝が一バイに生へてあり、春の蕨採り、秋の茸狩も、やがて試みらるゝ想ひこそ、實に羨ましきものである。

庭の東南隅に一棟の物置小屋あり、外觀優美で、何かの研究室の様に見える、其陰にも、完備された便所がある。

今回の講習會に、初めて試みられた、自由質疑の一項を加へられた、中によりき問題が出され一々御親切な解答を

得た事は、何よりの幸ひであつた。

盛大な茶話會にも列席させて頂き、耳に目にさてはお腹の中にまで、優良の感を得た事はたゞく感謝の外ない次第であります。

日本最高學府の、先生方でありながら、開會以前より終りまでの、御活躍振りは敬服の外なく、大に反省する所が多く、こゝに駄筆ながら所感の一節を呈しました。

(昭八、七、二九、東京にて)

「保育の眞諦」を聽きて (一)

京都市 平安女學院保育科

大塚喜一

この夏の講習では倉橋先生から「保育の眞諦」に保育案、保育過程の實際」を題されたる先生獨特の人間味あふるゝお話を承りましたについて、小生にも何か感想を書け、必ず出してもらへるものご期待するから、實に身に餘る信頼のお言葉を編輯の方から頂いたのであります。實際、こうして毎日お話を承ります度毎にそれに誘導啓發されてご申ませうか、次々といろゝな考へや感じが湧いて参りまして、今後さう進展して行くか自分でも今一寸豫測し難いのであります。それで、すつかりまごめてからご申してゐてはいつの事かわかりませす(後説参照)それに原稿提出の

期限も定められてあり、なるべく早く出す方編輯の方にも都合がよからうご思ひますので、先づ第一印象ご申す様なきを、先生の第一の計畫たるお話の終つた(今日七月二十四日)から記し初めようとして、ペンを止つた次第であります。それ故、これだけを以てあの豊富深遠にして滋味豊かなる先生のお話に對する、あるまごまつた全部の感想であるご云ふのでは決してないのであります。今迄の小生の智識・經驗・希望・感激等の渾沌たる心境に、あのお話が今こゝいふ風に映つた、或は、今こゝいふはたらきを及ぼしつゝあるごいふまであります。

そこで先づ第一に本誌六月號にて「保育の眞諦」いふ題を見ました時に、非常に期待してこの講習を待ちかまへたのであります。この眞諦いふ語は他の或る雜誌でも見た事がありますが、理論でもなければ外面的に目に見える事實でもなく、口にも筆にも表はし難いほんまの所を指してゐるのであります。しかもいろいろ／＼理論を説き、實際の例を示し、物心両面からあらゆる努力を以て表はさう傳へやう體得せしめようさねらつてゐるのはここなのであります。今迄我々のために親切叮嚀にいろいろお導き下さつた先生が、今回遂にこのこゝこゝいふ生命點を啓示せられるに至つたのであります。

先生がこの至境に到達してゐられるのはもよよりずつこ前からであります。それをこの夏私達にお話して頂けると思ふに、實に有難くむしろ勿體ないやうな氣がしてその眞實の心もちを悟らうこの覺悟を以てこの講習に出席したのであります。

今日の質疑の際に、小生は「保育の眞諦は實行能力でありますから」を申上げましたのは、保育の眞諦は、實は

我々が幼兒に眞實にふれ合つて行く體驗の中に感得せられるのであるこの意を表はしたかつたのであります。それが出来るやうに今回の講習で手ばさぎをして頂いたのであると考へるのであります。それでこの講習がほんまにわかるまゝいふのは、これからこの精神を拳々服膺して日々幼兒に接して行く中に、行つて思ひ、思つて又行ふまゝいふ様にして段々先生の仰せのところに近づいて行つて、だんだんわかつて來るのであります。ほんまの感想はそれからでなければ書けないのであります。今は唯その「千里の一步」こもいふべき所でありませう。

あまりむづかしく申してはおわかり難い方があるかも知れませぬので、一寸比喩的に申して見ます。眞諦の諦といふ字のひびきは何か鐘の音をきいてゐるやうな感じがするのであります。名高いお寺に國寶となつてある釣鐘の如きは、眞にその鐘の音色を出し得る力のある人が撞いて甫めてほんまの音を出すか申しますが、その人がその音をきいてゐる時にその鐘の藝術的價值を心ゆくばかり味得するであります。こゝだ、こゝだ、この音が出なくちや！

「快心の笑をもらすでせう。もし他の人がきいてゐて「實にいゝ音です、ね、さうしたらそんないゝ音が出るのでせう、私にも教へて下さいね、そして撞かせて頂けないでせうか」云はれた時彼の名人は何も答へるでせう？」

保育の眞諦は實にこうした間髪を容れざる所にあるとつくづく思ふのです。今日一三八番静岡幼稚園野々山きみ先生の御質問の際に、小生がついでにお尋ねいたしました時、——教育者も雖も其人格が完全無缺に云ふ事は要求出来ないうと思ひます。けれども子供とのふれ、會ひに就ては、之は、教育者である限りに於ては一ぱいの要求をすべきで、「あなた明日から完全な人格におなりなさい」と云つても無理な話であります、教育者も云ふ事はこの子供とのふれ合ひに云ふところを除いては、教育者の存在の意義がないのですからそれを本則として……」

「仰せでしたから、何も特別な名人の例をひかねばならぬ程むつかしいものは限らないでせう。もつと手近な例を以て云へば、先生方が、畫か音楽かお好きな道に多年御精進になり快心の作に佳境に入つてゐられる時に、若

し人から「さうしたら？」と云きかれましたら何もお答になるでせうか？ たゞひ御自身の努力の跡を回顧しつゝ今日に至つた歴史的發展の徑路を如實に御傳へなさつても、相手の人にこれを受入れる基本的體驗が無かつた時は言葉や文字だけではとてもわかるものではありませんまい。

釣鐘を撞く例にしても、その鐘が永遠の生命を持つてゐる立派な藝術品であればある程、我々素人が恐るゝ静かに撞いただけでも實にいゝ音を出すであります。その音をきいてゐる時、或程度までその妙味に酔ふ事も又可能なるのであらうと思ひます。むしろ、何も知らない素人が撞いてゐるのによくも、こんなにいゝ音が出るものか、その鐘の尊さを一層感じるこゝでせう。丁度その様に、子供の内に生長しつゝある生命力は、我々の教育力に比すれば實に偉大でありますから、そのおかげで我々の力の足りないにも拘らず分相應に保育者としての働きを發揮する事が出来、そのふれ合ひ（人間交渉）の中に保育の眞諦の幾分をでも味得する事が出来ることも思はれます。

今回のお話の題に「幼稚園保育の眞諦並に保育案、保育

過程の實際」を記してゐられる故に、こゝに「こゝ」は、實際まで述べて来て、甫^はめて真諦に至り得るこゝの意味が含まれてゐるこゝまで考へて来た時氣づかせられるのであります。そうしますと、實行し味得しなれば、遙々遠方からこの講習を聴きに來た意義が成立たないこゝが愈々痛感せられるのであります。理論を知つてゐるだけで實行出來なければ役に立たないこゝは、何事につけてもよく云はれますが、こゝでは單にさういふ一般的な點から云つてゐるのではありません。若し、先づ理論が説かれそれに合して實際案が立てられて實行に移るこゝに、理論と實際とが對立的に稍々離れて考へ得られる場合には、理論の研究だけでもそれだけの意義はありませう。先づ目的を立て、

然る後これを對象に當てはめて行かうとする時には、講義の後に實習が来るこゝの順序になるのも又當然かと思はれるのであります。之に反し今回のお話は（先生は講義じやない話だ、特に云はれました）保育實際家たる我々に我々の毎日やつてゐる事は斯くあるべきだとの真諦を啓示せられたのであります、生きた幼兒の生活を充實誘導發展

せしめて行く保母のはたらきがこのお話の中心でありねらひなのであります。それなればこそ實際家に語られたお話をして特に尊いと思ふのです。

講習の最初の日に、御挨拶色々な計畫に就ての御話ですんで、いよいよ本題に入られる始に、

「これは皆様に對して今更ら、幼稚園保育を云ふものが如何云ふものであるか云ふ事をお話申上げる必要はないのであります、私の考へてゐる幼稚園保育をいふものが、こゝにいふ風に考へられるのではないかこゝにこゝを：もう一度此處に簡單に申上げてみたいと私自身が希望して居るのであります」（本文参照）

こゝに言はれましたのを、こゝでふりかへつて味つて見ますと、私達實際家に語らむさせられる先生のお心もちを幾分うかゞふこゝが出来るやうに思ふのです。

中にもこゝにこゝの意味で特に小生の感銘深かつたのは、幼稚園に於ける保母の位置を尊重せられた事こゝに、三つの大きなましまりに分けて述べられたる各章の重點が皆こゝに集中して来て、心もちに生きてゐる幼兒の生活をいたは

り育て、ゆく保母のこまやかな心づかひを先生獨特の人間味あふるゝ態度を以て懇切に熱心に強調せらるゝに至つて「これは私、皆様に特別にお願ひ云ひますが御相談をしましで、もう一つ幼稚園をさういふ風に變へて行くかといふ事に重點を置きたいのであります」一人一人の手をさるやうに親しく呼びかけ話しかけられた御態度であります。

一人々々の幼兒の名を呼びながらこの先生を慕つて幼稚園に來たこの子が彼の自己充實の力を遺憾なく發揮し得たか、私がこの子の幼稚園を充分に用意し提供し得たかといふ保育眞諦に於ける實質上の出席！さいひ、又おかへりの時その日その日の「さよなら」を心もちの上でホントウにして、感情の借金の残らないやう思ふことを云はせ又云ふて、ねんごろに家庭へ送りかへす心づかひさいひ、こうまで如實にはつきり我々の生活の典型を表現せられては、誰しも夫々に感銘せられた事と思ふのです。實は小生も、嘗て持たせて頂いた子供達の顔が見えて來まして、自分が下手だつただけ一層思ひ出すことが多くあり、感激のあまり急に會ひたくなり、講習がすんでから舊園児を訪問して昔物語

をしたのであります。ついでに申しますが幼稚園時代の一々の情景をよくもこんなにおぼえてゐたものか、非常なショックに打たれました。

かうしてお話による感銘により我々の心が搖り動かされて來れば自然實行に現はれて、やがて保母としての更生の曙光が必ず來らねばならぬと思ひます。「おかげで私は保母としての生活に甫めて光を見出し得ました。まだくこれからです、ミにかくこの調子で行けば樂しき生涯に入れさうだこの希望を見出し得ました。先生、ほんまうに有難うございました」。さいふ様な感謝の眞心を披瀝せられる方が續々出て來る道理だと思ひます。必ずさうだ信じます！これは決して小生が申してゐるのではない、今回のお話の中に斯うした活人的効果もいふべき心的滋味が豊富に潤澤に内在してゐるのではありませんか。太陽の光が小さな水滴を通じて美しき虹を現出するやうに、保育の知識に於ても體驗に於ても極めて貧弱な小生も尙ほこの光に浴し得る程、それほきこのお話の價値は偉大であると思ひます。それは講師たる先生の御人格によることもさより

ですが、このお話が保母のはたらきを本^{もと}こしてゐられるからだと思ふのです。はたらきの世界、それは概念や物と物との關係の綜合や分析等いふ様な事を幾度繰返してもそうした材料をどんなに組合せて見ても出て来ません。「概念を以て生命を捕捉せんとするは、水を綱ですくはむとするが如し」こはよく云つたものです。こゝに幼稚園は生きてゐるこいふ眞實の姿があり、既定の方法の入り込む餘地なき刻々の創造性が躍動し、たゞひ外形からは或る方法を用ひてゐる様でも實はその方法を生活に歸入せしむる人さしてのはたらしきがあると思ふのです。こゝとした生きた姿を若し文字に現はさむとするならば去年の六月號の保育日誌の如き表現形態となるかと思ひます。先生方は恐らく御記憶でせう、あの「はしがき」に倉橋先生が「幼稚園は生きてゐる」を以て書き始められ、「こゝとした生活をしてゐる保母こそは眞に保育の樂しさを味つてゐるのである」。こ結んでゐられるこを——（こゝの所であの最初の二頁を必ずお讀みを願ひたい）私達は今回のお話を導きまして幾分でもこゝうした創造の愉快を味ひたい。萬一今回のお話がたゞ聞い

ただけになつてしまつたり、たゞこ或る點に感銘してもその効果が日と共に薄らいで結局聞きつばなしと同じ様な事になつてしまつては、先生に對してこいふより、自分に對してすまない、それではこの自分が生きてゐるのか死んでゐるのかわからんと思ひます。幸今回は講師始め編輯の方の非常な御努力によつて、お話の全文が専門の速記者により記録せられ本誌にかうして載せて頂くこが出来たのは實に私達の爲に強い力となること思ふのです。この筆記を掲載せられるこには言ひ盡し得ない困難のあるこでせう。恰も富士山の雄姿を完全に寫眞機に撮影するこが不可能なやうに、先生のお話の風格の全貌を完全に本誌に再現せしむるこはたゞこ一語も洩らさず書きこつても尙ほ表はし得ないこころがあるこでせう。しかし岡田紅陽氏の撮影せられた作品がお山の靈氣に打たれた小生の感懐の良き思ひ出さなつてゐるやうに、一度先生の御聲咳に接した私達が日々その心を體して幼児に對せむとする時、本誌が如何に良き師であり、友であるこでせう。殊に七月下旬はまだ幼稚園もある爲に遺憾ながらこの講習に出席出来

なかつた方は又々得難き玉文かき尊重せらるゝ事でせう。こうして本文を基準として今後御互に苦心を語り、質疑を問ひ喜びを分ち合つて向上純化の一道に手ををり合つて参りたいと思ふのです。それが日本幼稚園協會の機關雜誌としての本誌の讀者の使命であると思ふのです。この事は二十五日の茶話會の節小生が立たせて頂いた時申上げやうと思つたのですが、當時はなるべく大勢の方々からお話を聞きたい性質の會合であるから餘り一人で時間をきることも出来ず、誌上でゆつくり書かせて頂いた方皆さんによく読んで頂くことが出来て徹底するだらうと思つたのですから。こゝはそのおつもりで読んで頂きたい。それで、こゝでは内輪のお話としてかねてから思つてゐた所を腹藏なく披露させて頂きますが、さうも今迄本誌に度々書かれて來た事がいつてもそれきりになつてゐて、會員相互にその感想や所説に對する質疑共鳴等さいふ様な交換發表もさいふべき縦の連絡のない事です。この文をさう読んでさう感じてさう行はれたかさいふことが執筆者にも一般讀者にもちつとも反響して來ないのであります。これでは「道の友」

て甚だ物足りない。若し今月の或る方の記事に就て、來月號で他の方がそれを讀まれた感想をか質疑かさいふものがのせられるさいふやうに、誌上の座談會に臨んでゐるやうな「話しあひ」か「書きあひ」かと續々出て來るやうになりましたら、我々の機關雜誌としての性能が確實に有効に發揮せられ、執筆者も毎號同様な顔ぶれだけでなく、廣く一般會員から毎月各方面よりの記事が掲げられる事にならうと思ひます。尤も面々向つて話してゐたらすぐ言へさうなことも、扱て書くことになるさ苦心を要するもので、殊に毎日保育に従事し子供が歸つてからも用事も多く自らを養ふ時にも必要な先生方には、一寸原稿を書く餘暇もなかく見出し難く、たまに筆を執られても自分の生活の表現さなるさなかく思ふ様に書かれないさいふ事もありません。しかし、たさいひ一寸した感想もそれを書き表はす事によつてだんだんに生長して來るもので、終には最初書き始めた時には思ひもよらなかつた處にまで發展してゐるこゝが小生等にも度々あります。そうして苦心して書いたものを自ら讀むだけでもなかく愉快なものです。まして同志の友と語り

合ふ氣持で貴重な誌上にのせて頂ける事は實に感謝すべき特權だと思ふのです。

さうです皆さん、一つ今回のお話が本誌に掲載せられたのを一轉機として、傍觀的な一讀者から誌上で相見えるお互同志になつて頂きたいと思ふ。こゝしばらくはこの「保育の眞諦」を中心にして互の感想なり體驗なり實行上の苦心困難なり質疑なりを語り合はうではありませんか。お話のつてゐる今月號の何頁のどこに書けばすぐわかるのですから。「私はこゝの所を讀ませて頂いて實に幸でしたその實行の結果かうなりました」私はこゝの所がこゝいふ事情のためにさうも仰せのやうになりにくいのです。この外的事情が急に改らないとすれば私の態度をさう變へて行つたらいいでせう?」こゝいふ風に文の長短巧拙に拘らず、眞面目に實行しつゝ苦心して書いたものは誰が讀んでも何か感じ學ぶ點があり各自の精進感を高められる點に於て皆夫々にいづれも劣らぬ價値があると思ふのです。(これは小生が保育實習生の感想を讀む度に毎に切實に感ぜさせられる事です)

さうして本年の講習は是等の體驗や感想を本にして更に

その上に指導して頂くこゝが出来ましたら今回のお話は實に聴き甲斐があり、恐らく先生も話し甲斐があつたと思つて頂けるでせう。茶話會の席上で小生が特に講師に對して御禮の言葉を申述べなかつたのは、先生が改つて禮を言つてもらはうとも思つてゐない云はれたからでもありませんが、實は言葉でお禮を云ふ事が出来なかつたのであります。體驗によつて保育の眞諦を味得したならば——その程度は深淺種々あるにしても——必ず私達の生活が幾分でも向上し純化してこうして先生の御精神を私達自身の身に心に實際に現はして行く事が出来るでせう、それが本當のお禮であると思ふのです。それ以外のお禮の仕様は講師の一方ならぬ御苦勞に對して却つて輕々しくつてすまないといふ氣がして云へなかつたのであります。かくして、私達は此度の先生のお話に對して、是非實行を以て答へたい、それは弟子としての義務さといふよりもむしろ喜ぶべき光榮であるこゝを諸氏と共に深く味ひ、固く心に誓ひつゝ一まつ第一印象としてのこの感想文を結ぶこゝにいたします。(昭和八、八、二、歸省の翌日終稿)

日本幼稚園協會主催夏期講習會感想

吳市 中央幼稚園 宮内重太郎

幼稚園の保育講習會に、女高師に出席したのは、初めてである。従て刺戟をいたゞいたことは、實に多々であつた。だけき感想を述べさしていたゞくことは、保育に日淺い余輩は其柄でない。たゞ一言述べさして頂くだけである。倉橋先生のお話の様に、四百幾十名の此會衆は、沖繩縣を除き愈々全國各府縣保育者の會同で、即ち講習會云ふよりは寧ろ保育大會である。

先年岡山市に於ける中國四國聯合保育會に出席した時、招待會の席上に於て、同席の某新聞記者が語つて居た。教育者の會合に於て、小學校の先生よりも中等高等の先生よりも、満場の朗かさは實に幼稚園の先生のお集りである。こゝ余は其語られたことを聞いて、大に幼児保育者の力強さを無限に感得した。

今回の講習會に於て、諸先生方の御講演御指導は、實に

熱烈で眞剣で而して朗かであつた。伸びんきする一ぱいの幼兒を保育する我々は、極めて明朗なる氣分を以て、董心の機先を巧にこらへ、適良に誘導しなければならぬ。講師諸先生に仕向けられてか、受講員全體の持つ態度が、會場の氣分は確に熱情の横溢した、底力の強い明るい講習であつた。幼児保育の氣分行動は、實にこんなであるべきものであらう。指導せらるゝ諸先生も、指導を受くる全員も誠に眞剣である。余輩も他に負けない氣持で細大ミなく受取らして頂いた。細大共に幼兒の爲だ愛兒の爲だ。と思つて……彼等を伸ばす爲には、眞剣にならざるを得ない。明るいい心にならざるを得ない。大體諸先生の朗かな熱心なるお導きは、遠く臺灣滿洲より出席せられた會員諸君にいたゞいたお土産の熱氣よりも、まだ高熱だつたので、我々は此熱を我國保育者の保育熱として、そうして倉橋先生に

頂いた保育の眞諦核心によつて、即ち全国各地方の熱心なる保育に努力しなければならぬのである。

教育保育は、人生至大至高の天職である。此天職に携はらしていただく……努力さしていただく……人間生活の基礎

今夏期講習會感想

毎度幼児の教育で種々新しい事を教へて頂きますけれど、土地柄自然の風物にも恵まれず、文化の程度もおくれ勝ち、外國租界の幼稚園を參觀しても何等新しい發見もなし、まあこれでもよろしからふに舊慣を打破する勇氣も出ず、呑氣其もので過して來た私には、見るもの間くもの一々驚異に價するものばかり。

倉橋先生の御講話には胸のつかへも下つた様で種々の迷ひも晴れ、前途に光明を與へられました。此よるごびは筆紙に盡しがたいもので御座います。

を作らしていただく……大切な人の子を伸ばさしていただく……我々は、實に人間生活の至上幸福なる生活である。天下の幸福者は實に我々保育者である。

天津 日本幼稚園 奈 良 い く

又及川先生、戸倉先生からは良い御土産を澤山に教へて頂きまして歸津の上は、あれも、これもご理想やら空想やら、園児等のよろこぶ顔までが目にもちらつく様で御座います。

五千の居留民もあり、百二十名の園児もある土地で御座います。願はくば一度御來津御講演の光榮に浴し得ぬものかしら、倉橋先生のあの胸のすく様な御話を天津の人達にも御聞かせ仕度いき、つくづく感じた事でした。

(東京にて)

講習所感

東京 大和郷幼稚園 坂内 め ツ

日頃讀書の時間を多く持たぬ私にまつては、講習は何よりの修養機關でありますから大方受講する事にして居ますが、今年ほゞ面白く感じた事はありません。取分け炎暑の烈しい日が續いたにも拘はらず、汗の出るのも風のふくのも少しも苦にならず、面白さゝ感謝でいつばいでした。

講師の諸先生に對して感謝するのは元よりであります、それにもまして主催者側の日本幼稚園協會の役員の方に感謝せざるを得ません。文部省の主催と異り、會場を一つ借りるにも、小使の手を一寸借りるにも、一通りの苦心でない事は十年前も今日も同じ事と同情いたされます。盛況は嬉しい事ながら、會員の御世話會場の整頓等、御心づかひのほゞよくわかります。しみじみ習ふ事のらくさゝ教はる事の嬉しさゝを味ひました。

申しおくれましたが倉橋先生には、主催者として始めよ

りプランを御立てになる時から全般に亘つて御注意深き御指圖をなさる上に、長時間に亘つて講義をおつゞけになり、いつもニコニコ多數き質疑に對して一々解決を與へられ、實際家に自信を與へて下さいました事は有難い事外に言葉がありません。

お講義の内容について兎や角申す事は誠に相濟まぬ儀存じますが、同じやうな考への方も居られたやうに思ひますので失禮を許していただき感じたまゝを書いて見ます。

一、私は保育の眞諦を方法の眞諦であるといふ事を明かに意識しなかつた爲めに、目的と混同して考へ、先生の御眞意を解し得なかつた點があつたかも知れませんが、お講義の一つ一つを自分の園にあてはめ實際に照し合はせて、始めに終りは符節を合せたやうに思はれ得意でしたが、中間で悲觀しました。何故にお説通りに行かないのか大に反

省して見ました。自分の力の足らぬため、考への至らぬため、一つには幼児個人々々の事を考へ過ぎるために相違ないのでありますが、遠慮なく申せば、先生のお説は、幼稚園の設備も保姆の力も理想的であつて、幼児の方も又理想的な人ばかりさういふ事を前提としてお立てになつた方法ではないでせうか、少くも保姆も理想的な人ばかりを御推定下さつた先生に對して、私共は大に修養をつまねばならぬと思ひました。尙幼稚園の目的は大局に於ては一定のものでありますが環境等によつて近き將來の目的や幼児現在の目的は園によつて異なると思ひます。其個々の園が先生の御説を實行しようといふ時に、疑問も出て困る事の起るのは當然であります。其時こそ先生に御尋ねして解決していただき、其園にふさはしき實行方法をならねばならぬと思ひます。これが先生の御本意かと思ひます。

夏期講習會を終へて

宏遠な御研究が、僅かの時間では其一端をさへ御出しになる事が出来ないのに對して、さも全般を伺つたかのやうに批評がましい事を申すのは失禮の限りであります。これも研究心の溢れを御許しを願ひます。

一 遊戯について 幼児に適した簡単な動作で幾回も繰り返される工夫はないかかかねて考へて居ても、少しもよい工夫が思ひつかないのに、戸倉先生は私どもの要求をよく知つて居られて、誠に適切な遊戯を教へていただき感謝の外ありません。もつと時間があつたら實際幼児にさせる時に材料の配列、一回にさせる分量、遊戯の時間と體力との關係、材料一つ一つについての目的を保育者はどの程度に考へて置かねばならぬか等、根本の問題についても伺ひたかつたに残念にぞんじました。根本の理論を知る事は、實技を會得し上手に踊る事よりも遙かに大切な事ではないでせうか。

例年開催される文部省の夏期講習會にきまつて出席させて戴いた私は、今年の講習會が幼稚園協會主催であるといふ御通知を受けた時、一寸出にくくはないかしら……と考へさせられました。なぜならば私共公立學校に身を置く者は、休暇中の會合に出席する事はいろ／＼の方面から注意をうけてゐるからです。しかし今回はその心配もなく、校長先生からの快い御許しを得て會員の一人に加へて戴く事が出来まして何より嬉しく思ひました。

七月二十一日開會前に、あの大塚の女高師玄關に到着いたしました。例年講習會第一日に受けるあの堅苦しい一寸騒々しい様な氣分は一寸もなく、至極あつさり受付をすませました。「やつぱり幼稚園協會の主催だな」と思ひながら講堂の入口に立ちました。昨年までのバラック建は違ひ、立派に新築成つた大講堂に會員一同の緊張味もいつも違ふ様に感じさせられました。全國から集られた四百四十名のお友達「何て心強い會合だろう」同じ道に精進する人達の集り……しかも中にはしばらく振りでお目にかゝれる親しいお友達のおなつかしさ……又不意にミびつかれ

て抱き合ふ喜び……等々様々の氣持にうたれて、一年一度のこの會が、今更ながら有がたく感ぜられました。倉橋先生始め諸先生方のいつも變らぬ御親切なお世話、行き届いた御接待に、あの暑さきびしい一週間、しかも午前八時から午後四時過ぎまでの永い時間を、一寸のつかれも感ぜず終る事が出来ました事を心から感謝して居る次第でございます。

ここに嬉しかった事は、御指導戴きました科目が殆んど日頃悩みとする保育の根本問題であつた事で御座います。倉橋先生の御講話、淡路先生の御講話、いづれも日頃求める保育の奥義も云ふべき大切な事でありました。むづかしい項目を數多くならべ立てた個性調査等の用紙が、いつも途中まで終つてしまつたり、終りのましまりもつけず戸に棚の中へしまひ込んで來た今までの事をかへり見て、ほんまに有がたく、一語ももらさじ緊張して拜聴いたしました。そして倉橋先生には私共大勢からの質問を受けて下さいました事はみんな嬉しかった事で御座います。年こそ重ねても尙解しかねる實際にあつたの悩みは、十人十色であるだけに、皆様のあの質問を伺ふ事がみんなに有

益な事でした。理論と實際とを離しがたい私共の仕事を考へた時にいつも、むづかしいくどうやむやに過してゐる私共のなさない立場を御察し下さつてのあの倉橋先生の一つ一つの御解答が、こんなに薬になりました事。御座いませう。

いつもながらのあの大まかな及川先生の手技の御指導は、又私を喜ばせて下さいました。一学期前の幼稚園、又小學校の手工科を横取りをした様な形式から、未だに足を洗ひきれない人達に講習會に出席なさらない方で、ぜひひ見せて上げたい様な氣がいたしました。そしていつも忙しくて間に合はない材料も、今年はゆつくり仕上げの事が出来まして一層うれしく思つて居ります。

戸倉先生のお遊戯も、これ又何も申し上げてよいやら言葉には云ひつくせない程の感謝を持つて受講いたしました。園児の遊戯では日頃考へさせられて居りましただけ

夏季講習の感想

に、あの四日間は、暑さもつかれも忘れて一生懸命教へて戴きました。そして大きな希望と喜びを戴いてかへりました。あまりに嬉しく緊張した一週間は瞬く間に過ぎ去つてしまひました。飢えに飢えきつてゐた者が、一度に食物を與へられた時の様な感じで喜び過して來ました後を、今の休暇で靜かに考へて見ました。二學期には又新しい氣持ちで可愛い幼兒等に接する事が出来るのを何より嬉しく思ひます。

係りの方から何か感想を申しましたまゝに、無様な言葉を數多くすべて大變失禮いたしました。

終りにのぞみ、あのお暑さをもかへりみず私共會員の爲にいろ／＼御骨折り下さいました諸先生方始め、係りの皆様に重ねて厚く御禮申し上げますと共に、御健康を祈りつつ筆を止めます。(八、八、八)

佐賀 唐津幼稚園

吉 富 フ キ

本年の日本幼稚園協會御主催の御講習は、例年の文部省主催講習と異なり人員の制限なく、何かと煩はしき事柄もなく、自由に生々々斯道の先生方より御熱誠ある御指導を受けさせて頂きました事を深く感謝して居ります。

講習の題目につきましても、會員全部の的を致して居りました倉橋先生よりの幼稚園保育の真諦竝に保育案保育過程の實際につき、淡路先生よりは幼稚園として最も必要に迫れる問題の幼児の心性査定に關し、又及川先生より幼稚園保育の本義に基く新御考案の特技製作等、各項目に渡り新らしき問題を御示し下さいまして誠に嬉しく、尙時間を要する座談會迄御開き下さいまして、和氣霽々裡に各自の困難とする保育の解決意見の交換等御指導下さいまして、

講 習 所 感

實に有りがたく感謝致して居ります。又年來心を碎いて居りました遊戯課は、幼児の心にしつくり致しました御指導を授けまして、幼児の快感を以て運動なす事を目の當り見る様な感が致して嬉しく存じます。

實に本年の講習は終始一貫熱誠に満された。私としては十有餘年嘗て何處にもみられなかつた暖かい講習であつた事に深く感動させられました。五百になんんとする會員全部が、大満足を得て喜びに喜び、暑中も忘れ御指導を受けし半面には、倉橋先生を始め幼稚園の先生方の汁と油の御苦心を忍び深く感謝致して止まないで御座います。

大阪 船場幼稚園 坪 井 よ し 子

今回の倉橋先生の御講演を伺ひまして、教育全體がさうでありませうが、幼い子供の場合はほんまうに御主旨の通

り、如何なる場合にも自然と天分に反逆を企圖したり考へたりしてはならないものだま眞に會得させられました。

先生のお嘆きの様に「教育は目的に酔はされる悪い癖がある」こはよく辨へて居乍ら、兎角修養の足らない自分共には陥りやすい缺點で大に豫防策を講ずる要があるこしむじみ感じさせられました。

淡路先生の御講演は、確に私共の日夕に肝要なものを斬新な御工夫でおつくり出しになりましたもので、子供、それぞれ個性に研究を重ねて保育上の力點を求めんこす、こは、兎角私共が餘りに親切すぎるこ申しますものか子供に對してかなり形式的で、ストイック的で、造り出させる、働き出させる、こいふよりも反對に、忍耐する、辛抱するこいふ方に導きやすい傾向がありますこを思ふこき、真に真に大切なここゝ存じました。

及川先生の色々な變化に富んだ趣味ふかい御工夫、只今からでもすぐ大に役に立つある物を修得させて頂きましたこをよろこんでるます次第です。

戸倉先生の遊戯は、幼稚園遊戯として私共の求めますこ

ころの、簡易明朗、真に幼児等への嬉しき賜物として、戸倉先生ならでは得られぬ賜物として受講いたしました。

其上、この度御新築の幼稚園舎を拜見させて頂きました。が、これまた、スバラシイもので殊に其遊園は悠然として迫らざる落つき、わざとらしくからぬ品位、豊富なる自由感、實にえも云はれない御しつらえ、何しろ數百坪こいふ廣さの中に毛氈を重ねたやうな柴山、其間をめぐる歩道、あちらこちらに枝を組み交はす櫻の老樹には過ぎし四月の艶麗を思はせられ、花無きにさながら、絢々たる春日に恵まるゝ心地、幼稚園舎内の諸施設の周到、高雅にして而も優にやさしい四圍の壁の色澤、光線の加減等、此園舎で、此園庭で、あそぶ子達を思ふこき、我ながらわき立つ様な感じをそゝられました次第で御座います。

以上は私の感想の大略で御座いますが、兎に角總ての點に於て、實に大なる獲得物をお土産として頂戴しました事を厚く厚く御禮申上げます。

夏期講習所感

静岡幼稚園 野々山きみ

今夏東都に日本幼稚園協會主催にて夏季講習會の開かるるを聞き、喜びて早速同志を誘ひ受講の申込をなす。

いよいよ開會にあたりて、先づ驚きと心強さを感じたるは、その會員の全國的の集會なりし事、内地は固より遠く海を隔てし地よりの來會者もありて、その集ひ合ひしもの實に四百四十名の多數に及びしは、勿論日頃支那滿洲などにも同じ道にいそしまるゝ方々のあることは知りつゝも、今日あたり同じ室に席をならべて講師先生の講話を伺ひ、尙又知るも知らざるも相親みて、共に語り共に斯道の研究に精進せる愉快さは、たまへん方なし。殊に今回の講習會たるや、打解けたる會にして、例年にも増したるきびしき暑さにもかゝはらず、講師先生方の御熱心なる御指導は會員一同をして、暑さを忘れ毎日楽しく拜聽するを得しめ、誠に感謝に堪へず。

次に講師先生方の御講話につきての感想をあぐれば、

一、倉橋先生の幼稚園保育の眞諦並保育案保育課程の實際につきては、常に保育に携はる私共の、動もすれば因習にまはられ、研究におくれる等、自らの恐れつゝありしことどもを、一々指摘されて深くその誤れるをさざらしめ、迷へるに道を示し、眠れるを覺醒させられたる、その御懇篤さに感銘し、實際保育者の抱負はかくあるべきを痛感せしめられ、更に又常に疑問させし問題に對し、一々御解答をいたゞきたる誠に光明を得たり。

一、淡路博士の幼兒性行評定尺度の新らしき御講話には、私共に最も適切容易なる方法を御示し下され、今後先生の御講話に基き更に一步をふみ出し、これを實施するやう努力せんまうなづかせられたり。

一、及川先生の手技の、幼兒にふさはしきものを與へら

れたるを喜び、常にたゆまぬ先生の御研究の程をうかがはる。

一、戸倉先生のお遊戯には、將に行きつづまらんと危ぶまるゝ現状より救はんとして、特に真に幼児に即したる自由表現を高潮せられたる、誠にかくあるべきものゝ強く感銘す。

かく一々數へ來りて、常に迷へる自分は光明の街に引き

感想に代へて

東京 文華幼稚園 留岡よし子

出されし感を禁ずるを得ず。

要するに今回の講習會は、講師先生方こそ、いつになき親しみを感じ、受けし課目の一々わがものになりしやうなる思ひにて、日々喜びに満ちて六日間を有意義に過し、又來ん年もかゝる會の開かれんことを切望し、今に尙ほ向上の氣に燃えつゝあるを喜び、拙き筆もて感想の一端をす。

Yさん。其後御體如何？ 講習には死んでも行く。講習、講習。ミ、呪文の様に言つていらしたその講習。文部省のなか何だかミ、かく、倉橋先生の講習なるものに、遂に御姿の見えなかつたのは本當に御氣の毒も残念にも申上げ様がありません。私？ 勿論出席、大切な病人。一時間

半かゝる田舎から。子供等の始末。留守のあれこれ等々の毎日。海を越えて來られた方々の御熱心もさるもの乍ら東

京の住人だからこいつて、またあなたのように出席出来なかつたからつて、凡そ保母といふ程の者が、講習々々本當に三七日のお籠りならぬ、六日間を神詣でもする氣でゐるのですから參詣人の多かつたのも不思議な事ではありませんでした。

先づ本堂は見事な本建築。流石、御用意萬端至れり盡せり。會員名簿が申込順に府縣別園名入、番號付で出來て居

り着席順が番號付で定められて居りました。

「失禮ですがあなたは熊本〇〇〇幼稚園でいらつしやいますか。實は私熊本の出身で……」「まあその△△さんなら幼稚園のお向ふでございますわ」「ぢや□□ちゃんていふ子は」「えゝその方もう女學校へこんなのも御利益の一つ。」

さて御説教は、之は活字になつたものを御覽になつて下さい。御教は骨身にしみて有難い極なのですけれど、凡婦の悲しさ、それに、衆愚、もろくのさまだけに、そのまま明日からさいふ譯にいきさうもないのが残念だと思ひます。私はつくづく思ひました。

保姆には眼が四つ否八つ、そして、たこの如くいかの如く多くの足ならぬ手の欲しきかな。肝心のアタマは否ココロはつて？それはもう親馬鹿程に保姆馬鹿でいゝのぢやないでせうか。

それからね、一段、嬉しい事があつたんですよ、質疑問答。かういふ機會を與へて下さる御親切いふより、與へ得る此の講習なればこそいよく尊いもの、さいふべきでせう。これも活字で御覽下さい。結局「そうなんだらう、

そうに違ひない、ほんまうに!! だけぎ……」もう一度、六つになつて、お茶の水の幼稚園に入れて頂き度いと思つたのは私一人でしたらうか。

戸倉先生の遊戯、不斷怠け者の私は體の限を盡して踊りました。汗ビツシヨリ。ホツミ風を入れてゐるを、踊つてゐる方々の姿が何時の間にか、園兒の〇〇さん△△ちゃんに見えたり、あれをする時の□□さんの顔付は定めて見物だらう……なぎゝひさり、ほゝえまれる程、それ程ピツタリミ子供らしいですの。

いゝ遊戯、面白い遊戯、愉快な遊戯、上手な必要のない遊戯、ヅラおしと思はずうれしくなつてしまひました。

及川先生の特技。何時も乍ら小母様みたいな先生をしてお姉様の様な先生方。私はますますもう一度六つになり度いと思ひました。

製作品は今度御目にかけます。すべてはそれで御わかりになるでせう。動物園、水族館、それを通して、ものゝつかみどころ。ものゝ扱ひ方、表し方、なぎ考へさせられます。

終りに恐縮したのは、茶話會に御招き下さつた事です、恨みは參詣人の多すぎた事。

缺席を餘儀なくされたあなたへ御氣の毒こは思ひます

感想

七月二十一日より同二十六日迄東京女子高等師範學校新校舎に於て、日本幼稚園協會の催しの保育講習會に初めてのごみしました。講習會員は全國より、滿洲朝鮮臺灣の遠方よりお見えになり、四百數十名の會員諸師の熱心なる態度の集合は、こりもなほさず講師倉橋先生外諸先生の極めて適切なる講演題目のよろしきを得たる事ご存じます。私は女高師の設備完全なる寄宿舎にお世話様に相成り、各地方の先生方ご寢食を共にいたし、規則正しき六日間に至ても得られない親しみを結び、お互に意見の交換をいたしたる事は何よりも愉快でありました。今から二三の所感を述べ御禮を申し上げます。

が、全く少ないお賽錢に拘らず御利益は無限。

では御大切に。拜眉の折萬々。(八、八、一七)

京都 永觀堂幼稚園 鶴田しづる

一、幼稚園保育眞諦は誠に結構なる御講演でありました。私たち至つて淺い經驗にておこがましく申上げる資格のないものでありますが、日頃園兒に接しながら、いつこでも心に響いてゐました事項であり、此度の御講演を承り一しほ意を強くいたしました。益々此の考の下に進んで行くつもりであります。

二、誘導保育案作成に就いては、先づ第一に環境ご設備のよろしきを得て、堅實なる知識、經驗、幼兒心理の理解ご、且つ又常識に富んだ保姆にしてはじめてなるものであり、其には従前の保育案より以上の研究ご、保姆の保育についての心構への努力が是非ごも必要であります。この案は

これ全く幼児保育者の一大進歩の兆候を考へられました。

三、動もするに、幼稚園児のお遊戯に随分複雑なる動作を幼児に授けてゐられるのを見うけます。私たちはいつも幼児のお遊戯は簡單にして、動作のハッキリ表現されて興味のあるやうに考へてゐます。此度戸倉先生の御指導のお遊戯は單簡で運動量も多く、反復練習するに共に興味があり終始氣持よく練習をつづけました。且つ先生は歌詞に於て巧妙なる觀察の動作を表現せられてゐることに感心いたしました。

幼児生活に即したる團體遊戯の指導もありがたうございました。

四、戸倉先生のお別れの時におけるおほめの御言葉にもありましたやうに、此の講習に於て保姆の先生がほんこに

講習感想

幼児に「なりきつて」お遊戯をなさつたことは、私は幼稚園の先生でなければ見うけられないことだと思ひました。又保姆の方の體格がほんこに立派で元氣であつたことはうれしい事でした。

健康を害して不愉快な顔で保育せられては御子様たちに知らず知らず感化を及ぼしますから保姆さんは體格から生みだした明るい、無邪氣な、朗らかな其の上やさしい態度の持主の先生でなければならぬと思ひます。

五、座談式討究解答の時間を設けられて、私たちの便宜を與へて下さいましたが、あの多數の集合では却つて、倉橋先生の御講演を承つた方が効果的であつたらうと感じました。

(八、八、一九)

富山 女師附屬幼稚園 井 上 鶴 子

講習に對する感想を何か書くようにこの事でごさいま

すが、元來筆不精でございまして、感想なごきてもおこが

まして書かれそうにもありませんので、餘程お断り申上げようかと思ひましたけれど「必ず頂けるもの……」とおつしやいました原稿紙までおそへ下さいましたものを持ち歸つて参りました今日、そうした事の云へた義理でもなくなり、さうさう思つたまゝの一つ二つをこりこめもなく、拙筆をかへりみず書いてみる事に致しました。

二十日の夜汽車にゆられて、二十一日朝上野につくまで睡眠不足のはれぼつたい眼をしながら會場に馳せ参じた自分にこつて、之からすぐ講習をうけることは想像以上に苦しいものでした。願はくば一寸の間の安眠が與へられたら、どんなに嬉しいものであつた事か……、會場の立派な事にぐるぐる目を廻したり、會員の豫想以上に多いのに驚かされたり、自分に與へられた席について、ほつこ息してみるさう前に偶然さには云ひながら舊友が二人もいるのに、手をこりあつて喜んだり、頭の中の重さにひきかへ周圍の事情は自分の眼をみはらせる事ばかりでした。緊張してゐた故か、居眠りだけはせず御講義をきく事が出来ました、今思つても之だけは我ながら感心して居ります。

倉橋先生の御講義は私共保母として、心得おくべき事、進むべきみち、方針、方法等について、實に、はつきりご教へて頂き、確信つけて下さいました事を、厚く御禮申上げます。

「一つの遊びの發展」さひまして、未熟ながらも幼児達と共に進んでいたことが今度の御講義の中の誘導保育らしいものであつた事は我意を得た喜びを申しませうか、ひこりで嬉しがつて居ります。はつきりとした理論は分つて居りませんでしたか、實際に於てそれを求め、それに近づきつゝあつた事か何んさなく嬉しくて仕方がありません。今の求めて居つたものをつかみ得て、唯子供のように、喜んで居りますけれども、その得た眞理をよりよくいかしてゆかなければならない大きな問題の前につつて、色々考へさせられて居ります。

時々まるで自分の缺點をつかみだして、云はれている様に思ひ、穴でもあれば入つて、かくれていたいやうなお話もございました。

おかしな事には、先生のおはなしをきいて居ります。

自分までみんなにまじつて、笑つて、きいて居たやうな始末、はつミ氣がついてみれば笑ひ事さしてきくのではない、ほんミに改めて、考へなければならぬ事ばかりでした。

及川先生の手技製作は、倉橋先生、御講義ミ相まつて、誘導保育案の實際ミして好材料を與へて下さいました。尙ほ種々御指導下さいました事を感謝致して居ります。

自由質疑討究は、はじめての試みミして、非常に興味深く思ひ期待致して居りました、色々ミ質問が出まして勉強させて頂きましたが、會員が多いため多少徹底しなかつたうらみがあるやうに思はれます、切角のお試みに對してもこんな失禮な事は申すのではございませぬけれども。

淡路先生の御講義、この種の研究の少い折柄興味深くおきゝ致しました。保育上實際に利用させて頂きたいミ存じて居ります戸倉先生の御遊戯一曲、歌詞、動作共に選擇せられたものを與へて下さいました事を御禮申上げます。今まで遊戯ミいふものが、餘りに餘興的なものになりすぎていた様に、思つていました際、戸倉先生の御遊戯は、ほんミに、氣持よくおうけする事が出来ました。

子供の氣持になりきつて、やれミおつしやつて下さいました先生、でもあの時は、何故か、充分に、出来ませんでした、先生の御熱心に對しても申譯ない事だつたミ、今更悔んで居ります、もつミすべての子供に歸つてやるべきでした、今こそ、先生のおつしやつて下さいました事を、よく心において、しつかりミした歩みをつゞけたいミ存じます。

田舎からはじめて上京し、講習をうけて色々澤山有益なおはなしをきいて参りましたゝめ、いまだにその時の感激がさめず熱して居ります。いつてきて、よかつたミつくづく思つています。行くミ決定するまで非常に迷つたものですが之からは許されるかぎりにおいては、さしく出て参りたいミ存じます。

今後もさうぞよろしく、お導き下さいませ、書き出しますミ、思つたまゝを遠慮なしに、走しらししてしまひました。さうぞ、すべてに経験淺い若い者の云ふ事ミして、至らぬところは、お許し下さいませ。

最後に、この會のため、始終何くれミなく御世話下さいました諸先生方に、厚く御禮申上げます。

講習會記

——主催 日本幼稚園協會——

第一回夏期保育講習會を開いた。年々の文部省講習會が、東京では開かれな事になつたので、主催がかはつたさいふに過ぎない。さういふわけで、會員となるに別段むづかしい手續も要らないし、人員に制限も無いので、何さなく相共に心やすさで事が運ばれ、一つには始めての試み、自由質疑討究も加つてか、續々の申込みは、遂に全員四四〇、多少の缺席者はあつても實数は四百人を超える大盛會であつた。

七月二十一日から二十六日迄の六日間、幸ひ天氣快晴、日盛りの暑さは格別ながら、廣々した庭の雜草を撫で、はいる涼風が、折々ひいやりと會場内をすぎてゆくのも快い。雨のよさは、一人しづかに聞く夜の春雨、講習會は日本晴に限る。

會場は大講堂。常々學問の道に御心注がせらるゝ東伏見宮妃殿下の御染筆、大扁額の德音堂はこの堂の名稱。こゝ

に第一回保育講習會を開いた事を、日本幼稚園協會のために記念したいと思ふ。

廣さを念頭において募集したのでもないのに、四百十數人の會員は、快い程のよさでこの大講堂をうづめたのである。

さて次の記事にうつるこしてまづ時間表から。

時 間 表		第 一 部		第 二 部	
二十一日(金)	講 倉 師 橋	8	淡路 講 倉 師 橋	11	淡路 講 倉 師 橋
二十二日(土)	講 倉 師 橋	9	淡路 講 倉 師 橋	12	淡路 講 倉 師 橋
二十三日(日)	講 倉 師 橋	10	淡路 講 倉 師 橋	1	淡路 講 倉 師 橋
二十四日(月)	講 倉 師 橋	11	淡路 講 倉 師 橋	2	淡路 講 倉 師 橋
二十五日(火)	講 倉 師 橋	12	淡路 講 倉 師 橋	3	淡路 講 倉 師 橋
二十六日(水)	講 倉 師 橋		淡路 講 倉 師 橋	4	淡路 講 倉 師 橋

講習科目及び講師

第一部(午前八時より正午迄、六日間)

- 一、幼稚園保育の眞諦竝に保育案、保育過程の實際
- 一、保育一般に關する自由質疑討究(十二時間)

東京女子高等師範學校教授
附屬幼稚園主事 倉橋惣三

- 一、幼兒の心性査定の方法と新査定尺度の發表及び解説(六時間)

東京帝國大學助教授
文學博士 淡路圓治郎

- 一、幼稚園に於けるプロジェクト手技製作の實習(六時間)

東京女子高等師範學校
保姆兼教諭 及川ふみ

第二部(午後一時より四時迄、五日間)

- 一、幼稚園に適切なる唱歌遊戲及び幼兒團體遊戲指導
- 一、園兒による團體遊戲の實演

東京女子高等師範學校助教授 戸倉ハル

倉橋講師の講演内容については別項速記が記載されてる

るので、誠に都合である。質疑應答について一こゝ述べて置きたい、今夏の講習が幼稚園協會主催と決定するや、われわれ一同はこの事を申し出た、倉橋師も座談會については、かねてからこの計畫があまりの由、幸ひにも即座に決定したわけである。そのうち、會員諸氏からの便りにも、是がかね／＼の希望であつたさうで、こゝに圖らずも好機到來したさいふわけである。

蓋をあげて見れば更に一層このことを喜ばずには居られなかつた。さすがに實際保育に親しくたづさはつて居られる權威者の問題は、獨り提出者のみが益することではなく、志を同じくするものゝ何れもが關心を持たぬものは無く、同じ疑問については解決を得、みづから會得するものは自らの解答が講師のそれと違つたら違つたで、同じければ同じで内心の安心を得、兎に角誰にこつても益する所が多かつたのである。

受持つて居る組の子の夫れ／＼の心性は、日々生活を共にして居る擔任にはよくわかつて居る、こゝはいふものゝ事

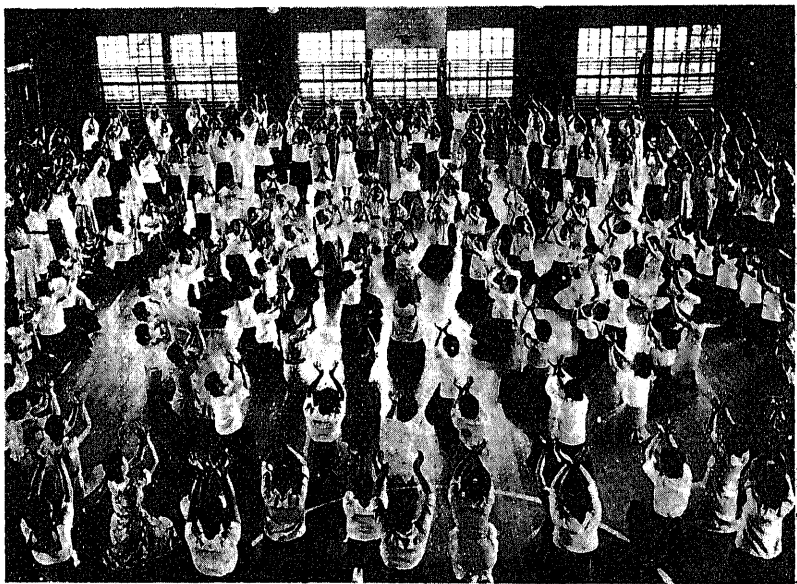
に感じ折にふれてつかみ得た何ミなくのわかり方である。勿論それが可成りな確さを持つて居る事は知つて居てもたよりなさがある。これの科學的立脚點を、淡路講師は私共に示して下さつた。長い間幼児を對照して實驗せられたもので、これこそ實際保育者が今迄長い間待つて居た照明を得た喜びである。

倉橋、淡路兩師のあこに、實際家の手技の實習は何ミいふ行き届いたプログラムであらうミ、嬉しくもなる。しかもプロジェクト手技製作に關する多くの材料を得たこは保母の身にまつてこの上もなく幸ひなここである。

第二部は全部遊嬉、相變らず新鮮な果物の豊かな香りを味ふやうな戸倉師の新遊嬉、これ又實際資料を多分に與へられたこを感謝する。

會場ステージで、約三十名の幼児(女高師附屬幼稚園兒)が戸倉師指導のこに遊戯實演をした。

一、タンボホ



一、私のまね

一、かたつむり

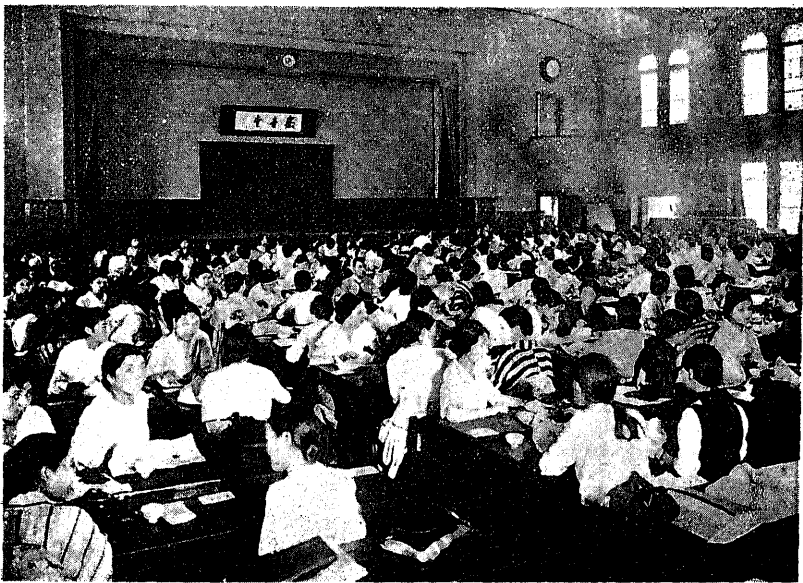
一、自由表現（蝶に花、種蒔、小鳥、象、あひる、飛行機、犬、蛙、兎、鶴、等）

一、今年のぼたん

一、競争（兎の競争、亀の競争）

何故斯ういふ事をしたかについては、倉橋主事が特に説明せられたのであるが、要するに、幼稚園遊嬉は幼児の演出すべきものである。今回戸倉師發表の新唱歌遊戯及び新團體遊戯を幼児は如何に演出するかを、講習員各位に見ていただいたわけである。もこより巧さを標準にして幼児を選んだわけでは無いから、演技に於てはまここに平々淡淡としたものであつたが、そこにこそ却つて、まここの意を得られたのであつた。

終りに一ここ茶話會について、二十五日午後幼児遊嬉演出につゞいて、招待懇親茶話會を催した。倉橋講師の挨拶につゞいて、京都の大塚喜一氏、名古屋の沼波馥氏は今夏講習會開催について非常な讃辭を呈せられた。遠くは天津、撫



順から、會するもの四百十數人、殆んぎ日本全國からの人がこの一堂に集つたのである。中村屋のロシヤ菓子にねぼけ堂の鹽せんべいは誠にさゝやかなものであるが、友達方より來る、亦樂しからずやの思ひは何れもが持つ同じ心境である。

この寫眞はその和氣霽々たる光景である。

二十六日正午講習會終了。

餘 錄

○酷暑の折柄よく皆様お出かけ下さいました。講習會が思ひの外盛んで、ほんとに嬉しうございます、と云へばまるで責任と感謝と安心を私一人が背負ひ込んでゐるやうですが、世話係り一同に代つてお禮を申上げる次第でございます。あれ位の講習會をするのは何でもありませんと、涼しい顔をしたのですがさうも參らず、然し相ついでの入會申込にはづみが出て、愉快にこの會を終ることが出來たのは、ほんとうに嬉しうございました。

奈落の底で働くのはしれたもの、興行主、兼俳優、兼舞臺

監督兼々の倉橋及川兩講師の勞を思へば何でもありません。

○内輪ばなしをすれば、戸倉さんの遊戲、例年とは違つて、講習のために度々の御相談があり、私共も腹藏なく云ひたい事を云ひました。つまり専門家と實際家(いさゝか氣おくれ)が折衝に折衝を重ねた結果でございます。何しろ體操教官室と幼稚園とは、はるか距てた果とはて、暑い盛りをあの戸倉さんが度々出かけて下さつた事を思つて下さいまし。

又幼児の實演遊戲に何をしようといふ事は、あいにくいろいろの差支へで主事に見て頂く折がなく、時迫つてから下見をお願ひしました。プログラム決定については、日頃いともお優しき主事、なか／＼ウンと承諾して下さいませぬ、いささかブンとなつて、

——先生がおわるいんでございますよ、もつと早く見て下さりやいゝのに。

——どうも誠に相すみません、私が悪いんぢやない、この口が(先生口邊のお障りにて一月程お休み)がいけなかつた、申しわけにございませぬ、ペーパーナイフで切腹せんと、こんなこともありませぬ。

○京都の大塚喜一さん、いの一に申込んだのに、受付番號四番になつて残念、いかにも自分より先に申込むなんて不都合

ぬました。おすしは手づかみがおいしいさうです。鯉の時には左手練習の結果すぬ分上手に食べられたやうです。

(八年八月、新庄記)

の様な口ぶり、所がいざ座に落ついて見れば何のその、演壇との角度がまさに一等席、憧れの師には近く麗容にも接し得るといふわけ、會費は拾圓でもよござんすと云つたのは私達です。この入第二日に三十分遅刻、天つちのよし倒まになるうとも大塚さんが、保育真諦講義に遅れるなど、は、たゞ事でないと譯を聞いて見ました。ツボン、クリーニングの御用を承つた洗濯やさんが三十分遅く持参したそいで。京都の洗濯やさんはきつとお間に合せしたでせうに。どうもお氣の毒しました。

○茶話會席上沼波さんの御挨拶ぶり、その辯論の巧みにして何と朗たきことよ。どうです、女性だつて、こんなに上手な人があるんですと一寸倉橋講師に氣解を上げて見たくなりました、日本の中京、名古屋に保育の中堅、沼波女史のあることを誇りといひませう。

○講習について世話係り少々手不足を感じ、精華におうつりの徳久さんにもすけて貰へば、お休みだつた菊池さんにも出てもらうと云つたわけでした。つまり猫の手でも借りたいといふ有様、ところが猫の菊池さん、出た日からヒョウソウとやらの指の病氣、達者なのは口ばかり、ですからお辨當の時氣の毒がるの何のつて、おちぎばかりしてはむじや、たべて

嚴谷小波氏逝く

吾が國童話界の創始者 嚴谷小波先生は、九月五日午前八時二十四分、遂に永眠遊ばされた。享年六十四。

先生は、童話家としてのみでなく、俳人として又文學者としても大家でいらせられたのでありました。今先生を失ひました事、寔に痛惜に堪えない次第でございます。

講習會に於ける質疑應答

速記

應答者 倉橋惣三

これから所謂自由質疑を始めますが、第一に出て居りますのが名簿番號の四番の大塚さん、御説明を願ひます。

(四番、大塚喜一氏)

質問 保母が日々の保育を實行して行きます上に遵守すべき格言もいふべきものを啓示せられたし。(五ヶ條以内)

説明 保母が日々の保育を實行して行きます上に、これだけの事を守つてゐるさへすれば向上純化して行く事が出来るまいふ様な、實際の根本になります格言。ミカ座右の銘。ミカ(この)の用語が實に困難なのであります(が)いふものを擧げて頂きたい。「子供から學べ」ミカ「日々感謝の心を以て生活すべし」ミカ云ふことは今迄教へられてゐましたが、實

際さうなれないのがお互の悩みなので御座いますから、もつと具體的のはつきりした、さう云へばさうするより他に仕方がないもの、例へば「幼稚園に早く来るべし」ミカ「保育日記を毎日記すべし」ミカ云ふ様な風の項目即ちさう云ふ風にして行けばさんな人でも自然に實行上から純化向上する様になるさういふ風なものを擧げて頂きますれば、我々の今後の實行上重要な根本的な指針を得られるであらうと思ひます。保育の眞諦は一つの實行能力であらうと思ひますので、それを我々が自ら涵養して行きます上の據りどころを求める氣持でこの問題を提出したのであります。(應答者) 之は所謂實際問題の一つで、他の問題と違つて居るので却々難しい事ではありますが……

如何で御座いませうか。皆様の中で幼稚園に毎日お出でになりまして何か呪文の様に合唱へになります文句でもありませうか。或は机の側に書いてお置きになり、其れ丈は心得まする云ふ事をお持ちになつて居る方がありませうか。

色々おありでありませうと思ふのですが私、之を（紙を示す）よく拜見して居りませぬので、突差の事で甚だ用意のない御返事をする譯であります。……まあ一日の事を言つたら大變ですから、朝、来た時にきつする、さでも云ふ事でお許し願ひませうか。

私は斯ふ思ひます。朝、保姆の方が幼稚園にいらつしやいましたら、鏡の前にお立ちになりましたお化粧をお直しになります事。一つゆつくりお化粧をなさる。皆様おきれいな所へ、其上お塗りになる必要はないので、汗が出て居る、髪が散らかつて居るのを調べる、幼稚園の入口の側に化粧室云ふものがありまして、其處でそれをしてから保育室、職員室に這入る云ふ様な仕組があれば申し分ないと思ひます。

それから自分のお席にお著きになりましたならば其處で一つ何でも宜しいから——私、義太夫が好きでよく聞きます。あの文樂位の太夫の場合に、これから義太夫を始めると云ふ時にお辭儀をしますが、きちんと見臺の前に座つて、大きな本を開ける前に何だか本を差上げて言ひます。

何を云つて居るのか知りませぬが、土佐等の様な太夫になつて来る云々眞實にやる。一度聞いて見ようと思ひ乍らまだ知りませぬが——何の仕事でも、あゝ云ふ事を一つやる可きではないかと思ふ。お席にお著きになりましたならば、キリスト教の方は耶蘇にお願になりますし佛教の方は阿彌陀様、何もない方はお茶の神様にでもする。其所で所謂、その日云ふものを慌しくなく始めて行く、之は必要な事ではないかと思ふ。幼児の方にはそんな事はさせ度くありません。幼児の方はすうつこ来てすうつこ行かし度いと思ひます。けれども先生の方はすうつこ来てすうつこ行くのでは私はいかんと思ふ。先生の方はきちんとして頂き度い。さうする爲には自ら早く来る可きかも知れませぬ。何も馳けくらはないが、自分が慌しくなく幼稚園の一日を

始めて行く爲に、其れ丈の餘裕を持つて、來ざるを得なくなると思ふ。まあ心の落著きです。

それから中へ這入つてからの暫くの間の事としては、一齊に何う云ふ事はありませぬが、暫くの間は、一應は自分の組の子供全體に、何の子も一人残らず一寸言葉をかけたと思ひますね、皆集めてお話ししようと思つれば一氣に出來ますが、私の言ふのはさうではない。何處に誰が居るか分らないが、其處に行つて一人一人へ言葉を交し度。ここによるこ一日の中に、一度も言葉を交さざる子供が出來ないとも限りませぬ。さう云ふ子供は何時でもそんな目に遭つて居ないとも限りますまい。此方から兎に角一應、彼等の自由の遊び、生活をして居る處に行つてさうしてやるのがいゝと思ふ。

まあ五箇條以内にしてありますからこれでお許し願ひます。

(四番、大塚喜一氏)有難う御座います。

その次の問題は九十七番。

(九十七番、埴生操氏) 私の方は地方で御座いますから

都會の様では御座いませぬで、早い子供はすつと早く來、遅い子供はすつと遅いので、其間の時間が——朝の、子供にまつて最も清々しい時間を、子供に飽かせない様にするには何うしたらいいか。朝、餘り早く來るこ飽きてしまつて、遅く來る子供との間の時間が長過ぎる爲に、淋しさを感じたり、怠慢が生じて來る様です。働く者も、私一人でやつて居るので手も充分にこぎ兼ねますが、それを何う云ふ風にして行くか云ふ事をお伺ひしたい。

(應答者) 之はごちらの幼稚園にもあると思ひます。けれども何方か云へばそんなにきちんこ皆が一緒にやつて來るのでない云ふ事に味があると思ひますが、事實としては色々な意味に於て困ると思ひます。

何方かの幼稚園で、始業時間より早く來る事に就て嚴禁して居る幼稚園がありますか。例へば八時半とするならば、八時以前に來ても門内に入れない云ふ様な幼稚園はありますか。

此問題は實際問題の方から行きますと、二時間も前に來ましては保母の方がたまりませぬ。託兒所ですと斯う云ふ

事は決して言へないのでありまして、向ふの家庭の都合で何時來られてもいゝ様にして置かなければならぬ。其爲に託兒所では泊り込み云ふ制度をこつて居るのであります

が、普通の幼稚園の場合には、家庭に必ずしもさう云ふ必要がなくて、たゞ子供が早く來たがるか、或は時間觀念がなくて無暗に早く來る云ふ場合があります。之に一々御相手をして居る事は容易ではないと思ふ。ですから大體に於て何ぞか話合ひをしまして、餘り早く來ない様に、云ふ道を取る事は必要と思ふ。何も先生の勞を省く爲ではなく、さうする事に依て、朝の時間も充分に充實しませうし、其お子さんの爲にもその方が宜らうと思ひます。然しまあ先生が普通御出勤になる頃に子供がバラ／＼來て居る云ふ程度でありましたならば之は寧ろ良い保育の出來る時間かとも思ひます。

あまり子供が揃ひ過ぎて、先程來申してまゐりました個から始める云ふ事が出來ない云ふ事もあるのでありますが、バラ／＼に幾人か來たミすれば、或子供は先生のお手傳ひをさせてもいゝし、或は先生のお机の側に置いて、

御用をし乍ら話す事もいゝでせう。所謂人間接觸云ふ意味に於ていゝと思ひます。何なら保育案なんかも割引電車の反對に、割増をお取りになつてもいゝ位と思ふのであります。

只、此問題の一番中心であります、早く來た爲に飽きる、疲れる云ふ事は免かれぬと思ふ。此點はさうも仕様が御座いますまい。若し、何うしてもそれを防がうとするには、早く來た子供は大體の時間迄寢かして置く方法でもあつたらいかと思ひます。若し、自然にさして置いても外部の關係で非常に疲れた云ふのであつたら仕方がない、來る方が悪いと思ふ。親によくお話になり、來ぬ様にするより他仕方がない。けれども、來たから云つて早速色々な事をするから疲れる云ふなら此方が悪いと思ふ。

(百三十八番、野々山きみ氏) 先生からのお話はよく分つて居りますけれども、土地の状況等で、一年保育、二年保育に分けて個々に受持つて居りますけれども、二年保育の子供を一人の保姆がさうつゝ通して受持つのミ、變るのミ何方がいゝもので……ございませうか？

(應答者) 之は極く實際問題で、色々な事がありませう。一年保育の場合には、其間に先生がお變りになる事は例がないと思ひますが、二年保育以上であつて擔任を變へてして居る幼稚園の方は手を擧げて頂き度い。(二十九人)
二年保育でも三年保育でも一人の先生が持ち上る方は：
。(六十七人)

統計にはなりません、ずつつ續いて受持つて居る幼稚園が多い様であります、が貴女の方は？

(百二十八番、野々山きみ氏) 私の方は色々、

(應答者) 理由がありますか。

(百二十八番、野々山きみ氏) 一人で受持つて子供の氣質もよく分つて宜しいが、又その先生の癖がうつる事もあつて云ふので……。

(應答者) 理由はその二つと思ひます。一年毎に變へる云ふ案は、まさか先生が其子供に厭きる云ふ事もなからうし、矢張り其先生の特有なる感化が子供に及び過ぎては何うかご御案じになつて居ると思ふ。

其處で、これも、斯う云ふ問題は原則的問題ではないか

ら、何方になつた所で幼稚園そのものゝ本當の意味に何うして來る云ふのではないので、其意味から何方になつても宜しいと思ひますが、斯う考へられはしますまいか。

幼稚園で一番大事な事は、先生と子供の懇意云ふ事である。之には何うしても、變らずにずつつ續ける方が都合がよくはないかと思ふ。小學校なんかでは……よく中學校なんかでも言ひます。「時々擔任が變つてくれないと睨まれたら睨まれ通しだ」云ふ様に、先入主がついて偏する云ふのですが、幼稚園の方はそんな事はなからうと思ひます。表面の方から言ひまして、敢へて變へる必要もないと思ひます。

それから變へる方の論據として、同じ先生の感化が及び過ぎはしないか云ふのですが之に就て私、二つの問題をこゝに思ひ付くのであります。一つは、其先生の感化が及び過ぎては困るから、一年位で變へて行かう云ふ結論は出されないと思ふ。其先生の感化が、及んで悪いならば、一年位なら宜らう云ふ話はないと思ひます。

それから其次の問題は、先生の感化が幼児に及ぶ云ふ

言葉、之は一寸深刻な問題と思ふ。之はうつかりします
 こ、皆様を失望させると思ひますが、そんなに感化は及び
 ませぬです。感化は何ぞや。その先生の持つて居る人格
 實質が移つて行く事だと思ひますが、其れは幼稚園時代
 は及ばぬと思ひます。之が自己反省期に這入つて來ますこ
 小學校の上級あたりからは可成り影響があると思ふ。

幼稚園に於ては先生の御性質の實質よりも、先生こ子供
 の關係の方が非常に重いのであります。ですから、先生が
 子供に對してやさしいこか、熱心であるこか云ふ様な事は
 非常な力を以て影響を及ぼしますが、先生その方の人格が
 實質的に及ぶこ云ふ事は、そんなに御心配なさらなくても
 いい……こ云ふこおかしな言葉になりますが、遺憾乍ら及
 ばないと思ひます。

そんな事も考慮して、續けた方がいゝではないかと思ひ
 ます。御異論御座いますまいか。續けたら斯う云ふ事があ
 つた。先生がだらしないので、子供もだらしなくなつた。
 先生が癩癩持なので子供も非常に癩癩持になつたこ云ふ様
 に、非常に悪い事が起つた例がありましたら承り度い。

(四番、大塚喜一氏) 實は丁度ここに問題こされる様
 な事情に就きまして、或る園長先生から御相談を受けた事
 であります。唯今倉橋先生が御話しになりました、先生
 こ子供達このふれ合ひに現はるゝ保姆たるにふさはしい性
 情に於て、一人の先生こもう一人の先生との間に非常な相
 違があります場合には、持上りにしますこ、兩方の組の子
 供の間に、先生この親しみこいふ——非常な力を以て影響
 を及ぼすこ今仰せになりましたその大切な點に於て、著し
 い相違從て不公平が生じて來ますので、こいふ場合は、
 時日の一年か二年かこいふ長さよりも、むしろ保育本質の
 方を重んじますならむしろ擔任を變へた方が本旨が徹底す
 るのではないかと思ふのであります。

(應答者) 私はそんな場合に思ひ至りませぬでしたが、
 保姆——教育者こ雖も其人格が完全無缺こ云ふ事は要求出
 來ないこ思ひます。けれども子供との觸れ合ひに就ては之
 は、教育者である限りに於てはいつばいの要求をすべきで
 「あなた明日から完全な人格におなりなさい」こ言つても無
 理な話であります。教育者こ云ふ事は、この子供との觸

れ合ひさいふころを除いては教育者の存在の意義がないのですからそれを本則としてあゝ云ふ風に考へて見たが、乍併事實上に於て今の様な事も考へられよう。例へば、此組の先生はお休みが多いから他の組の先生が行つたと同じで、缺席先生も、存在してゐながら子供も觸れ合はない先生は、従姉同志の様なもので、さう云ふ場合には仕方なく取り換へなければならぬ事がある。たゞそれを此方へやる。それを地ならしの言ひます。

私が良い方の組の親でありますならば、さう云ふ意味で變へられるならば抗議を申込み度い。けれども今の大家さんのお話の様な場合にして、校長さんも實に苦しいやりにくりまして、其位の融通性があるものも考へ度いと思ひます。

(百六十三番、中村之圭子氏) 四大節に記念日を何う云ふ風に取り扱ふか云ふ事を伺ひ度い。其日が式であつても何時もやつて居る遊びの中に、其日の意味だけを與へたら宜しう御座いますか。それとも儀式は儀式として分らなくとも勅語を模寫した様なものを讀んで、嚴かな氣分を味は

せるのがいゝか……。

(應答者) 之は屢々色々なところでお考へになつて居る問題で、所謂四大節の儀式を幼稚園に於て如何なる形で行ふべきか、云ふ事になりませう。

教育の法令による「幼稚園は儀式を守る可し」云ふ事は書いてない。幼稚園で四大節は全然お休みになりましたも、法令から言つて反則にはならない。之を何う云ふ形にすべきか。之は色々あると思ひます。例へば附屬の幼稚園でありますか、單獨の幼稚園でありますか云ふ事で變つて参りますし、例へば折角今日學校の方で御眞影を掲げて勅語を校長が奉讀されて居る。難しい式が同じ仲間にあります時に、幼稚園なるが故にそれとは全然離れた事をする。幼稚園は別扱ひをしなければならぬが之も考へ方であります。或は又幼稚園が獨立である場合に、之を何う云ふ儀式に調へるか云ふ事も問題であります。これは何うも、所謂、形に就て、きちんと一定する様な意味で定める事は只今の所では却々難しい。その四大節を、國民として祝す云ふ事は、何んな形を取らないうに拘らず必要であ

ります。四大節に無關係である云ふ事は保母にもないし家庭にもない。幼稚園にしても、嚴肅な氣持を持つて居るのですから、その氣持を幼児に何う云ふ風に表はして行くか云ふ事は、其各園の常識で色々お考へになりましたならばいゝのじやないか私に思つて居ります。

假に幼稚園で四大節の式を全然しませぬ事がありましたも、この心に於きまして一ぱいなものがあり、ごつかで滿される事が確實に分つて居りますれば、しない事もあり得るかも知れない。

例へば——之は、斯う云ふ問題も私個人としてお話が出来るから試みますので、全然私の個人的な考で申上げて居るのでありますからお含み願ひますが——お正月も四大節に這入りますか。

(百六十三番、中村之圭子氏) 這入つて居ります。

(應答者) 私の考では、日本の家庭は四大節を大いに守る可きであり、守つていゝ筈だ云ふ考を持つて居ります。殊にお正月なんかは守られて居ていゝと思ふ。残念な事に、我國の家庭が、天長節紀元節其他の事に就きました

(私の個人論であります)が不充分である。先達も或會で、國民生活訓練の問題を定めました時に、私は、日本の家庭が、こんな愛國的な國家主義の家庭が、四大節の家庭的守り方に就てルーズである云ふ事が缺點と思つて、之れを入れて貰ひました。家庭で四大節に旗を立てゝ居る家は随分少ないのであります。又旗丈は氣が付いて夕方出して明日の朝迄置く云ふ處もありませうが、赤の御飯一つ炊くのじやなし、鯛でも何でもいゝがお頭つきが付く譯でなし、お父さんが御神酒をあげなくてもいいが、何か多少家庭がさう云ふ事に就て特別な意識を持つて呉れゝば、すつこ此問題は樂になると思ふ。

けれども其所のところは兎に角ごんな家庭でもお正月だけはきちんとして居ります。私の幼稚園で、お正月は子供は参りませぬ。これは幼稚園の方から言つて居るのではなく、家庭の方を尊重するが故にそうして居るのであります。家庭で國民意識が充分這入つて行けばいゝと思ふ。

それから、他の儀式の事に就きましたは、まあ若しも全然何等のお考のない方が、特に何うしよう云ふ事をお考

へになるましたら、餘り極端でない意味に於て、斯う云ふやり方があつたら何うでせうか。小學校の方で儀式がある場合には、勿論その學校の儀式に参加させる。勅語の意味が分る分らない云ふ事は問題ではないと思ふ。勅語の有難さは、勅語の内容の解釋に於て國民精神を指導する事は勿論でありますけれども、陛下自らが勅語を下さつて居る云ふ事自身が、日本の大きな問題であります。

陛下が國民にお遣はしになつて居るもの云ふ事に就て、嚴肅なる奉讀をいじらしく聞いて居ることは結構と思ふ。大きい人ならばその奉讀を拜聽しまして、味ひ、深い感じも喜びもするであらうが、幼児のはそこまで行きませぬ。故に幼児を幼児らしく「今日は楽しい國家のお祭である」と思はせる事は必要と思ふ。

まあ、何う云ふやり方が良い悪い云ふ事もありますまいが、参考案としてはそんなものもあると思ひます。

只今の「幼稚園に於ける四大節の扱ひ方」云ふ問題の外に、二つ問題が出て居りますが、その一つは此處に申上げらる事ではないと思ひますが、も一つのは、保育参考書として恩物の事を書きたい、本があるかどうか云ふお尋ねで

ある。

恩物に關しての本當に委しい本は、日本語で書いた、或は釋された本は見當らないのでありますが、「人の教育」が、あゝ云ふものゝ中に書いてあります、以上に委しく恩物の事を書いてあるのは無い様であります。：：：あなたか恩物の事を委しく書いたものを御覽になりましたでせうか。外國のものには澤山あります。何かありませんか。：：：あなたがありましたら……

兒玉さん、(神戸、頌榮幼稚園)御承知でありませぬですが、恩物の事を委しく書いた本は……。貴女の方で恩物の事を教へになりますのに、何か本をお使ひになりませぬか。

(兒玉コマ子氏) 出來てゐます様に存じますが……。

(應答者) 本はありませぬでせうか。これは是非欲しいと思つて居るのであります。私個人的に云へば、恩物をそのまゝ幼稚園で使ふ事は必要と思つて居りませぬけれども、然し幼稚園研究としては、フレーベルの恩物を研究してみらる事は必要であります。

それから此の御質問は關係ないのですが、フレーベルの研究云ふ問題であります、それに就いて丁度今朝程、

私の手元へこれが(印刷物を示されて)参りましたので、廣告の形になつて相濟みませぬが、御披露します。

フレーベルの著書は、御承知の様に「人の教育」。それから「ムツターウインドコーゼリデー」があります。英語では「マザーブレー」、即ち母の遊びも譯し、又、母ミ子の遊びも云つてゐる本です。その本が、明治初年に日本語に譯されて居ります。明治初年の幼稚園の歌には色々日本で作つたものもありますが、フレーベルの此の本から取つたものも多いので、横本の和本刷で、和語まじりで譯されてゐるものがありますけれども、それもフレーベルの歌を皆譯したのではない。何ミかその完全譯を欲しいと思つて居りました處が、今日この本が出る事になりました。この原本は、御覽になりました方が澤山ありませうが、一つ一つ綺麗な繪が這入つて居つて、その繪の上に歌が這入つてゐる、それを原本通りに鰯刻したのであります。原本は私がドイツで求めて参りましたフレーベルの初版から取りました。この初版は西洋に澤山残つて居りませぬ。東洋には一つしかないと思つて居りますが、それを元にして鰯譯したのでありますから、所謂原本通りのものが出来てゐる

る譯であります。その印刷も色々やかましく注意されまして、大變日本では出来る限り最大の技術を使つたのであります。ですからドイツに近頃賣つて居ります新しい版のよりは、ずつとこの方が原本に近い相當な印刷になつて居ります。色々歌がありますが、その歌が却々譯し難いのであります。昔のドイツ語でありますし、それから子供の歌ふ歌でありますし、餘程難しい。幸にして、我國に於いてドイツ文學に第一流の、茅野蕭々氏が丁寧に譯されて居るのであります。その原本の通りのものを拵へて、その傍へ茅野さんの譯をつけてそれが岩波から出されて居ります。それの日本刷が今日出来たのであります、又私の處へこれを送つて來ましたから皆さんに御披露して——皆さんこそこの本を讀んで下さる人だと思ひますから、岩波の廣告をする積りではないが——フレーベル研究の關係資料が出來した意味で御紹介しておきます。これもこの本を今日の幼稚園の所謂教科書に云ひますか、子供へ使ふ直接の本に云ふ事は、私はどうかと思ひます。けれども、フレーベル研究に云ふ意味からは、是非皆さんの御専門としてお目を通しになる必要がありますし、私としては「人の教育」にこの

本ミぢちらを：…兩方讀む方がいゝのですが：…ぢちらをより多く選ぶべきか云へば、私の考では「人の教育」よりは、今の日本の保姆さん方が讀まれるにはこつちがいゝと思ふ。これを子供に讀ませるのではない。正確に譯してありますが、現代の歌ミは少し内容が違ひます。この中に盛られて居ります子供及び子供を愛撫する心持が、それが淺薄なものじゃ無くて、フレーベルの人生觀の細かい氣轉が、子供の心持を汲んで歌つたもので、貴重な保姆の心持の本になるかと思ふのであります。

丁度恩物の話が此處に出て居りますので御紹介申しておきます。後で御覽下さいまし。

それから新しい問題に這入りますが、

六十七番、千葉の渡部さん。

(六十七番、渡部きよ氏) 子供達は廣くもない庭でも色々な小さい蟲や何かを探つて参ります。殊にこれから九月十月になりますミ、凡ゆるものを取つて参るので、毎日同じものを一つの處にミつて集めて、それが別に残酷な事をするのではないのであります。遊びの工合で殺してしまつ

たりする事を見受けたり致します。そのまゝ眺めておいて宜しいものでありませうか。もう一つは私の知らないものを一ぱい取つて参りまして、子供達で名前を付けてそれを承知しきつて遊んでゐる。私が直してやり度いと思ひますけれども、子供達で付けた名前の方が解り易いやうでありますけれども、さう云ふ時にどんな風な取扱ひをしたらいいでせうか。

(應答者) 渡部さんは今おつしやらないもう一つの問題を出されて居るのですが、それは幼兒の個性調査に關しての問題、これは御同様な難しい大事な問題であらうと思ひますので、今度講習にも淡路君を煩はした譯ですが：…渡部さんもあれによつて一つ考へよう云ふので、御撤回になりました。

もう一つの問題は今のお話になりました問題でございませう。殊に夏から段々秋にかけて一層澤山になるミ思ひますが、蟲取りであります。これに就いて問題を二つ御提出になつてゐる。一つは、その蟲を取つて子供が所謂残酷な事になりがちである。これはどうであらうか云ふ問題。も

う一つは、蟲の名前について、子供が勝手な名前を付けるが、それをどう取扱ふか云ふお話。

その蟲の名前の方は如何でござんしょうか。まあ、學語云ひましても、飛蝗ハツマを取つて来て、飛びはね蟲ハツマ云ふ名付けてゐる時に、ラテン語では何云ふ、なご云ふ必要もないのでありますが、ばつたハツマ云ふ蟲だハツマと教へていゝでせう、これは如何でございませうか……。

(六十七番、渡部きよ氏) 私一寸具體的に申しますが、ばつたハツマ云ふかきりぎりす等はいゝのでありますが、蜻蛉の少し變つた様なもの、私の方でかまきりの子もカマチヨロ云ひますし、ミかけの尻尾の變つた様なものもカマチヨロ云ひます。それも色々なのがありまして、茶色のもあれば瑠璃色に光つて居るのもあり色々變つたのがあります。

(應答者) これは蟲にもあるし、原にもある事でせうが、どうでせう、どの位の程度にやるものでせうか、これは蟲そのものゝ方から云ひますれば、正しい名前がいゝんだらうと思ひます。ですから我々の様なものでなくて動物學のしつかりした見解をもつて居られる方からすれば、さ

うしても一寸言はなければ承知出来まいと思ひます。然し子供の先生云ふ方から見るとすれば、一々訂正しながらばならぬ云ふ程でもないか、さう云ふ考も成り立つが、如何でせう……殊に子供が或ものを妙な名前を付けた時には、これは色々な理由によつて名前を付けるのであらうが、さう云ふ様に深刻な觀察によつて名前を付けてゐると思ふ。そこでその問題を、私はこんなと思ふ。

子供がものゝ本當の名前を不正確に呼びますのは、大きな名前ハツマで小さいものを皆籠めてしまふ不精密さ、それさう云ふ意味でなく、一々の名前に就いて不正確である云ひ得る。色々な蝶々が出て來ませう、私は蝶の名前一つも知りませぬ。もんしろ蝶ハツマ云ふのを小學校で教科書で知つてゐる位であります、多分學問的には色々な名前がある事と思ふ。蝶々云ふ名前ハツマで皆蝶々云つてしまふのは不精密でありますけれども、それを一々幼稚園で、あれはもんしろ、あれはもん黒、あれは何色云つた日には、あれは分らん蝶である云ふ風になつてしまふと思ふ。さう迄委しく云はなくてもいゝと思ふ。これは詰り、それが通

用する程度で宜しくはござんせんかな……。

もう一つは、廣い名前で、全體を含めた云ふ不精密ではなく、こんでもない名前を付けて、カマチヨロもその一つか知りませぬが、これは子供には何か大いに譯がある。恐らくカマチヨロ云は無くちや附かない感じが子供にしてはあると思ふ。小さくてチヨロチヨロしてゐるからカメレオンチヨロ、即ちカマチヨロ名を付けたのでなくとも、

或は先生に迄渾名を付ける子供達があります。名がよければ良い程渾名で呼ぶから、動物にも親しくなつてくる。色色な名を付けるのは、さう捨てたものじやない。その子が小學校に行き、大學に行つた時に、さうもカマチヨロが出て仕方がない云ふ事は無からうと思ひますから、唯先生はその名前に就いては正しくお呼びになる事がいゝと思ひます。人に本名もあるし渾名もある云つた様な事でいゝと思ひます。

それからこれは簡単な話ですが、所謂残忍の問題。

これは道徳上の問題であり、或は刑事上の問題にもなるのであります。これは屢々出る問題で、皆さんも困つてゐ

る問題であります。殊にいこも優しき保母の方々は、蟲の扱ひ方の亂暴な子を見るに堪えないのであります。そこでこの問題は屢々出るんですが、さうでござんしよう、一寸反問しますが、若し子供が蟲を集めてきた、自ら残忍になる、それはいかんじしたらさうでございますか……。

(六十七番、渡部きよ氏) なたかいかぬ云仰云いませう。

(應答者) 子供が蟲を取つて歸つておゝ可愛い〜こ撫でゝゐる中蝶々の粉がされたりする事がある。

(六十七番、渡部きよ氏) 私は残忍さみたくないと思ふのであります。それは大人の残忍さは違ふと思ひます。子供が蟲を持つて殺してしまつた時に、それは残忍さみたくないでございませう。子供が幼稚園に行くに蟲を皆殺してしまふ云ふお話を聞きますと、私も返答に困りますが、私は子供の残忍性さ大人とは違ふやうな氣がしますが……。(應答者) それはさうでせうね。随分世の中には愛情まで残忍になる云ふ事があるんでせうから、變態的でなくともあるね。

子供がその蟲に向つて興味強いものが集中して来る、恐らくあの小さいものが、大きい人間に取扱はれる時には多分残忍になります。それで大抵の事は宜しいじやございませう。往來を歩いて居りましても、草の綺麗な花があつて、むしり取つた。これは公德心に關係しますが、

これは確かに悪い。けれどもしかし綺麗な花が咲いて居つて、それを氣が付きもしない程、無頓著に通り過ぎるよりは何倍かいゝと思ふ。花の方でも一番いゝのは大いに氣が附いてくれて、むしらないで一々水を持ってきてくれたりするの、一番いゝでせう。その次にいゝ事は、むしられても關心をもつてもらふ方がいゝと思ふのですが……。蟲を取つて来る、自ら残忍の様な事に結果はなるか知れませぬが、大抵はいゝんじや無いでせうか。取つて来て、可愛さの餘り籠へ入れておいて、うつちやらかして置いたので、朝みるに死んでしまつてゐる。これは子供の責任範圍に這入らないと思ふ。そんな事を云つたら實際も出来ない、私に實際した爲にあの人こんな事になるか云ふならば、もう戸棚の中に這入るより仕方がない。唯さうかするに、子

供でも残忍そのものを興味して、蟲そのものを可愛いので取つて来たんじやなく、残忍性が元になつて働いてゐて、その爲に色んなものを集めて来るに云ふ事になる場合も子供に無いには限りますまい。殊に一度残忍をやつてみて、人間の持つてゐる悪い性質が經驗されます、その興味で行はないには限らない、さう云ふ事は注意する必要があると思ふ。蟲を探しに多勢で出かけますが、何の爲に探しに行くに云つたら、害であるから虐殺の爲であるに云ふならば止めた方がいゝと思ひます。が、可愛いから取つたのであれば、いゝかと思ひます。如何でございませうか、此處はさうも出来たならば是認に云ふ考へ方がいゝかと思ひますが、非常に人道主義の方から云つたら嫌はれるかも知れませぬけれども……。

(六十七番、渡部きよ氏) その始めはそんなに残酷な氣持ではなくて、可愛いと思つて取つて来て色々やつてゐる中に、何處かに潜在興味が出て来て、これから残忍性の様なものが芽生えてゆく様な事の心配はありませぬでせうか。

(應答者) それもありますね、初めは可愛らしいと思つて居る中に、残忍に云ふ事が出来る機會がそれによつて與へられる事があるから、色々有害な事も起りませう。如何でせうか、餘り嚴密に考へなくとも大抵の處で止めておいたら、如何でござんしよう。非常に綿密にしくちやいかんに云ふお説がありましたらそれも承つておかなければならない。

一體子供がやつて居ります事を——、さつきの渡部さんのお話もその意味かと思ひますが——大人の完成道德的の言葉で、そのまゝそこに持つてゆく事に非常に無理がある。残忍なる行爲をしたのが悪いんじやなくて、——一寸難しくなりますが——その人の残忍なる性格が悪いのでありまして、大人の場合に謂も、残忍なる行動をしたのが悪いのではなくて、残忍なる性格が悪いのですから、子供が唯その始めに、ある行動をして蜻蛉をいぢつたら、首がくれたに云ふのは、残忍なる性格ではないでせう。或は抜いてみたお蔭で、あゝ可愛さうだ、に云ふ感じも養はれるだらうと思ひます。色々経験をさした方がいゝと思ひます。これ

は私の方が少し亂暴で、子供に悪い事をさせないでさうつごさせておくやり方もありませう。私は色々な事をさせてくちや／＼になつて、それが青年期の坩堝の中で蒸し碎かれて、それで綺麗になるかならぬかに云ふ事を長い目で見たいと思ふ。無邪氣な人間はそんな事をしていゝと思ふ。概念主義からゆきまして許されませんが、もう一人人間に云ふものを質體的に見て行くに、さうもさうなるのではないかと思ひます。然し私は残酷主義を云つてゐるのじやありませんから、さうか誤解されない様に願ひます。

(四番、大塚喜一氏) 子供が自分達がつけた名で呼んでゐる時には、そういふ名(例へばカマチョ、ロミいふ様な)でなければ云ひ現はせないその蟲の動作なり姿態なりの面白味が表はれてゐるなら、先生も子供と共にさう云ふ名で呼びつゝ、その中に子供が表現し翫味してゐる妙味を味ひ受け入れ、學んで行くさいふ態度が保母としてふさはしいのではないかと思ひます。この「子供の世界の獨特の姿を充分に認めておきながら、しかし保母はやはり正しい名で呼ぶのがよい」おつしやつた先生のお考を御解説願ひたい

思ひます

(應答者) それは斯う云ふ事でせう。子供がカマチヨロならカマチヨロミ呼んで、子供としてはそれでなくてはならない感じがあつて、名前を付けた。これを訂正しないで、先生はそれをカマチヨロミ呼ばないで、普通の正しい名前と呼んだらうでせう、ミ私が申上げた處が、もう一步進んで、子供が折角さう云ふ名前を付けたのだから、その子供が付けた名前を先生も云つてやる方が、本當に子供に先生が觸れてゆく所以ではないかミ斯う仰言る。

これは確かにさう云ふ事も大事なこゝかと思ひます。蟲の名前の外に子供言葉、足をあんよ、犬をワン／＼云つてゐます。その場合に、之をさう取扱はふかミ云ふ事は、これは子供の言葉の問題でありまして、その場合に子供の方付けたのを訂正しないが、先生は子供語で話をするか、正しい言葉で話をするかミ云ふ事は前からある問題であります。子供が子供の言葉を使ふのを聞きまして非常に面白くなり、子供の氣持になつて先生も終にその言葉を一緒に使つていつた方がいい云ふ事で子供ミ親んでゆく事は結

構ミ思ひますが、さうしなければならぬ云ふ事はない。

私は子供の理由があつてした事は訂正しないが、先生は先生ミして理由があつてした事は訂正しないでいゝと思ふ。けれども、向ふが餘り本氣で可愛らしく云つて居る時に、何う云ふ様に子供言葉を使ふべきかミ云ふ原則ではなくて、子供につり込まれて子供言葉を使つてしまつたミ云ふ事はいゝと思ふが、そこまでのゆかない場合には先生は此方の言葉を使ふがいゝと思ふ。

私はよく外國の人ミ會ひまして、この間も或るドイツ語で話をする人ミ會つて、向ふの話をするのを、私何だか分らないが私もドイツ語で言はなければならぬと思つた。處が向ふは日本語がよく解る。向ふはドイツ語で話して、私は日本語で話してお互に解つたから大變よかつた。これはいつもある事で、何も向ふの言葉でなくても返つて通ずる事があります。

一寸これは例が違ひますが、本態はさうでせう、少くもさうする事によつて、向ふの言葉を直さうミする氣持で妥協出来るかもしれない。此方は直すのじやないが正しい言

葉を使つて居る。向ふの勝手な言葉もそのまゝ咎めない。斯う云つた様な處で、今の問題は言葉の使ひ方の研究ですから、子供が如何に觸れるか云ふ問題でなく、子供がさう云ふ言葉を使つた時にさうするか云ふ事が問題であります。此處の問題としてはこの位で妥協した方がいゝかと思ひます。

(七十二番、市川智重子氏) 大人びてゐて同年輩の幼児の遊びを好まず、年上の子供の遊びを眞似して、何を見ても興味の起らぬ園児の取扱ひは如何いたしましたもので御座いますか御教示を御願いたします。

それから一つ、毎年一人位は如何してもお口を開かぬ園児が居ります、其の扱ひ方も御教示いたゞき度うございます。

(應答者) これは両方とも、さなたも屢々御経験になる問題かと思ひます。

一つは年齢相當な仲間友達とは遊べないで、一つ上の子のする事を眞似をする子供であります。さう云ふ問題をお出しになつた方が外にもありますが、この問題はその依つ

て來たる原因も云ふべきものを選択してみるに、色々あると思ひます。

一つはその子供の元來の能力が、興味も云ふよりも元來の機能の發達が、他の子供よりも高い處にあるので、同年配のやつてゐる事では自分の生活を満すことが出来ない云ふ様な事から、さうなるものもありませう。

それからもう一つは、何て云ひませうか、大人の言葉を使つてみれば、立派な言葉になり過ぎますが——批判性格でありまして、その性格の中に、自分の周囲の人をさつさつと溶け込んで樂に行ける性格も、解け込まないで行く性格も二つに分ける。その溶込まない性格の中に、溶けない事を思つて自ら苦しむ、溶けない云ふ爲に一段下に自分を置いてゆくタイプも、溶けない時にはもう一つ上に出てきて、偉そうな言葉で云ひます、高踏的に云ひますか、自分をいつも一段高い處に置き度いタイプも、こんな風に分けられるかと思ひます。その所謂、人易に溶け込める性格の人は批判します、又批判されるが必ずしも強いのではないが、人易に溶け込めないが、何事も離れてみて

居る。離れて見てゐる時に實際やつたら自分もその位の事しか出来ないのであるし、ある人は自分よりは偉い事をしてゐるのであつても、離れて見てゐる、ミ云ふ立場から、自分は批評家の立場に立つて批評してゆく。斯う云ふ性格の爲に、自分と同じ様なものをみますき、いつも高踏的に見る。高踏的に自分を高く置くミ云ふ事は、實力の伴ふ場合は少しは秀れてもゐるが、寧ろ、所謂人ミ溶けるミ云つた様な性格の方が立派な性格の一つである。この意味から見てゆきますミ、寧ろ程度の低い人が高踏的になる事がある。子供の中で皆ミ一緒に這入つてしまつたら自分が駄目な様な氣のする兒がゐる。幼兒に限らず大人の人でもある、人ミ一緒になつたら自分が馬鹿になりはしないか、自分が愚かに感じられやしないかミ云ふ氣が非常にするが、少し秀れた人ならば、この位な事があるミ云ふ處で、自分の値打ちに變りはないが、そこらが心配になるから人ミ混ざらないで一段ミ高い處に居る。

例へば私の親戚にも時々さう云ふのがあります。電車が来る、混んでゐます。さう云ふ時に乗つた方がいゝか、乗

るミ彼等ミ一緒の様な氣がするから一臺遅らせて得意になつてゐるのであります。お祭に行く時に一緒になつたらいいでせうが變に離れる、斯云ふ、人の中に這入つて行かないで、偉さうで實に偉くない性格ミ云ふものは誰にもある。子供にもさう云ふ場合があると思ふ。

そこで所謂、この同年配の者ミ一緒になれないミ云ふのは高い子供であるか、さう云ふ性格から來てゐるのであるか。唯、皆ミ遊べないミ云ふだけならこの問題は起らないが、上の子供の眞似ばかりするから、高踏的な人であるのではないかと思ふ。斯う云ふ子供は、私はさうも、秀れてゐる場合は仕方がありません。同年配の者ミ一緒に暮せない程天才的に秀れてゐる場合には、所謂年齢によつて組を編成してゆくシステムが悪いミ云ふ事になつて來ます。然し大體は仲間同士一緒に遊べない程秀れた子供ミ云ふものが、たんミ居るものでないとして：：斯う云ふ性格ミ云ふものは、能力の問題よりも性格の問題ミしていゝ事じやないかと思ふ。

そこでこれをさうしたら宜らうか。

斯う云ふ様なのは私は、少しきつ過ぎるかも知れませぬ
けれど、私の考では、斯う云ふ性格が一番いけないと思
ふ。誰れにでも一緒になれない、自分を一段高い處に置か
うとする程、偉さうな卑屈云つた様な意味で、卑しい性
格はないと思ふ。それで私はこれを直してやり度いと思
ふ。それには恥をかかす云つては云ひ過ぎますが、自ら
の實力を實驗させまして、——そんなことを子供に云ふの
ではないが——「お前は妙に高蹈じみてゐるけれど、お前
の實力は、年上の者でなければ一緒に居られぬ程偉くは
ない」云ふ事を色々の經驗の間に實力的に經驗させてゆ
く。何も一度やつてすぐ結果が出る云ふ程、きつい事を
しない方がいゝと思ふが……。

斯う云ふ事に就いては幼稚園は御心配になつて居ります
が、親は心配しませぬ。家の子供だけ特別偉いことに考へ
てゐる親が澤山ある。私なんかさ見方が違つてゐる。さう
云ふバックがあつたりするんですから、これは段々直して
やり度いと思ふけれども、さうしても實力そのものが誰が
みても同年配の者と一緒になれない程秀れた子供は、何
かして組を變へてゆくより仕方がありません。

それから口を利かない子供、それを御經驗になりました
方は失禮ですが手を上げて下さい。……

これだけ澤山あります。

おしやべり過ぎる子供を御經驗の方は……兩々相對して
ゐる様であります。これにも色々な原因があります。な
この原因を色々調べて、それに相當した治療をしてゆく必
要が出て來るのでありますけれども、その原因であらうこ
も、口を利き度くなり、或は利かざるを得ない云ふ様な
關係位置に於いてやる事が、解決法ではないかと思ひます。
その口を利かざるを得ない、利き度くなる位置云ふもの
は、多分二つあります。一つはこの子が口を利かないこ
云ふ事を先生の方で忘れるのも一つかと思ひます。我々が
言葉を發して居ります時に——皆様はさうか知りませぬが
——自分が口を利いてゐる事を意識するものはないと思ひ
ます。さう一々、余は今、口を利いてゐる、等意識して
ゐる人は無いと思ふ。心の方が動いてゐるだけで、口を利い
てゐるかさうかは忘れて居ります。何だか變な人さ向ひ合
ひになつた時、手持無沙汰になつて、何か問題をやらうこ
して、「今日は風が吹きます、けれども日が當つて居りま

す「その後は健康で……」何にも意味の無い様な事を次から次へ云はなければ、ばつが合はない云ふ時には、心が動かないから口を利く云ふ事を意識する。黙つてゐるさ、側からものを云へご注意し、元來無口さ氣がついてゐる人は猶更ら、お前は無口だからものを云ふのだよ、云はれて行くさ、話題は何も無い、向ふは喋べる人であっても、向ふの人さ話題はないから口を利かうさ思つて利く。心が働いてゐる時には口を利いてゐる事を意識してゐない云ふ事が云へるかと思ふ。若しさう云ふ事が云へるさすれば、この子は口を利かない子だ云ふ意識を、人が感じてゐる事を感じさせる事はよくない。遊びに来るさ、「貴方は元來口を利かないが、少くも三つは利きなさい」、或は逢ふ度に「さうして口を利かないの……」云ふ、さう云ふ風に餘り先生が口を利け口を利け云ふさ、いよゝ口が利けなくなつて来る。

ですからこの子に心を働かせる様にするより外仕方がない。隣の組の先生がこれに手傳つてあげるさ云つて、二人掛りで口を利かせる。

心を動かすには二つの場合に限られて居りませう。一つ

は必要にせまるか、或は特に必要じやないが、創意が活潑に動いて来るかである。ですからこの子には口を利く必要に遭遇させる事が必要である。もう一つ、必要じやないが、創意が動く云ふ事は、この子に向つて無駄ですけれども話をする、さうして向ふの心を動かしてゆく、中には斯う云ふ子の前に行くさ、黙りこくつてゐる先生があります。さうして口を利かせる事が出来るか考へてばかり居つて話をしない。さう云ふ子供が出て来るさ非常にめいつてしまふ云ふ事になる。それを構はず話をして、必要さ創意で心を動かせるより外仕方がないと思ふ。これに就いていゝ御経験のありました方は一つ……。私はさう云ふ事しか申せませぬが……。

如何でせう。「口を利かなかつた子供に口を利かせた私の體験」なん云ふのがありましたならば、……それを仰言らなければ私の口が利けなくなつて……。大抵色々な御経験を承りますさ、一寸したはずみでゆく様ですが、はずみを待つて居たつて仕方がありませんが……蓄積が思ひがけない時にはずみになつて来るのじやないかと思ふ。

如何にして口を利かさべきか云ふ問題の形式としては

さう私申上げますが、これに就いては充分考慮して口を利かせる様にしてやり度いと思ひます。百パーセント大切な問題だと思ひますが、それを大切に云ふ事を認識した上で、一つ付け加へ度い事は、口を利かない事がその子の爲に不幸な事であり、利かせてやる事が此方の責任に相違ありませぬが、口を利かなくてもその子の心は始終働かしてをりますから、口を利かないから保育の出来ない子だに判決を下して、その子の沈黙の中で成長して来る心の動きを忘れてはすまぬと思ひます。黙つてゐる事だけで「貴方黙つてゐる子だから、ものが云へませぬ、仕事をやらぬ」云ふ様な事は云へない。その間に心が發達して来る様にしなければならぬと思ふ。云ひ換へれば口を利かせるに云ふ事に餘り此方の仕事は片寄り過ぎて、その子の全體の精神の發達を妨げる事はかへつてよくないと思ひます。

二百四十四番、宮田重太郎氏 只今のお話の、口を利かない子供に口を利かせるに云ふ事、大體から云へば、先生のお話もございました通りに、内氣な子供さうでない子供がございます。家庭生活から社會生活、團體生活に這入りかけました時に於て伴ふ事でございます。口を利かない

様な子でないに拘らず、さうも發言をしないに云ふ子供に對しては、保姆の方でよくその子供の家庭を調べる、家庭をお訪ね致しまして、家庭を知ります。さうして自由遊びの時に、一寸その子の側に寄り附くなりして、何さなしに先生の方から「あのお姉ちゃんは……」云ふ様な話を仕掛ける。あら先生は自分の家の事を知つて居らつしやるな、云ふ様な事から、いつの間にか話をする様になる、家庭の事をよく知つておくに、「先生は、自分の生活は、かけ離れていらつしやる方ではない。優しい先生でよく家の事を知つて居られる」云ふ事から親しみが出来、一寸した事からついて参りまして、それがもつて先生に親しんでゆき、口も利く様になつて来る、云ふ様な場合がある様であるに云ふ事を拜見しまして、口を利かない子供の家庭を調べて子供に安心させる、いつの間にか親しむ様に爲す云ふ事が、大變工合のいゝ事じやないかと思ふのであります。

(應答者) 大變いゝお話を承りました。

二百八十一番、山脇清子氏 これは私の幼稚園にございました事ですが、昨年一年間黙つて居りまして、三人の保

姆にかけ、又色々致してみましたけれども、何も仰云いませぬ。幼稚園の門迄来る口を利かない。それで、兎に角一應御家庭の方に伺つて、御様子を拜見するが宜からうご三人で参りまして、約二時間位居りましたが、とてもよくお話をなさいます。そして幼稚園で習つた歌を歌つて居ります。その次の日様子をみるに、やつぱり黙つていらつしやいます。「お唱歌で何がお好きですか」云ふに、「日本男子を弾いてくれ」、云それだけ。それからその唱歌を元にしてやつまぼつ／＼口を利く様になりました。

(應答者) 他にも色々御経験があると思ひますが、今私承つて居りまして、詰りさちらの御経験も容易ならざるお骨折の結果であつて、方法そのもの云ふよりは、その方法をする迄苦勞なさいました。方法云ふ形では見えて来ない陰でのお心違ひが非常な大きなものだらうと思ふ。

それからもう一つは今の兩方のお話を承つて居りまして頭に響く事は、兩方とも口を利かせる云ふ目的で計畫されて居りますけれども、子供に云つては口を利かせようとしてゐるな、云ふ事は感ぜられてない様に見える。自分

の家の話をなさつて、だしぬけにいきなりそれを持つて行つて「これ何、云へるなら云つてみる……」なんて云ふ様に演習式試験をなさつたんじゃない。

一體教育に對しては子供は非常な反感を持ちます事は充分御承知を願ひ度い。貴女方の中で、さう云ふ様に學校に對して反感を持つた事は御體驗があるでせう。教育は悪い事じやないが、教育される云ふ受動の位置に置かれる事は、「お前は知るまいが教へてやる、した事あるまいが、練習してみろ」云ふやうなもので、之が反感を起すものはない。殊に口を利かない子供の中には、さう云ふ様に反感性の強い子供が居ります。殊に先生が親切がましくする程反感が起る。

その次二百四十四番。

二百四十四番、宮田重太郎氏「私がお願ひ致しましたのは、學校教育の初期を眺めて、學校教科目に關する幼児の導きは如何なる態度でなければならぬか云ふ事に就いて色々考へて居りますので、お教へを戴き度いと思ひましてお願いしたのであります。

生活の誘導性の基礎を築きます幼児教育ではありませんが、この幼児は目の前に控へて居ります學校教育の直前でありますので、親を致しまして、その幼児の親は相當な階級の方でもあります、その親は自分の子供の心理状態なり能力の動きに對して、理解はおありの筈でありますのに、そんな方でも親を致しまして親心もございませうが、親の慾もございませうが、自分の子供に何もなく文字を早く讀む事が出来るのをいゝ様に思ひましたり、數の計算もかに對して、親の方で丹念する様な方があります。従つてお互に子供を保育して居りますものは、その點に就きました學校教育に間も無く向ひます子供の事でございませうから、相當これは考慮しなければならぬ事柄を考へます。如何なる程度で進みますか、吾々が保育の眞諦を心得、進んでゆきますのと共に、幼児の親にも、保育は斯う云ふものでございませう云ふ事を解つて戴く、云ふ事を要求するのではございませぬが、さう云ふ事實問題に於て、さう云ふ場合も無いじやないと思ひます。この問題に就きまして、倉橋先生のお示し、又女高師幼稚園に於きまして、小學校との御連絡の御様子をお伺ひします。又、皆様の御意見及

び平素實際の御様子を此際に私はお教へを戴き度い。

(應答者) 小學校幼稚園の連絡云ふ名前で、色々考へられて居ります澤山の問題の中の、重要な一つだと思ひます。一つ色んな御意見を承り度いと思ひますが、如何でございませうか……。小學校の方に御關係の方はいらつしやいませぬですか、百五十五番は御出席でございませうか、小學校の方から、幼稚園の方に、斯う云ふ事に關した意味で何か御要求がありますでせうか。

(百五十五番、村田豊造氏) 唯今の御質問を御様子を承りますと、殊更ら、自分の子供を買被つてゐる様なさう云ふ上から、幼稚園の保育の精神を知らないで、自分の子供がこれほぎに働きます、だから幼稚園ではそれ相當の教育をしてくれる様に、云ふ様な要求に出ます親が有る様な御様子ですけれども、さう云ふ保護者は、小學校にも澤山ございませう。

又私小學校の方に關係致して居りまして、一番困るのは、幼稚園から小學校へ移つて参りますと、どんな關係でございませうか、氣の利いた子供になつて参りますのがございませう。さう云ふ子供は非常に學校の生活に馴れて居りま

す。幼稚園で本當に自由な保育を受けて参りますので非常に氣が利いて居ります。それは結構であるが、何から何まで知り抜いた様な態度で教室の中を飛んで歩きますので、若い女の教師などは手古ずつて居ります。始めは分り過ぎて便利の様でありますが、やがて一學期も経ちますと、始めて學校生活に這入りまして何が何だか分らずに、一生懸命に正直に進んで居ります子供と比べて、幼稚園から來ました氣の利き過ぎた子供は、自分の實力で受け切れない時期になります。それでも矢張知つて居る積りでふわ／＼して居ります爲に、結局は三學期になりますと實際の成績は、幼稚園の保育を受けないで來た者よりも劣つてしまふ。その時期になりましたも、自分が學校へ入りました時、羽を伸して居りました経験から、自分自身では負ける筈はないと考へて居ります爲に、自分の出來ない事に向つて不平を持つ、さう云ふ子供が如何か致しますと云ふと、段々必要な事を覺えないで、教師を困らす、大きく云ひますと云ふと不良性をおびる様になる。

さう云ふ見方から、私共先づ経験家でございませうので色

色の事を聞いて居りますが、唯今の先生のお話に非常に共鳴致したのでございます、私の處にもその保護者は宗教者で自分で稱して居ります。餘程教育の事に就いては自分で理解を持つてゐる、さうしてその子供を幼稚園へ連れて参りましたが、親達の目からみるに非常に早熟な子供であつて、何も彼にも小學校の二年位は知つてゐる、ミ斯う信用して居ります。始めの中はさう云ふ子供だから頼みします。ミ云ふので参りますが、そんな關係でございませうか、私も経験が乏しいからでございませうが、家に居りますと大人の進んだ様な子供でございまして非常に行儀がよかつたのであります。けれども、圖書を描きましても、車の様な玩具を拵へましても、非常に巧い云つて連れて参りましたが、二月三月預つて居りました間に、非常に横暴な子供になつて仕舞つて、實は連れて参りました時は本當に大人の進んだ様な子供になつて、運動場でも外の子供と遊ぶ事も出來ないのろ／＼した子供で、私はあの子供は外の子供にも、よく注意しない、いぢめられるであらうと注意して居つたのであります、或はそこに誤があつたのでございませうか、唯

今では非常に横暴な行儀の悪い子供になりました。實際家庭に歸つても、元よりも落付かない子供になつた。親もつくづく申して居ります。私もそれに對して責任を感じまして、此頃ではちよいと家の行動に就いても聞いて居りません。幼稚園に参りましても注意して居りますが、さうもいくら考へましてもその原因が、なまなかに親が子供の教育について解つてしまつた積りで居られた事が、或はさう云ふ事になつたのではないかと思ふのであります。

さうも幼稚園の方には経験が極く淺うございますので、やりそこないもございませぬが、然しさうかするさう云ふ子供が小學校に這入つた時に、手古ずつてしまひ脱線致しますが、私共の町では保護者の中に斯う云ふのがございます。私の處では幼稚園の保育は一年で澤山ださ考へて居ります。それは幼稚園へやつて居るさ何かも忘れてしまふから、幼稚園の保育は小學校の一年前にお願ひして丁度いふと思ひます、さ申します人が矢張り相當に教育の事を心得た人の中にございます。最も私の町は千葉縣であります、幼稚園を致しましては、キリスト教の幼稚

園が一つございます。そこには子供が三十人位收容されて居るだけでございます。その幼稚園の中の事は存じませぬが、さう云ふものもあります。さうも幼稚園の事は、私は小學校から考へました時には、さうもさうかの關係で擦れた子供に成りがちである、幼稚園を下手に通過するより却つて入れない方がましであるさ云ふ様に考へる。要領を得ないかも知れませぬが、私はそんな様に唯今の處は考へます。(第二百四十四番、宮田重太郎氏) 時間の都合もございませぬが、この問題について私は平常思つて居ります事を述べさせて戴きます。

この幼稚園保育の事が、段々御教示を戴きました保育の眞諦を、お互は必ず忘れない様によく心得まして進まなければならぬのでございますが、私共の保育致しまする誘導生活、社會生活の態度を、子供に適當に與へ、社會の事柄を段々大きくなるにつれて適當に有效に受取るさ云ふ態度、さ申しますさ、人格的態度を申しませぬか、さう云ふ様に保育してゆかなければならぬのに、唯今のお話の中にございしましたが、幼稚園保育を小學校の準備なる如く考へま

す時には、學齡前一ケ年でいゝか、或は二ケ年以上は保育期間が多過ぎるか云ふ、さう云ふ事が出て來るのだと思ひます。

保育はかゝるものである、保育眞諦は斯うである云ふ事が確りいたします、幼稚園保育のタイプがそこに違つてくるのではないかと思ひます。決して小學校教育の準備ではなくて、生活の基礎を築くのでありますから、ミ云ふ風に思ひまして、今日小學校の先生のお考、幼稚園の立場が大變に、小學校からも眞諦を理解して戴かず又幼稚園の側も困つた過渡期ではなからうかと思ひます。私も小學校に居りました時に、一年生の教育にも五六度携つた事もあります、その頃、幼稚園からの子供に就きましたも色々困りました。今幼稚園の事を始めまして、いろ／＼考へさせて戴きました、僅か五六ケ年になるのであります、幼稚園に入園させた方がいゝかさうかミ云ふ事に就きました、小學校の先生方が、麗々、幼稚園を通つた子供は始めはいゝが段々に三年生五年生に進むに従つて成績が落ちてくる、ミ云ふ様に書かれてあるのをよくみます。大

體私は智力能力を比較しての考が間違つてゐると思ひます。その子供の生活態度は如何であらうか、人格的態度は如何であらうか、そこに重きを置くべきでありまして、智力能力を判断しての保育では無からうかと思ひます。學校の科目に關係しました事を教へるのが保育ではありません。

私、幼稚園を經營する様になりましたから、小學校の先生によくお尋ねして斯う云ふ事を聞きます。學習態度を幼稚園で自然に授けておいてくれミ云ふ事を聞きます……。私はさう思ひまして荒つほい子供は荒つほい中に内氣なものを持つてゐます。荒つほい中にも知らず／＼都合よく保育される、先生につり込まれて荒つほい子供が綺麗な觀察を、或はお話を始めます、小學校で云へば學習態度でありませうか、さう云ふ様にこんな荒つほい子供でも教育の眞諦を元にして、眞諦にはずれない態度に於て子供に躰をよくする、この躰につきましては大いに保育者は考へなければならぬと思ひます。自然の中に引ずり込まれる様になつて、無理でも躰が出來る様に考へます。自由にさせておく間にこんな場合はこんな氣持になつてしまふな

あ、云ふのではなしに、自然さうなります様に保育をしてゆくことが必要じやなからうかと思へます。さう云ふ人格的態度をよくしてやる、自然の中に仕向ける、さうして將來は社會生活がよく出来、社會の事をよく受取りまして、社會に關係して役に立つ様な人をつくり度いのであります。

小學校の方から思はれます智力能力の比較によつて判断される事がない様に、我々保育者はその眞諦をよく飲込んで、充分にその態度をこめましてその教育をやつて参りましたならば、段々に小學校からも理解をして戴けると思ひます。その上でその連絡をお願ひし、引張つてもらはなければ幼児保育も都合が悪い、さう云ふ様に色々考へまして皆様の御意見をお願ひする次第でございます。

(第百五十五番、村田豊造氏) 唯今のお話非常に有り難く存じました。先程私が申上げましたのは、勿論幼稚園から小學校へ行く者は皆さうは考へませぬ、特殊な子供に先程申上げた様なものを見るのであります。又智力能力ではございませぬので、本人の性格が關係する様になつた

のでございますので、唯今宮田先生のお考を伺ひまして、私もなまなかに幼稚園の方を引受けたんではない。先日來先生から伺ひました事で又非常に考へ直して居りますのでございます。實は先程申上げた様な特別な子供の居りました場合にはさう致します事が比較的一番いゝことになるか云ふ事を伺ひ致した次第でございます。

(第百二十八番、篠田加津子氏) 私、千葉縣でございまして、千葉縣の方から御意見が出ましたので一寸申上げます。幼稚園から來た子供が小學校で段々成績がおこる云ふ事を度々聞きまして、そんな事はある筈がないと思つて色々考へまして、それは子供が幼稚園に來た云ふ増長心があるのじやないかと思ひ當りましたので、幼稚園から來ました子供は自分の氣持を何處までも出してゆき、家庭から小學校に來ました子供は、小學校云ふ處をちつとも知りませぬ爲に、そんな事から始終幼稚園から行つた子供家庭から行つた子供と違ふと思ひます。さうして幼稚園から参りました子供は何でも自分の思ひ通りに致しますから、小學校に於て先生も丁寧に致しまして、終に益々その

子達を増長させるのではないか、そんな事もあり得ないかと思ひまして、私小學校へ子供が参ります前から、幼稚園に居たからつて決して偉いんじゃない云ふ事を納得させる様に致しますし、又小學校に参ります前に、増長する事はよくない事だ云ひ含めて、増長すれば必ず先へ行つて成績が下るに決つてゐる、自分の力を何處までも進めてゆかなければならぬ云ひ含めて小學校に送る様にして居ります。幼稚園と小學校と密接に連絡して、小學校の先生に幼稚園の事を解つて戴いて、又幼稚園の方からも度々自分の教へた子供は今さんなにしてゐるか云ふ事を尋ねに行つたらそんな事はない筈だと思ひます。

(應答者) 皆様園長さんや校長さん、それ〴〵の方からお話を伺つて、その間に靜かに考へさせて戴かう云ふ、するい方法を取つたのであります。この問題は今お話の間に自ら、幼稚園と小學校の連絡問題云ふ、間口の廣い問題になつてゐるを拜聴しますが、二百四十四番としてこの問題を私は斯う云ふ様に解釋する。

學校教科目に關して幼稚園の方で、その子供が小學校に

行く事を考へてさう導くか、所謂、教科目に關しての問題でありまして餘り問題が廣くなります、問題を分けて考へなければつきりしなくなると思ひますが、極く實際論としてさうでござんしょうか、その子が小學校へ行くであらう云ふ事に就いては明なのでありますから、小學校へ行きまして害のない様に、小學校へ行つて心得違ひの起らぬ様に、もつと進んではその子が行くであらう小學校に成る可く適應させる様に、幼稚園の方で讓步致すのではございませんまいか。家庭の親は家庭教育方針がさうであらうに拘らず、我子の行く小學校の成績を眺めましては、それに適應させる事を、よき意味でも工夫します。そこで幼稚園では斯うだ、小學校では斯うだ云ひ合つて居りました處で仲々難しいであります、又元來何も調合しないものでもないと思ひますが、私は極端に斯う思ひます。この子が今に小學校へ進んでゆく云ふ事を頭の中に持つて、その子を保育して行き度い思ふのでございます。

さいかにも幼稚園を小學校の準備教育の場所、小學校向き幼児を拵へる、云ふ様にお取りになるかも知れませぬ

が、私の云ふのは寧ろ反對であります。小學校へ行きまして教科目に關する限り、出来るだけ邪魔にならぬ様に云ふ考慮を取り度い。私の經驗では、所謂、教科目の内容に就きまして、幼稚園が小學校で習ふものをそのまゝ先へやりがちなのは唱歌だも考へます。唱歌の中には小學校の方の科目も云ふものが決つて居りまして、例へば斯う云ふ歌は何年頃教へる、所謂音楽教授法、唱歌教授法の方から色々考へられて居りますが、幼稚園の方は必ずしもさうは取扱つて居らない爲に、餘り考慮しないで、内容的意味に於て取り入れる風が今迄あつたのであります。さう云ふ關係からして、小學校に行つて三年頃に始めて出て來ますものを幼稚園でやつてゐる。それで小學校へ行きましてもう習つてゐるこ子供が感じたり、或は嚴密な指導を受けて居りません爲に、小學校教育法には困るも云ふ事を云つてゐる。

あの「春が來た」も云ふ歌は小學校で一年では教へませぬが、幼稚園ではやつて居ります。斯う云ふ様な事で、その關係は多少、唱歌では問題が内容的に起つて來ると思ひますが、外の方ではまさか、小學校らしい形で學校教科目に

相當するものを、教科目らしい形で幼稚園でやる事はなからうと思ひますが、寧ろ私の中ずのは消極的だから、出来るだけ小學校でやる事は幼稚園ではその形ではやらない方がよくはないかと思ひます。

例へば今度、小學校の國定教科書の第一版が色刷でよく出來ました。さうするもそれが日本の小學生の數だけ用意しましたけれど、すぐに無くなりました。後で追加しなければならなかつたのでありますが、その原因は小學校一年生でない子供に、家庭が買つてやつたのであります。

その親の氣持は色々でありませうが、ここによりましたならば、幼稚園へ行つて居ります子供でも、小學校の本を先きに讀むも云ふ事が、既にあつたのじやないかと思ひます。これは家庭の子供であります。幼稚園では出來るだけ、讀本にあります様な事はさけて、あゝ云ふ經驗を出来るだけ小學校で始めてぶつつかる様に心掛けてやり度い。幼稚園からゆきました子供が小學校へ行きますも、習つて來たも云ふ事から損をするであらうが、これは小學校の先生が悪いのか、幼稚園の先生が悪いのか、私には全然

分りませぬ。私には小學校も無く幼稚園もなく、只その先生があるだけでありますから、幼稚園、小學校連絡が既に概念的で、それが理論的に立ちました處で、その小學校の先生が如何やつて居られるか、幼稚園の先生がどうやつて居られるか云ふ概念的連絡を付けた處で、本當の事は徹底しない様に思ひます。さう云ふ譯ですから、消極的にこの問題を考へておき度いと思ひます。色々これについて問題が澤山出て來るこゝと思ひますが、先づこゝいふ風に御考を願つて置き度いと思ひます。

もう時間が餘りありませんので、問題に依りまして一々御説明を煩はさないで、私の方からお話申上げます。

九十六番の奈良さんから斯う云ふ性質の問題が出て居ります。實例に基いた實際問題であります。或、我儘な子供がありまして、何うも従順しくして居ない。所が其幼稚園にお客さんがありまして、皆に従順しくして貰ひ度い事があつた。そこで子供に先生の方からお約束になりました。「明日は従順しくして居ませう」と云ふお話であつたが、其我儘な子は大事な場所柄を辨へず騒いだ。するに其側に居

りました他の子供が、その騒いだ子供を打つた。そこで打たれた子供が泣き出した。保姆の方はその打つた子供の氣持がよく分つて居るのでその方は叱らないで、打たれた方の子供を諭した。斯う云ふ事件が起つた。

之に對して、何しろ友達を打つて泣かしたのでありますし、打つた云ふ事もよくないでせうし、況んや泣かした爲に其場もゴタ／＼になりましたらうし二様の考が起つて來た。

其場では打つた方の子供を訂正するのが保姆の役目ではあるまいか。所がこの保姆はその反對をした。斯う云ふ時、何う云ふものだらうか云ふ。

之は奈良さん御自身直接御關係の問題でなく、たゞさう云ふ事をお聞きになつてお考へになつて居る所から出た問題であります。よく幼稚園にある事だと思ふ。此問題の、保育問題としての本當の中心の意味云ふものは、この打つた方の子供の心持云ふものが、何う云ふ風に解釋せられる可きか云ふ事にある。此問題の御提出の大體の調子で言ひますと、打つた方の子供をよく解釋して居る。

其子の氣持が良く分つたから其子は叱らない云ふのであります。

よく解釋して此子は所謂幼兒期に可成り純真に起つて來る正義心云言ひますか、正義……即ち正しい事を何所迄も正しくやつて行く云ふ様な意味から、此子が斯う云ふ事をやつたのであります。あの幼稚園の子供に、相當に正義の感情が強い云ふ事は認められると思ふ。そうしてその強い正義の感情は何方か云へば、育て、行く事が出来ると思ふ。

然し悪い解釋からしますならば、相當に人間にあるお世話、つかい性、お世話焼云言ひますか……自分の問題を自ら處理する云ふよりも、寧ろ他の人の方が餘計氣にかゝるお世話、つかいがあります。之は形から言へば、悪を悪として人の事迄するから良い事に相違ないが、突込んで見れば、本當の感情よりも、人の事を世話焼く事を興味としてやつて居る云すれば相當お世話、つかいである。ですから此子が本當に正義の感止むなくしてやつたのか、一體此子は、お世話、つかいなのであるか——よく幼稚園の子供を集めて居る、自分の事は一つもしないで、他人の世話を焼いて居る自發的

警視總監云ふものがある——さう云ふ事なのか。

之は何うでも解釋出来ると思ふ。この處置が良い悪い云ふ事よりも、さう云ふ解釋が出来る云ふ事において置きませぬ、それを良い悪い云ふ事を決定する事は難しい。其所でその正義心云ふよく解釋した場合、お世話、つかいのちよこまかしの望ましくない方、二つに分けますが、實際に於て吾々の取るべき態度はその正義の方から起つたにしても、人の事は餘り多く侵さない云つた様な事も大事な事であつて、それで鹽梅されて行くのが大人の場合ならば適當な處置と思ふ。けれども子供ですからそんな理想的な事は言へませぬが、大人であるならば人の事は出来る丈餘計な事をしない方が作法である。況んや斯う云ふ場所、其子が騒いだから云つて他の子供が「あの子が騒いで困る」云思つちや居るでせうけれども、敢へて自ら出しや張つて行かない子供もあると思ふ。この感情が少し此子に缺けて居る云するならば、そこは實際問題としてせいく矯正して行く必要があると思ふのであります。この保姆さんが後で園長さんから叱られて居る様であります。園長さんも何う云ふ譯で叱つたか私にもよく分りませ

ぬが、必ずしもこの子供のした事がいゝとも云へないと思ふ。正義の氣持は動いて居る。殊に先生から云へば靜かにして貰ひ度いところへ、此子が先生の意志を體してやつたのだからいゝが、それ許りで簡單に取扱へない點もあるかと思ふのです。斯う云ふ子供の、その心持も多少認められれども、少し抑へて置きませぬと段々その傾向が強くなつて、自分の事はしないで他人の事におせつかいをして、自分云ふものも他人云ふものの領域を越して來る様な傾向がついて來るに反つてよくないと思ふ。

私、ごんく話して來ますが、お氣付きの事がありません。私、ごんく話して來ますが、お氣付きの事がありません。たら仰言つて下さい。

(發言者なし)

十九番の問題は男の子の事ですが、家に居る時には大變に強い子であるが、幼稚園に來るに皆と一緒に遊ぶ勇氣もなく、意氣地なしで恐る々々暮して居る。之を何う云ふ風にしたら宜らうか云ふお話。

これもよくある事であります。この問題に對して斯う云ふ事が考へられると思ふ。家では大層強いのに、幼稚園では

從順しく意氣地なしで小さくなつて居る。斯う云ふ言葉を使つた場合には、其子供の、家と幼稚園との性格の違の表面を表した言葉であります。家では強いのに外では弱い。外では強いのに家では弱い。然し其れは事實の表面を表したたのであります。若し心理的でも言ひませうか。もう少し内面に這入つて此事實を言ひましたならば、家では強いのに、ではなく、家で強いから幼稚園で弱い云ふ場合が寧ろ多いのではないかと思ふ。言ひ換へますならば、家で親達が其子供に或はやさしくして居る、又御機嫌を取つて居る。そこで家で自分をいつばいに出す事の出來る様な弱い條件の中に居るから、幼稚園に來て、對等の友達の中に這入るに自分を一ばいに出す事が出來ない云ふ解釋もつくと思ふ。

よく親が「家では此子は大變に元氣で御座いますが、幼稚園では何故でせうか」云ひます。さうして幼稚園で意氣地なしであるのを辨解すべく「家では威張つて居りますので此子の強いところは家で現はれて居ります」云ふ。斯う云ふ親があるが、教育的心理的に考へますならば、家で威張つて居るから外で意氣地なしだと言へるかと思ひます。

隨て斯う云ふ様な子供に取りましては二つの處置法が考へられると思ふ。一つは、勿論幼稚園に於て何さかして、先生が始終大きい強い方の子供の仲間へ此子を引張つて來て、段々に、さう恐る可きものでない云ふ様な、自ら自分の強さを感じさせる様に色々實際の場合に指導して行く。之は皆さんもなさつて居る事と思ふ。それからもう一つは、幼稚園ではなく、只今申上げた様な意味でありますから、家庭の方から直してかゝらなければ出來難い事と思ふ。家庭の方で若し御機嫌を取つて居るやさしいお祖母さんが居るさか、言ひなり放題にして居る云ふ様な、家庭内に於ける子供の生活の空氣が樂過ぎる様な空氣でありましたならば、何うしたつて幼稚園に來れば幼稚園の空氣は少し感ずるに相違ないのであります。幼稚園の空氣の強さが、吾々子供に與へる訓練の一つでありますから、家庭の方に立入つて相談して見る必要が大いにあると思ふ。家庭教育に對して、幼稚園から色々な事を要求したのであります。幼稚園で繪を書かして居りますから家庭でも繪を書かして下さい、幼稚園では歌を歌はして居るから家庭で

も少し歌はして下さい、斯う云ふ様に幼稚園でやつて居る事を家庭に於て手傳つて呉れる云ふ様な注文は、餘り適當な注文ではないと思ふ。小學校の場合に、小學校の時間では足りないから、家庭で復習を充分して下さい云ふ注文をするが、小學校の場合は問題でないさしまして、さう云ふ意味で、幼稚園云ふものを、その正面から家庭で手傳つて呉れる様に云ふ注文はしたくないと思ふ。

乍併、斯う云ふ問題こそ家庭に注文する問題だと思ふ。「お宅でさう云ふ風にして居ては、幼稚園にいらつしやる普通のお子さんが耐へ得る事が、耐へられない様な事がありませう」云ふて、若し、その家庭が、あまりやさしい軟い軟柔なる空氣でもつて子供に當つて居るのでありますならば、それを直さむ事を勧める、幼稚園で其所のころは却々難しいと思ふのであります。

但し只今申上げたのは純教育的に考へたので、此子の精神心理的な意味で、神經質であるさか、此子のさつかに、意志の上に缺陷があるさか云ふ様な精神心理的な弱點が原因になつて居るならばそれを直すより仕方がない云ふ事に

なりません。

それから十七番は「幼稚園へ来る前に何かしら金を使はないと承知出来ない子供」。

之はまあ、何う云ふのですか。多分家の極く近所に駄菓子屋か何かあると思ふのであります。却々、幼稚園に来る前に時間もないと思ひますが、金が使ひにくい様な環境にあると思ひます。

丁度之と同じ様な問題がもう一つ出て居りますので、つまり、子供の所謂浪費性云ふ様なものに就て親が心配して、幼稚園で何うかしてくれろ云ふ問題と思ふ。

私は、之はさうも家庭教育の領域の問題であつて、幼稚園單獨では何うする云ふ事は却々難しい事と思ひます。

金遣ひ云つた様な事はよくない事だとか、さう云ふ事はしない様に云ふ事を話す程度の事は出来ませうが、實際金を使ひたがる刺戟が側にあつて、其れに打つつかつて行く練習云ふものは、幼稚園の所謂修身云ふものでは出来ませぬから、斯う云ふ事はまあ家庭の問題と思ふのであります。

それからもう一つ同じ十七番の方が出しておいでになる

問題で「夜遅く寝るので朝自然に目が覚め難い。それで幼稚園へ来るのが嫌嫌であるけれども無理に連れて来る」云ふお話。

之は困るのでありますが、此處に書いてありますところは、其家がカフェーださうでありますから……私でもカフェーの家に居たら十一時位迄寝られないと思ひますから之も幼稚園で何うする事も出来ませぬ。幼稚園として、さう此問題を御心配にならなくともいいと思ふ。

それから十八番の方から出て居ります問題に——矢つ張り金遣ひの問題がありますが、之は先程のと同じであります。まして改めてこゝに申し上げることも要るまいと思ひます。

もう一つの問題は、「七歳の男の子が自分では悪い事をしてないが他の子供に勧めては悪い事をさせる」。

之は屢々ある例かと思ひます。自分ではいたづらはしないが、誰かを使つて悪い事をさせる。それから、其子は、友達に先生に賞められたり何かするに側へ行つて其子を見始める。自分に無關係であるけれどもその賞められた子供をいじめめる。先生が其子供に近付いて行かうとするに逃げ

て行つて近付かない。その三つは面白い此子の性格を表す條件が揃つて居ると思ふ。之は何うかした一つの事實がここにあつたのである。

つまり、此子は卑怯な子供なのでありまして、——所謂卑怯云ふ言葉が當るだらうと思ふ。自分で悪い事をするには相當に勇氣が要ります。それを自分ではしないで咬かしてやつたならば、罰が自分には來ない。そこで消極的に自分云ふものを守つて居る。友達があめられた時にそれを嫉妬すると言ひますか……其處へ行つて後からいぢめる、云ふのは、自分が如何に賞められ度いか云ふ事を表はして居る事實であります。先生に近付いて行くを逃げて行く、云ふ事を——先生に近付かれる云ふ事は、自分云ふものを真正面から取扱はれて行く事でありまして——この正面から取扱はれて行く事を避けて居る事である。斯う云ふ卑怯な心理云ふものは勿論倫理修身云ふ方から言へば悪い事でありまして、此子の將來迄斯う云ふ風な卑怯な卑怯な氣持が續くとしたならば、大いに憂慮すべき事と思ふ。然し斯う云ふ卑怯な氣持云ふものは、性格の上から

の問題になるのでありませうが、所謂弱者の心理——此子の特有なる性格として考へれば非常に此子の爲に心配すべき事ではありますが、一體斯う云ふ風な心理云ふものは弱者共通の心理でありまして、丁度幼稚園位の年齢の子供は——私は何時でも斯う云ふ事を思つて居るのであります。

——幼稚園位の子供が若し自分の色々な感情なり意志なり考なりが起つて來る。その性格云ふ自分の生活が適當のバランスが取れて居れば其子供は極く中庸を得た子供になる。自分の感情なり、意志なりの強さ、自分の意識する強さがバランスが取れて居れば強い。若し感情意志智力の働きがずつき強くて、自分の意識する云ふ事がそれよりも弱力で働いて居る場合に於ては、相當に強く此子は生活をして行くのであります。之に反して自分の感情意志智力云ふものよりも、意識の方が働いて居るにしますれば卑怯な子供になつて來るのであります。所謂弱者になつて來るのであります。個人性格として斯う云ふ子供は實に困つた子供であります。

そこで、此子供は本來遺傳的に斯う云ふ性格を持つて居

るミ云ふならばそれだけであるが、さうではなくて、自己意識ミ云ふものが實力以上に働いて居る、それが強過ぎるのだミ斯う云ふ原因で若しあるならば、この子供の斯う云ふ傾向を直すには、其處に觸れて行かなければならない。

即ち自己意識の強く起らぬ様に指導して行くミ云ふのが方法になつて来るミ思ふのであります。この事を私、申しますのは、今私も申しましたし、皆さんも同様にお心付きミ思ひますが、此子は卑怯な嫌な子である。憎む可きミ云ふよりも憐な子供であります。つまり逃げてくく居るのであります。逃げるミは消極的に自己を守つて居るやり方でありまして、そこで嫌な所が出て来るのであります。所が此子供に向つてよく、子供の性格を直すべく「あなたは何故さう云ふ卑怯な事をするか。何故さう云ふ嫌な性質を持つて居るか」ミ云ふ。斯う云ふ風にして之を直して行かうミしますミ、反つて益々此子供は自分を意識する傾向が強くなつて来る。斯う云ふ子供の性質が、自己意識の強さから起つて居るミしたならば、自己意識を強く起さない様にさせるのが解決の秘訣である。之が取扱ひ方の根本では

ないかミ思ふのであります。

さうも人間が性格に向つて訓練を與へ、之を訂正して行かうミ云ふやり方は、多くは其人の自己意識を強く促がして行く傾向の強いものであります。青年なんかの場合には自ら反省する事に依て自ら正して行くからいゝでせうけれども、幼稚園の場合に於てはバランスに依て、色々の問題が起る事を解決して行きますから、出来る丈自己意識の起らない様にして行くのではないかミ思ふ。

次は六十九番の「談話に對する保育上よりの考察及び其適切なる取扱方法」之は？

(六十九番)

談話をどんなに保育上から廣い意味の先生の話に迄及ぼして何う取扱つたらいゝでせうか。

(應答者) さうするミ貴女の問題の御主旨は子供同志のお話合ひですね。

(六十九番、林計恵氏) 狭い意味の談話を、幼児の社會生活に迄及ぼして行く時に、子供ミ先生の話し合ひ、子供同志の話ミ云ふ事に何んな風に押し廣めて取扱つたらいゝで

せうか。

(應答者) 狭い方の意味を言ひます。所謂兒童文學としてのお伽噺、童謡童話を云つた様なものを、保育上どう取扱ふか云ふ事は、之はあまり問題が廣くなると思ひますが、今の話合ひの様な問題、つまり子供に子供、先生に子供の日常の話を、保育へ何う取扱つて行く……何う取扱はなくてもそれで結構ではありませんか？先生に子供は話をする事その事に大きな價值があるから……まあ好きな子供にばかり話しないで萬べんなく話をする云ふ様な事は必要な心がけかも知れませぬ。

(六十九番、林計恵氏) その點幼兒の生活を社會生活まで引入れます時にどんな心構へで談話を云ふものに對したら宜しいでせうか。

(應答者) つまり先生に子供及び子供に子供の話の社會作法の様な訓練を何うするか……。

(六十九番、林計恵氏) 作法ではなく、一般子供の社會生活に子供を入れる第一歩として、實社會の社會教育に幼

兒を導く心持——どんな心構へで子供同志の話を聞いたらいふか……。

(應答者) 段々分つて参りましたか……自分の思ふ事をはつきり人に言ふ云ふ事はまあ、社會生活に這入る大事な點ですね。ですからはつきり分らせる様に、分る様に云はせる様に指導してやる。その反對に人の話をよくきく云ふ事が、社會生活の大事な事ですから、小さい子供に人の話を聞く態度を養ふ云ふ事は社會生活の必要な指導かも知れませぬ。その聞く態度の練習は必要と思ふ。

子供の社交訓練の問題を、話の方に持つて來ました時に、外國では大變に人話をする事の作法上の意味に、重きを置くものですから、そこで外國の幼稚園では頻りに斯う云ふ事を云ふのであります。例へば他人の話が終らない中に口を出してはいかぬ、云ふ事なんかありません。よく、先生に子供が話をして居るに、他の子供が「ウーツ」云つたりする。一寸した此方の話の受け方で、向ふ話の出口を抑へて、おつ被せる様に話して行く云ふ事はよくある。さう云ふ人が大人でもよくあります。大人で二人話

して居りまして「さうですか」云ふの云へるだけ云はせる様に返事をして行く人、何か言ふ、終ひまで言はせないで此方から被せて了ふ人がある。その人の、話を終ひまで聴かないで此方から口を出す云ふ様な事はいけない。

斯う云ふ事は子供にさせない。だから、先生がお話をして居る間、第三者が口を出す云ふ事は非常に八釜しく禁ずる國がある。之は我國なんかでは、我國は一體心持の方を主にして居りますので形の方をあまり主にしない傾向があるけれども、形を主にした方から言へば斯う云ふ事は大事な事かと思ふ。

それから、向ふの人が言ひました話を正しく聴いて、それを其處に一度表はさなければならぬ。之も形の上です。之には二つの事が必要でせう。一つは、その話に相當する返事を一應しなければならぬ。計ひ換れば返事の仕方、返事をするに下手な人があります。もう一寸氣の利いた返事をしたらいゝと思ふのにごんちんかんな返事をする。それからもう一つは、返事はしてもしなくても、第二の場合にしてはその話と全く無關係な話をポツツ持ち出す。之を

外國では子供の家庭教育の作法に大變八釜して言つて居る様であります。向ふが「今日で講習もおしまひで御座いますね」云話して来た時に「暑い事で御座います」云言ふ様な言葉ですね。さうも向ふの話を聴いて居たのか聴いて居ないのか分らない。

つまり向ふの話と無關係な話をする。兩方が無關係な返事をする人許り云話しては面白い場面が連續する。成可く向ふの云つた事と無關係な返事のしつくり、云う様な遊びが出来る。殊に女學生なんかは、「それはそうだけれども私は斯う云ふ事に興味を持つ」云全く相手と連絡なしに行く。之も仲の良い同志では「あなたの云ふ事は返事をしなくてももちやん聴いて居るわよ。けれども私は私」云ふ様に心が通つて居るからいゝけれども……。

社會生活の方に話を持つて行く云ふのはさう云ふ意味でせうか。

(六十九番、林計恵氏) 左様で御座います。

(應答者) 次は三百六十六番の問題。

男の子で、所謂幼稚園に馴れない。一緒に附添つて來ま

す小僧さんにばかりくつついて居て、先生につかない子供がある。無理に附添ひから離さうとすると、怒つたりあべれたり色々なものを投げたり亂暴を働く。

之も、這入りたての子供はみんなそんな風で、恐らく此子供は少しそれが激しいのでありませうが、何うで御座います。打つちやつてお置きになりましたら……別に、離さう離さう云ふ方に努力するよりも、段々何時の間にか、片方が面白くなれば附添ひから離れますから、幼稚園生活を子供の周圍に充實させて行くより他、仕方がないと思ふ。

次は三百三十七番。實例が擧つて居る。要するにぐずぐずして居る子供の取扱ひ方と思ふのでありますが……。

(二百三十七番、留岡よし子氏) それも御座いますが、子供をどうして……聞き取れず)

(應答者) 先生の方から云へば、或る處に集つて來て呉れて、此仕事、其保育へ這入つて貰つて行く必要がある時に、却々集つて來ない。さう云ふ子供を何う云ふ風にして集めたら宜らうか云ふお話。

三百三十七番の御實行の一つとしては、集團生活の形を

借りて來て、例へば汽車が出る、その汽車へはちやんこした時に一緒に乗らなければならぬものである云ふ、集團生活の方から、段々、自分勝手に集まらない云ふ子供を矯正して行く、云ふ御意見が出て居るのであります。

之も色々な場合があると思ひますが、時によりますれば集つて來ないのに、なか／＼その子供として理由がある事があるかも知れませぬ。此方では集め度いから困るけれども、其方の方には理由があるかも知れない。たゞ問題になるのは、所謂、人から云はれる云ふ、直ぐ其れに素直に反應して行く事が出來なくなつて來る慢性的の癖がつく場合がある。別に大した理由はないが、何だかお出で云はれる直ぐ這入つて行く事自身が自分に面白くない。其人は根性が横に回轉して居るのである、さう云ふ、一捻り捻つて見なければ承知が出來ないのは困るのであります、直さなければならぬと思ひますが、御質問に對して、私、妙な事を申上げておしまひにして置き度いと思ふのであります。斯う云ふ場合に先生の方も、集め度い云ふ御都合を専ら主にしていらつしやりはしないかと思ふ。勿論集めるの

ですから理由があるけれども、先生が呼ぶのに来ない、斯う云ふ気分があまり強く働いて居りますよ、リアクティブに逆らつて見る様な興味を起さぬことも限らない。或子供が「来い〜」云ふ事来ない。大人でもさう云ふ事はあるので、碁の好きな人が歸らうと思つて居るころへ使が行くよ。歸らない事がある。先生の方でジリ〜して、此方の氣持だけでやる云ふ事来ないかも知れませぬ。ここによつたら、此方の呼ばう云ふ氣を抑へて「あなた面白いね」云ふの氣持になつてやれば、「先生の方も呼んで居るんだらう」云ふ工合で素直に来るかも知れない。子供だつて此方の出方である。

甚だ失禮な答へ方ですけれども。

(二百二十七番、留岡よし子氏) 幼稚園から来る子供は我儘で困る云ふ。それで團體生活を教へる事は良い事か悪い事か云ふそんな事も……。

(應答者) 之はよく云はれる事で、今日の小學校の上級或はそれ以上の學校すべてきちんきちんした、半ば兵營の様な軍隊の様な集團訓練をして居るから、其れを幼稚園

時代から何う云ふ風にやつて行くか云ふ事は、たしかに問題であります。然し之は、つまり集團生活の訓練をしたい云ふのは目的なのであります。その目的に直接に一々々々の子供を持つて行く事が必ずしも方法ではないのですから、ピリッ吹いたら皆集まる云ふ様な、青年團が何かの様にやつて居れば段々には集まると思ふ、小學校では鐘が鳴れば直ぐ集まる、云ふ様に簡單には行かないかも知れない。一體私は、幼稚園時代は餘り集團的時代ではないと思つて居ります。寧ろ集團云ふ様な事の爲に、自然なのを捻くれない様にしなへすれば其位の程度で宜しいと思ふ。

次は六十五番。幼兒の階級性云ふものを實際保育上何んな風に考へて取扱つたら宜しう御座いますか、云ふ問題。階級性云ふ字が出て來ましたから大變現代性を帶びた問題になつて來るのであります。

(六十五番、須子啓子氏) 階級性云ふのは別に難しい意味でなしに幼兒の社會的な生活……。

(應答者) 之は非常に大事な問題と考へて居るのであります。所謂階級云ふ言葉が當るか何うか知りませぬが：

：世の中に階級云ふものがあるか何うか知りませぬが、俗語として使つて置きまして、子供に階級觀念を持たせる事の問題。

この問題を順序に追つて行きます。第一に、子供に階級觀念を持たせる必要ありや、私は無しと考へます。世の中には階級差別がある、此方で行つて、さう云ふ考を持たせる必要はない。さう云ふ事を持たせる必要があると考へた——例へば侍の家庭なんかでは、始終さう云ふ事を言つて所謂階級意識による自己尊重なご云ふ事を、昔の教育では非常に探つたものでありますが、今日は私はその必要なしと思ひます。出来る丈、幼児には所謂階級云ふ様な感じを起させない様にした方がいゝと思ふ。

階級觀念云ふものは、上の階級を尊ぶご云ふ事、下の階級を馬鹿にするご云ふ事二つある。假に世の中に階級的差別があるを免かれないとしましても、馬鹿にさへしなければ宜しいのであります。つまり今日言ふ階級觀念云ふものは、第二の問題から来るのである。世の中に金持も居ります。貧しき人も居ります。さうで御座いますね、

云ふだけの話。さうして、金持の方は金を澤山持つて居るし貧乏人の方は少ししか金を持つて居ない。金持の方がいゝ着物を着て居るし貧乏人は粗末な着物を着て居る。金持の方が立派な家に居る。貧乏人は小さい家に住んで居る。まあさう云ふものだと思つてしまへばいゝ、だから此方の人は偉い人で此方の人は卑しむ可きだ云ふ様な、階級云ふ事を基礎として、その人を尊敬したり軽んじたりする感じは、現代に於て幼児に持たせる必要がない、云ふ事から進んで持たせたくない云ふ方に、寧ろ行き度いと思ふのであります。

あまり此問題を突込んで行きますと、丁度只今新聞に色々出て居ります事件の時節柄でもありますから、穩當でないかと思ひますが、私は、階級云ふものは世の中にあるとして今日の社會の關係から言ひますれば、例へば階級的に上の人を尊敬する云ふ様な事情も今日の社會では色々あると思ふ。

適當であるか何うか知らないが、小作人をして、地主に對する或敬意を持たせる云ふ様な事は今日に於て——人世

哲學の根本は別として——必要な事もあらうかと思つて見ます。そこで小作人の子供に、地主を馬鹿にしたりしない様な教育をする事も必要としておいて、その必要もないこと云ふならば、反抗させる教育を幼稚園とする——反抗幼稚園と言ひますならば論はないが、矢張り社會秩序を今の儘で考へて行くとして、その目的を持っては持つ程、私は幼稚園時代に於て、理解なくたゞ階級的觀念を持たせない方が却つていゝこと、方法論として申上げます。之はお分り願ひ度いと思ふ。所謂根本論として申して居るのではない。今日、幼稚園なり小學校邊りで、先生の考へ方の不用意なる爲に、或は繪本なりお話に出て來ます不用意な言葉遣ひの爲に、小さい子供の頭の中に不平不満が養はれて居る事が相當ある事は氣を付け度いと思ふ。

その不平不満云ふものがありまして、段々成長して來てひよつこ何かに打つかつた時に、寧ろ反對の結果に出る。小さい時から尊敬する様に育てて行かうと思つて居たが爲に、或事に刺戟を受けること、反つて反逆的な感じが起つて來ること云ふ事もあるじやないかと思ふ。其意味からし

て私は、幼稚園の場合に於きましては、出來る丈階級的な差別、況んや上の階級を尊び下の階級を卑しむこと云ふ事は寧ろ積極的に避け度いと思ふ。

(三百十八番、沼波夔氏) 只今のお話、よく分りましたけれども、幼児同士の間で、先きに立つ子に従はされて行く子がある。さうしてそれを小さい乍らも表はれて居る子供がある。自然、階級云ふ事はつきり分りませぬけれども、幼児同士で階級をつける様な場合があると思ひます。それを、私共はさう云ふ階級云ふ様なものは成可くつけたくないと思ひますけれども便宜上、黙つて見て居る事もある。さう云ふ場合は幼児同士の階級に對する態度は如何したらいいか。お尋ねいたします。

(應答者) 今のお話は實際に即した尤もな問題です。さつき私の申したのは、所謂社會的意味に於ける階級性、六十五番はさう云ふ意味ですね。既成階級。

今のあなたのお話は、子供の中に實力から生じて來る問題、之は同じ階級云ふ字を使ひ得ると思ひますが普通は所謂階級云ふより、リーダーになつて行きますものこと、リ

ードされて行くものがある。幼稚園も一つの社會である以上、階級が出来て来る事と思ふ。それに就て一寸。

私は世の中に所謂既成階級が出来て来たのは當然と思つて居ります。世の中に、金を持つて居る人ミ居ない人がありました時に、金持は皆泥棒で、貧乏人は皆落っこした人ミ云ふならば知りませぬけれども、之も何か實力があつてさうなつて来るのですから、社會に實力が基になつて色々な階級が出来る。之を私は、こゝで申上げなくてもいゝが念の爲申上げます。

私、社會に於ける階級ミ云ふ事に對して絶対に排斥して居る論者ではないのであります。出来た階級が社會内に於て、何う云ふ風に苔が附いて来るかミ云ふ事は別問題でありますけれども、それはまあ此處で言はなくてもいゝ。只私の願ひ度い事は、先きの例のお話でありまして、世の中に地主小作人ミ云ふ色々な階級があるございましたも、之は其人の社會的實力によりまして、さう云ふ事が自ら出来て来た丈であつて、其人の人間人格價值に於ては、何等差別のないものだミ云ふ事にしつかり基礎を置き度い。都合に依つ

たら車に乗る。車夫に車を挽かせる。何も一丁行つたら今度私が挽くミ云ふ事をしなくてもいゝが、又何も上に乗つたからミ云つて前の挽いてる者を卑める譯ではない。人間的意味に於てはちつとも何方を尊しミし、卑しいミする感じがなないミ云ふ事になればいゝではないかと思ふ。角力取があのお土俵に上りまして、「力は均等なるべし」ミ引分けしたならば、面白くも何ミもない。何うしても強い人は弱い人を投げませう。投けても構はないと思ふ。都合ですから、それで人間價値の全部の差別がついて了ふミ云つた様な事さへしななければいゝ。幼児期に於て、そんな處には觸れないで、たゞ誰でも同じミ云ふ氣持で養つて頂き度い。機械的にたゞ物を尊ぶ様な事を幼児にさせない方がいゝと思ふ。それで今の沼波さんのお話の様に、此方の組の者が此方の組の者を、人間的意味に於て輕侮し、侮辱するミ云つた様な事は出来るだけ、しない様に指導し度いと思ふ。實力で階級が出来るのが當然であつて、之を出来ない様に不自然にするミ、其中に反つて不平不満が出来るかも知れない。

學校なんかでも、家庭の低い家の子供ミ云ふものを、知らず識らずの中に、先生が、其所謂人間人格に於て輕侮して居る様な感じが全然ないでもないミ云ふ事を、私は非常に心配して居る。せめて學校ミ云ふ處、幼稚園ミ云ふ處では、階級ミ云ふものを人間價値ミして對等に取扱つて行く感じを一ぱいに漲らし度いと思つて居る。先生を生徒が尊敬するミ云ふのは何も階級問題ではない。所謂階級ミ云ふ事に依つて、人間價値を定めて了ふミ云ふ様な誤を出来る丈避け度いと思ふ。

其次は二百二十四番。

(二百二十四番、吉田孝禪氏) 之は方々の幼稚園に行つて話をした時に、その後になつて子供達が浦島や桃太郎の話に就て「本當にそれはあつたのかい」ミ色々其内容に就て細く質問する。其時に何う云ふ風に答へたらいか。水の中に這入つたら溺れるのではないか。乙姫様が何う云ふ恰好をして居るかミ云ふ様な質問をする。其れに對して何う云ふ様に答へるか。

(應答者) 之もよくある事と思ひます。まあ、明確に言つ

て見ますれば、大人の所謂つくりこみ、が、六歳七歳の子供に於きまして信じられない。そこで「本當か」ミ云ふ様な意味、更に其れを細かに、浦島が龜に乗つて海に這入つて行くが、自分の溺れた經驗なさから思つて「大丈夫かい」、龍宮があるミ云ふけれども本當にあるのかい」ミ云ふ。之は最近にも問題になりました、何新聞でしたか「修身の方では嘘を言つちやいかぬミ書いてあるが、國語の方ではお伽噺に嘘が書いてある。何方がいゝんだい」ミ子供が云つたミ云ふので、色々な議論が數日に亘つて載せてありました。

まあ私は斯う思ふ。一般論に這入りませぬで、極く問題を極限して申しますれば、浦島の話で、浦島太郎が龜に乗つて海に這入つて大丈夫なのかいミ聞きましたら、之は、大丈夫であるミ言つたつて構ひませぬ。イルージョンが覺めたらアブ／＼やつて居るので、たゞその眞實のイルージョンがかゝつて居つた時だけ通つて居たのだから、「そんな事を言ふものじやない。實際大丈夫だ」なんて云ふ事を言つたつて駄目と思ふ。「龍宮つて何處にあるの？」——それは及川先生の水族館手技ミ云ふものをおやりになつて、

早速龍宮が来ると思ひますが……。そこで「そんならばあれは嘘だよ。お前がさう疑ふ迄もなく、さうから嘘だと思つて居たが、何時迄嘘がはけないか待つて居たんだ」等と云ふ必要はない。

私なら斯うまで聞かれたらば、——するく聞へるか知りませぬがするいのではない——「さうだつたさ」言ひ切ります。「それはさうだつたさ」言ひます。私は、自分自身小さい時からあの話を聽いて、今でも浦島が水の中に這入つた様に思ひます。「之は嘘だよ。だが話だからするんだよ」云つた様な氣持ではお話は出来ない。お話は自身自身イールジョンによらなければ出来ない。さうして、浦島太郎が龜に乗つて這入つたからと云つて、誰でも這入れると云ふ譯ではない。そんな事は普遍的原則に於てあり得ない。子供が云ひましても私は、藝術の立場に立つ根據を持ちまして、「這入つたんだと云ふ」で通して了ひます。藝術的強味で浦島太郎のあの事件を是認したからと云つて、物理學の凡ての法則が信じられなくなる。云ふならば之は何處かに無理がある。キリスト教の聖書、或は佛教の

お經をお讀みになる。奇蹟が出て来る。奇蹟を信じたからと云つて「弘法大師がやつて出来たが俺がやつても出来ない」は云へない。「あれはあゝなんださうです」云へばよい。信仰があれば信じられるし信仰がなければ信じられない。「龍宮つて何處にあるか行つた事ないが海の向ふにあるんだと云ふ」この「サ」の強い事！之で宜しくは御座いますまいか。

三百十八番沼波さんの問題。第一は、保育項目の中の遊戯ですが、或種類の遊戯は男の子が嫌ふ。いや／＼乍らして居る。さうしたら、何うしたら宜らうか。

（應答者）之は「幼児教育」六月號に於ける座談會等が關係して居ります。

何うしたら宜らうか云ふ事に此問題の意味があるので、その男の子の好む遊戯をふんだんに提供すれば解決出来るが、其子の場合として、何う取扱つたら宜らうか云ふ事が問題と思ふ。何うで御座います。之は私が断定し難いから皆様の衆議によりませう。

如何にも先生自身も、之は男の子に相應しくないを考へ

る遊戯があつて、それを構はず與へた。所が男の子は嫌がつてしない。其時にも之が保育上是非やらせなければならぬものだきお考へになります方手を擧げて下さい。

(手を擧げる者無し)

(三百十八番、沼波馥氏) さう云ふ意味ではありませぬ。

大部分がして居る中で一人しない云ふ場合もある。其子供を、それではお止しなさい云つて出してしまつては片方は何う思ふか。自分は何時でも嫌云へばしないでもないものと思ひやしないか。他の子供は、「しないでもいゝものか、あの子一人だけ何故許されるか」云ふ事を考へる。

(應答者) 皆が面白がつてやつて居る遊戯、所が或子供が所謂我儘を申しませうか、それを嫌がつたさしましたならば之を何うするか。

之に色々の理由がありはしまいか。その嫌がる理由によりまして多少緩急のころもあると思ふが、今のお尋ねの要件は分つて居る。その、好きだ嫌だ云ふ事にまかせ過ぎる事に依て、其時は相當に理由があつたとしても、其子自身も、嫌なら何時も止す云ふ事になるし、其れが他の子にも移つて行つて訓練上悪くはあるまいか云ふお話。

之は何うも、其場合にも依りますが、訓練上の心配から言ひまして、其子が我儘で、あまり勝手である場合に於ては、此方の言ふ事をさせる爲ではなく、皆がして居るからお前もしなければならぬ、云ふ形の上からでもなく、其子の爲に我儘を通させない様に氣を付ける事が必要と思ふ。其爲には、ここによつたならば、其時は何うしても嫌だと言ひましたならば止させた方が、其子に、此次は本當に這入る機會を與へる場合もありませう。一體訓練の問題は、アフターケアー、後の事情が大事である。或はアフターケアーが強くなつて、四五日経つてから思ひ出して、子供の方では忘れて居る時に騒ぎ出す云ふ事を申して居るのではないが、若し此子がそこで嫌だ々々と言ひましたならば、うんみやさしく出て、さうして嫌な氣持をすつかり汲んで「それでは此方でお休みなさい」云つて、さうしてフランクに皆に「此人は何うしても今日出来ない云ふから我慢して上げませう」言つて、さつさ此方で運んでしまつて、さて後で其子に對して醇々説く。こればかりがアフターケアーではありませぬけれども、アフターケアーを持つて行ける場合もある。

それから、動植物を觀察する場合の破壊性、亂暴性、或は迷惑をかけて困つた場合如何に處理すべきか。

迷惑をかけた云ふのは破壊性亂暴性の爲に他の子供に迷惑をかける……。

(三百十八番、沼波霞氏) 共同生活をして居る時に積木をする。或は遊戯をして居る時にひつくりかへる云ふ様な事がよくあります。そんな場合、却々一年位直らない子供がある。

(應答者) まあ、並はづれた破壊性の子供もありませうが、あまり激しかつたら幼稚園をやめて貰ひます。實際私もやめて貰はうかと思つて相談した事もありました。斯うした時は斯う云ふ理由でおこしわりします。「お宅のお子さんは少し變つていらつしやる。其爲に、さのお子様へも善き友達を提供する責任を持つて居る幼稚園として困ります。さのお子さんへも善き友達を提供する云ふ事を本務とする幼稚園に於て如何にも當惑致す」而もそれは言ひ譯の口開きであります。本當の本音は、吾々の方も、もう一つ偉い保母が揃つて、御子様にかゝり切つて居れるのなら

いゝのですが、何うも唯今のところ、事實、幼稚園云ふものは何う云ふものか知りませぬが、お子さんの方へかゝりきりになつて行くのでは困ります、言つて退學を命ずるのではない。斯う云ふ様にして父兄に話さ恐れ入つて了ふ。あまり激しい例外的場合は仕方ないと思ひます。けれどもさう云ふ事は百人に一人か千人に一人か、あまり滅多に起る事ではないと思ひます。

色々程度がありますが、假にも、兇暴性に對するに兇暴手段を以て當る云ふ事は、うまく行かぬと思ふ。まあ、こゝいふ子供には一つ子供同志ともよく話合ひまして、特別な子供になつて來ましたならば他の子供達も、あの人はいればれ者だ云ふ事を知つて居りませうから、そこで、誰さんはあゝ云ふ人だから、亂暴で困るけれどもやさしくしようじやないか、さ相談しまして、先生は勿論出来るだけやさしく其子を取扱つて行く。それより他仕方ないと思ふ。子供達にその相談をして行く云ふ事は、つまり其子の訓練ではなく、其子に依て壞される共同一致に就て、他の子供に充分諒解させて行く云ふ事で多少緩和しはしないか

思ふ。

まだ少し残つて居りますが大體之で御諒解を得て置きませう。

最後に一言申上げますが四十四番、今日御缺席の様であります、私の今回の講演をお聞き下さいまして、其れに就て問題が出て居ります。之はつまり此處の講義を基とした、此處に起つた問題になりますので、大變興味の深い事と思ひますが、今日御出席になつて居りませぬからお話合ひ出来ませぬ。

(四十四番、坂内ミツ氏) 先生後に來て居ります。一寸遅れましたので……。

(應答者) 之に色々お書きになつて居りますが、誘導保育案を實行して行く場合に於て、保育者が感じて居る程の興味を幼児が持つてくれるに限りません。さう云ふ時に何うしたらいいものか。或は幼児の中の幾人か——半數しか感じてくれない云ふ時には何うしたら宜らうか。興味を感じてくれた子供も、それが全體の友達的生活を引張つて行く程に強く働いてくれればまだいいが、それが出来ない場

合には、やつぱり保育者の方から、計畫へ子供を嵌めて行く事になるのではないか、云ふお話であります。

之は確に實際問題として、此方の與へた誘導保育案が、一々子供の興味を促してうまく行く云ふ事は定つて居ないと思ひます。之は眞に御尤もな問題であります、時間が參りましたから之にお答へする事は他の機會に譲りまして、丁度之が出て居るので、最後の言葉を、結びとして申上げて置き度いと思ひます。

昨日も、茶話會の時に色々お話が出た中に、私の今回のお話の「幼稚園保育真諦」その真諦が、鐘をボーンと鳴らす様な微妙な大層意味深長なものであつたりして、私が鞍馬山からひねつても出した様に尊いものにおこり下さいました事は非常に有難いのでありますが、此事に就て私は二つ、はつきりお断りし度い。

幼稚園保育真諦云ふ言葉は、實はもつと丁寧に書きますならば、幼稚園保育方法の真諦でありまして、保育云ふ事を、保育云ふ或は幼稚園云ふ事の全體に互ひましたの事を申したのであります。所謂方法云ふものもの範圍内に於て、私は、あゝ云ふのが幼稚園として本當なの

ではなからうかご考へましたのであります。

それから二つ、ミ申上げますもう一つは、眞諦であります。眞諦ミ云ふのは、實は私「諦」の字が何う云ふ意味かよく知らないが、若し段々エッセンシャルなミころに問題を考へて持つて行きますミ、大層純粹な眞隨に觸れますが、乍併、其通りの事ミ云ふものは却々出來ませぬ。丁度色々：
：此頃何だか、コーヒーエッセンスミカストロベリーエッセンスミか、色々難しい飲物がありますが、あのエッセンス、あれはそのまゝごにも存在しない。大抵それは水が這入つて居ります。其所で、幼稚園に於て今迄申し上げた様な事が方法のエッセンスだミ私は考へて居りますが、然しあれだけで一切の幼稚園が出来るミ考へて居る譯ではないので、其所には色々ものが混ざつて出来るミ思ふ。色々なものが混ざるミ云ふ事は、反對の方から言ひますならば、例へばエッセンシャルな眞諦に屬する要領が、充分に其中に這入り込んで居ない幼稚園の部分も、保育の部分もある事を認めなければならぬミ思ふのであります。ですから、例へば保育案を、私は誘導保育案を本體ミするミ考へ

ます。所謂はめこみ幼稚園、モザイク幼稚園は私は強く反對致しましたが、然しこの生きた幼稚園の中に與へられた誘導保育案ミ云ふものが、凡ゆる幼児の生活を百パーセントの意味に於て處置して行くか。之は、私はそこ迄の事を要求して居りませぬ。方法なしじややれないし、方法を出せば束縛して了ふ爲、幼稚園の眞諦には反するし、そこで與へて居るものを百取る事もあれば七十取る事もあり、六十取る事もあり、或はその誘導保育案を其通りに一日中して行く事もあり、何もしいなければ何ミなく影響を受けて居る事もあり、或は今日は受けぬが數日の中に何ミなく受けるミ云ふ子供もありませう。

つまり誘導保育案そのものが、その程度に於きまして極めて廣やかなものを持つて居るのであります。誘導保育が與へられたから其通りにして行く。幼児がついて來るか來ないかは別問題であります。

其點は一つ、すうつミ眞諦なのであります、偉さうな事を言ひましたが、緩やかなものにお汲み取り願ひ度い。

之で私のお話を終ります。(終り) (文責在編輯部)

日本幼稚園協會編輯 幼兒の教育

會長 東京女子高等師範學校長 吉岡 郷甫
 主幹 東京女子高等師範學校教授 倉橋 惣三
 附屬幼稚園主事 倉橋 惣三

日本幼稚園協會規則

第一條 本會ハ幼児教育ノ改良發達ヲ圖ルヲ以テ目的トス

第二條 本會ハ日本幼稚園協會ト稱ス

第三條 會員タラントスルモノハ幼稚園ニ關係アルモノ又ハ幼児教育ニ篤志ナルモノトス

第四條 會員ハ會費トシテ一ヶ月金參拾五錢ヲ齎出スヘシ、會員ハ無料ニテ本會發行雜誌ノ配布ヲ受ケ又本會ノ事業ニ關シ諸種ノ便宜ヲ受ケ

第五條 令聞名望アル人ニシテ本會ノ事業ニ裨益アリト認ムルトキハ特ニ請ヒテ客員トナスコトアルヘシ

第六條 幼稚園ニ關係アルモノニシテ本會ノ事業ノ爲ニ特ニ盡力ヲ與ヘラルモノノニ請ヒテ地方委員トナスコトアルヘシ

第七條 本會ハ毎年一回總會ヲ開ク。但場合ニヨリ臨時休會スルコトヲ得

第八條 本會ハ左ノ事業ヲ行フ
 一、幼児教育ニ關スル研究及ヒ調査
 一、幼児教育ニ關スル講演會及ヒ講習會ノ開催

一、雜誌發行(毎月一回)
 一、幼児教育ニ關スル圖書刊行
 一、保姆就職及招聘ニ關スル仲介
 一、其他本會ノ目的ニ裨益アリト認メタル事件

第九條 本會ニ左ノ役員ヲ置ク
 會長 一名 會務ヲ總理ス
 主幹 一名 會長ヲ補佐シテ會務ヲ掌理ス
 幹事 若干名 會長ノ指揮ヲ受ケ會務ヲ分掌ス
 幹事 若干名 會長ノ指揮ヲ受ケ會務ヲ分掌ス
 評議員 若干名 重要ナル事件ニ關シ會長ノ諮詢ニ應ス

第十條 會長ハ客員中ヨリ推薦スルモノトス

第十一條 主幹 幹事 評議員ハ二ヶ年ヲ期シテ會長ヨリ推舉スルモノトス

第十二條 本會ハ必要ニ應シ特ニ委員ヲ設ケ又ハ書記ヲ雇入ル、コトアルヘシ

第十三條 本規則ハ總會出席會員ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ得ルニアラサレハ變更スルコトヲ得ス

定價

一ヶ月分	送金參拾五錢	特等面一頁	二等面一頁
半ヶ年分	送金貳圓拾錢	一等面一頁	金貳拾圓
一ヶ年分	送金四圓貳拾錢	金貳拾五圓	御斷
拾ヶ年分	送金貳拾圓	神田區駿河臺一丁目田	廣告社に御申込下さい

(外國行郵税ハ一部金拾貳錢ノ割にて御拂込下さい)
 昭和八年九月十二日印刷納本
 昭和八年九月十五日發行

幼兒の教育 第三十三卷 第八・九號

不許複製 禁止轉載

編輯者 倉橋 惣三
 發行所 東京女子高等師範學校附屬幼稚園內
 印刷者 柴山 則常
 印刷所 東京市本郷區駒込林町百七十二番地
 會社 杏林 舍

發行所 日本幼稚園協會

東京女子高等師範學校附屬幼稚園內
 振替口座東京一七二六六番

注 文 規 定

- 一、本誌御注文の方は凡て前金(郵税共)で願ひます。(郵券代用の場合は總て一割増)
- 一、御送金の場合合はるべく振替貯金で振替口座東京一七二六六番日本幼稚園協會宛に願ひます。
- 一、送金の筋には第何巻第何月號より第何月號迄と明記せられたし。
- 一、本誌の代金に對しては別に領收證を差出しません。特に御入用の方は往復はがきで御申越を願ひます。
- 一、會費切又は前金切の際にはその最終發送の雜誌の帶封に「前金切」の印章を押捺いたしますから其節は早速御送金を願ひます。
- 一、本誌の見本御入用の場合には前金參拾五錢發送を願ひます。

奈良女子高等師範
學校教諭兼助教

長田

博先生新著

四六版二百餘頁
插繪多數入美本
定價一圓八十錢
送料十二錢

幼稚園 小學校 說話遊戯

特色
 一、低學年新體育の說話遊戯は、兒童の見た物や動物や事柄を、必要に應じて動作化さしめる遊戯。
 二、劇的發表能力向上に常識養成。
 三、外國事例に基き新に研究さる。低學年體育上身體各部に好影響を與へ、自由な形の發表能力を養ふ。
 讀めばすぐ分る實際篇を四十篇載せ、誰にもすぐ實施出来る様にす。

【次 目 容 内】
第一篇 說話遊戯の目的 (一) 遊園地に遊ぶ (二) 春が來る (三) 郊外へ遠足 (四) カウボーイ (五) 星條旗を作る (六) 玩具屋の店 (七) 飛行機 (八) 花摘み (九) 春の遊び (一〇) 遊園地の平日 (一一) 自來水 (一二) 百姓さんの日々の仕事 (一三) 五月姫 (一四) 乗りもの (一五) 掃除 (一六) 海岸で遊ぶ (一七) お洗濯 (一八) 動物の眞似 (一九) 鐘物 (二〇) 海岸にある風車 (二一) 海水浴に行く (二二) プール (二三) 木の精 (二四) 山遊び (二五) 船出 (二六) 小屋を建てる (二七) 材を伐り出す (二八) 火事 (二九) 風 (三〇) 西洋のお宝 (三一) クリスマス (三二) クリスマス (三三) サンタマスの玩具 (三四) 露合戦 (三五) 冬の遊び (三六) 職業の色々 (三七) 陸上競技 (三八) 兵隊 (三九) 武道 (四〇) スポーツの色々

版三十
 奈良女高師教授 森川正雄 先生著 價三〇〇 送〇・六
幼稚園の理論及實際

版五
 奈良女高師教授 森川正雄 先生著 價二〇〇 送〇・三
幼稚園の經營

版五
 大阪家なき幼稚園長 飯間橋詰良一先生著 價二〇〇 送〇・六
家なき幼稚園の實際

版五
 奈良女高師教授 森川正雄 先生著 價三〇〇 送〇・六
保育用教育

版五
 奈良女高師教授 森川正雄 先生著 價二〇〇 送〇・三
託兒園所教育

版六
 東洋大學教授 關寛之先生著 價二〇〇 送〇・六
高等兒童心理學

發兌 社會資合式株書圖洋東 京阪 東大

番七三〇一京東替振・地番〇一町保神表・區田神市京東
 番六五五九三阪大替振・地番八二目丁一町寺堂安内・區南市阪大

新涼の今期に

園外保育用品の御用意

携帶黑板——幼兒自身が適宜の所へ持ち運び自由な折疊式黑板。
一組 金十五圓

折疊椅子——鋼鐵骨に丈夫な布を張つた折たゝみ自在の椅子。
一脚 金一圓二十錢

折疊車子——堅牢な蝶番で折疊み自由、長さ四尺幅二尺高さ一尺五寸、二脚一組。
一組 金七圓

トロツコ——車、心棒とも鐵製堅牢、子供に應用の途廣し。
一臺 金三圓

お伽車——折疊式構造の輕便な車、面白い動物の形をした愉快な車、お辨當や保育の品々を積んで園外に子供が自由に引き出すもの、應用多端。
一臺 金二十五圓

押車——幼兒が自由に押し歩く運搬車、これも様々に應用されます。
一臺 金三圓五十錢



株式會社 三井物産

本店 東京・田中・小川路・電話九三(33)番七二八
支店 大阪・東區平野町三番・電話本局一三八番

昭和四年五月十五日第三種郵便物認可
(毎月一回十五日發行)

昭和八年九月十二日印刷納本
昭和八年九月十五日發行

臨時定價七拾錢